

● 特集 ボランティアセンター設立 20周年

阪神・淡路大震災を契機として1998年11月に誕生したボランティアセンター。20周年の節目にさまざまな企画が実施されました。卒業生と、初代センター長と、地域の皆さんと、教職員と、そして学生同士といった多彩な交流から得られた知見はこれからのボラセンを形作っていくうえでの大きなヒントとなりました。

(詳しくはP5)



● 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム



ボランティア実践と、大学の学びを融合する全学的な取り組みは3年目を迎え、2016年度に登録した学生(3年生)が今年度認証を受けます。上級生の取り組みは下級生の道しるべとなっています。

(詳しくはP31)

1日社会貢献プログラム

● 1 Day for Others

2016、2017年度に引き続き、春学期・秋学期の2期制で実施。延べ711名の明学生が参加しました。新規のプログラムには学生の考案から発したものもあり、学生目線のプログラムが実施されました。

(詳しくはP35)



● 「Do for Smile@ 東日本」 プロジェクト

明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム / 陸前高田復興支援プログラム

東日本大震災復興支援活動。震災発生直後から延べ約 2,000 名の学生が現地で活動しています。

震災を知らない世代が増えていく中、各プログラムが転換期を迎え、それぞれの役割を考えながら活動する 1 年となりました。

(詳しくは P40)



● 明学レッドクロス



日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップのもと、活動しています。

白金キャンパスでの献血呼びかけや近隣地域の防災炊き出し訓練への参加、横浜図書館展示などの活動を継続することができました。

また、血液センター見学では献血について学びました。学習したことを行動に還元していきます。

(詳しくは P59)

● 地域活動

横浜地域活動

今年度はセクションメンバーが約 40 人と大規模であることを生かし、活動を行うことができました。

例年参加させていただいている地域のお祭りでは、子どもたちだけでなく、保護者の方も楽しめるようなブースを企画し活動の幅を広げることもできました。

(詳しくは P65)



白金地域活動

キャンパス近隣の地域で、地域の皆さんと一緒に地域活性化に取り組んでいます。

今年度は、学生たちにキャンパス周辺の情報を提供し、少しでも白金の地域を知ってもらいたいと、マップを作成しました。

(詳しくは P72)

● 海外プログラム事業部



「Think globally, step forward ～世界を変える小さな一歩～」を理念に「ジェンダー」「食糧」「格差」をテーマに活動。「明学国際ガールズ・ウィーク」を一から企画し、横浜キャンパスでの「ピンクレモネード販売」は5日間で574杯を売り上げ、世界の女の子の問題を広く学内に知ってもらう機会となりました。

(詳しくは P77)

● MG パール

ボルネオ島に生息するオランウータンなどの希少動物を守るため、現地産の淡水パールでアクセサリーを手作りし、売り上げの半分を自然保護団体に寄付する活動を続けています。

特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンの定例会に出席し現地の状況を学ぶなど、日々の活動を積極的に行いました。

(詳しくは P81)



● 学生事務局



ボランティア活動をしている学生たちをつなぐことを目的として、今年度は三つのイベントを企画運営。他大学との交流も行うなど、活動全体の活性化に取り組みました。

ボランティアセンター創設 20 周年を記念し企画・実施した「学生ボランティアフェス」では、参加者全員でボランティアについて考える機会を作ることができました。

(詳しくは P84)

● ボランティアファンド学生チャレンジ賞

本学学生のボランティア精神を支援し、社会に貢献する人材と活動を育てるための奨励金、通称「ボラチャレ」。大学公式グッズの購入によりグッズ価格の1割が積み立てられる「明治学院大学ボランティアファンド」を原資としています。

受賞団体の企画は1年間にわたり実践され、本報告書ではジャンプアップ部門3企画の活動が報告されています。

(詳しくは P90)



目次

明治学院大学 ボランティアセンター報告書 第15号 2018

学長挨拶	1
ボランティアセンター長挨拶	2

特集

ボランティアセンター設立20周年	5
------------------------	---

I. 2018年度活動報告

明治学院大学ボランティアセンター 学生メンバー組織図	29
2018年度ボランティアセンター行事一覧	30
1 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム	31
2 1 Day for Others (1日社会貢献プログラム)	35
3 「Do for Smile@東日本」プロジェクト (東日本大震災復興支援)	40
3.1 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム	40
戸塚まつり	
大槌町文化交流センター (おしゃっち) オープン記念イベント	
スタディツアー	
サマースクール (コラボ・スクール、わんぱく広場)	
ふるさと科	
きりきりじゅく	
吉里吉里大運動会	
わんぱく広場 (11月)	
吉里吉里マップ	
3.2 陸前高田復興支援プログラム	48
防災体験学習施設「そなエリア東京」見学	
スタディツアー	
きらりんきつず「夕涼み会」	
「ファミリーフェス2018」	
けんか七夕	
うごく七夕	
たかた子どもキャンパス「夏の思い出自然体験 (米崎の海編)」	
「ペットボトルいかだチャレンジ」	
「稲刈り体験」	
「自主企画 体を動かす遊び」	
復興支援大学校	
3.3 大学間連携災害ボランティアネットワーク	58
仙台七夕まつり	
4 明学レッドクロス (日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ)	59
スマイルチルドレンプロジェクト	
平成30年全国赤十字大会	
東京都赤十字血液センター見学	
港区高松地区防災炊き出し訓練	
『RCV』(赤十字ボランティア情報誌) 編集委員	

5	地域活動（キャンパス周辺地域での活動）	65
5.1	横浜地域活動	65
	とっとの芽（戸塚区地域子育て支援拠点）	
	戸塚まつり	
	ふれあいフリーマーケット	
	小田急分譲地自治会夏祭り	
	とつか宿場まつり	
	オータムフェスタ 2018	
5.2	白金地域活動	72
	ふれあい運動会	
	ワンパクまつり	
	学校周辺マップ「白金食さんぽ」の作成	
6	海外プログラム事業部（国際協力、国際支援）	77
	ペットボトルキャップ回収	
	明学国際ガールズ・ウィーク&書き損じはがき・未使用はがき回収	
	学生による自主活動（タイボランティアツアー）	
7	MG パール（環境）	81
	戸塚まつり	
	夏合宿	
8	学生事務局	84
	横浜キャンパス防災訓練	
	日本社会事業大学との交流	
	20周年学生イベント（学生ボランティアフェス）	
	2018年度ボランティアセンター活動報告会	
9	国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）	88
10	ボランティアファンド学生チャレンジ賞（育成・支援プログラム）	90
10.1	ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2017 活動報告	90
10.2	ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2018 採択団体一覧	95
11	Gakuvo Style Fund（育成・支援プログラム）	96
II. 新入生アンケート		
	新入生のボランティア意識とセンターの課題	99
III. ボランティアセンター資料		
	ボランティアセンターの活動にご協力くださった皆さま	105
	2018年度マスコミ報道一覧	105
	各委員一覧	106
	明治学院大学ボランティアセンター規程	107

学長挨拶 学びとボランティア活動

ボランティア活動の範囲は拡大し、活動内容も大きく変容してきていると思います。それに参加する人々は、多様な活動から得られる結果とともに、仲間や当事者との交流のなかでの「学び」にも充実感の一端を得ているのではないのでしょうか。本学の学生たちがボランティア先で多くの「学び」を得ています。この「学び」を体系化し、教室内の学びとその成果をインテグレートするプログラムが2016年度にスタートした「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」です。このプログラムは、実際のボランティア活動、教養教育センターや各学部・学科が提供する科目、そしてボランティア活動と関連授業を結び付けるインテグレーション講座とで構成されています。本年度はその3年目にあたり着実な進捗をご報告することができます。

当事者の声からの「学び」は多様です。私も、ボランティア活動ではありませんが、親と離れて生活する子どものための児童養護施設に第三者評価を導入するプロジェクト研究の過程で、子どもたちの声を聴く方法として、調査票によるアンケート調査と直接インタビュー調査との比較をするために、試験的にある児童養護施設で生活する子どもたち何人かにインタビューしたことがあります。そのなかで学年の異なる何人かの子どもと話したのですが、一人の高校生とは、学年も最も上でしたので、施設生活の評価をたずねた後に、調査方法の選択のためという意味もあって協力してもらったことを話し、感想を求めたところ、「おじさん、初対面の他人に本音を話すわけがないでしょう」と切り返されました。最終的に第三者評価で当事者の声を聴く方法は無記名の調査票記入方式が採用されました。

「学び」は、教室のなかの学びに加えて、人と人との交流から得られることも多いと思います。それを活かし、声を聴かせてくれた人たちとともに新たな発信をしていくことも「学び」と成果をもたらしてくれるでしょう。

また、活動とともにする仲間からの「学び」も重要です。白金キャンパスのボランティアセンターは10号館に移動し、新たな活動スペースを得ることができました。学生とセンター職員、ボランティアコーディネーターとの交流もよりよい環境が整えられました。学生間の交流も活発になることが期待されます。このような交流でも、「気づき」と「学び」が存在します。充実した学生生活には、充実したキャンパスライフも必要不可欠です。充実感の達成は、スポーツ活動のみならず、ボランティアとそれを通じた学びからも得られるものです。

活動先や活動中の「学び」を関連授業と結び付け自己の内部でインテグレートしていく作業は、自分自身のキャリアを検討していく際に重要です。ボランティア活動を「学生時代の良い思い出」だけにしたために、活動をまとめ、客観的学修を踏まえて発信することは、体験を体系的に内在化し、定着していくことになるはずで

本学はボランティアセンターの活動を通じてボランティア活動の契機を提供し、継続をサポートし、ボランティア先や学生間の交流を活性化させていきたいと考えています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

2019年3月

学長 松原康雄

ボランティアセンター長挨拶 ボランティアと『他者への貢献 “Do for Others”』

今年もまた、ボランティアセンター活動報告書をお届けできることを嬉しく思います。

この1年何らかの形でボランティアセンターに関わって活動した学生は延べ人数で1,700名を超えています。本報告書には、例年同様にそれらの学生の試行錯誤と成長の等身大の記録があります。合宿・ミーティングなどさまざまな機会に「活動の目的を問い直し」ながら、「自分たちで何かを作り上げることの難しさ」と「作り上げる達成感を改めて学び」、「活動から得た学びを積極的に広めたい」と願い、新たな繋がりを得て逞しく成長する学生たち。8年目を迎えた「Do for Smile@東日本」プロジェクトにおいては、復興の意味の変化や「地域の人々に寄り添い笑顔の一助になれる活動」の大切さに気づき、改めて「私たちが地域のために何ができるか」視野を広げました。

ボランティアセンターは1995年の阪神・淡路大震災をきっかけとし、明治学院大学の教育理念『他者への貢献 “Do for Others”』を具現化するものとして設立されました。ここで、ボランティアを「他者への貢献」と同義として捉えるならば、「教育理念『他者への貢献』を具現化するための「他者への貢献」は単なるトートロジー（同語反復）に陥ってしまいます。しかし、本当にそうなのでしょうか。

「ボランティアって何なんですか?」。今年3月、センターで熱心に活動している学生にまっすぐ問いかけられました。今後の活動について話し合っていた時です。センター設立20年の学生企画『ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～』でも、学生たちは「なぜボランティアをするのか」「ボランティア活動とは?」など、原点に還り、改めて大学ボランティアの意味を問い直しました。仲間たちと話し合いながら、あるいは活動しながらふつふつと湧いてきた、真摯な、そしてとても本質的で大切な疑問です。センタースタッフもまた、同じ問いを学生たちとともに問い続けていきたいと考えています。本報告書に記された学生たちの活動が、思いが、教育理念である『他者への貢献』を学ぶものとなり得ているかどうか、どうか忌憚のないご意見をいただきたくお願い申し上げます。

最後に今後の課題について2つ述べます。本学では毎年多くの新生が「大学時代にボランティアに参加したい」と答えています(2018年度入学時アンケート:75.3%)。ボランティアセンターではこのニーズに応え、ボランティアとは何なのかを社会貢献活動を自然に体験する中で考えるきっかけとしてほしいと考え、1日社会貢献プログラム“1 Day for Others”を提供してきました。このプログラムの参加者は今年度も700名を超え、アンケートでは高い満足度が示されています。しかし一方、授業時間との関係などでこのプログラムに参加していない学生も数多く存在しています。加えてアンケートでは、さまざまなプログラムについて、「情報を確認してから参加したい」という自律的な傾向の高まりが示されています。自発性・自律性はボランティア活動を行ううえで大切な要素です。これらの学生たちのニーズに柔軟に応えるプログラムの設計が喫緊の課題であると言えます。

大学は言うまでもなく教育を第一義とする機関です。アンケートでは、所属する学部学科と関連する領域のボランティア活動への興味の高さが示されています。このニーズに応え得るものとして2016年度に始まった全学共通教育プログラム、『明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム』では、今年度初めて12名の学生が認証されました。彼らの学びの足跡もまたセンターに新たな課題と可能性を示してくれるものと言えます。来年度に完成年度を迎えるこのプログラムを、より深い学生たちの学びに結びつけていくことも今後に向けて重要な課題と考えています。

2019年3月

ボランティアセンター長 杉山恵理子

特 集

特集 ボランティアセンター設立 20 周年

本学では創設者 J.C.ヘボンが生涯貫いた精神 “Do for Others” を受け継ぎ、大学公認・非公認、団体・個人を問わずボランティアの意思が存在していたが、ボランティアセンターの設立のきっかけとなったのは、1995 年に発生した阪神・淡路大震災である。このとき、45 人の学生が「ボランティア団」を結成し支援活動に自発的に参加した。この行動がきっかけとなり、1998 年 11 月にまずは横浜キャンパスにボランティアセンターが開設され、紆余曲折を経て設立 20 周年を迎えた。大学組織の一つとして存在するボランティアセンターの活動を、節目の年にさまざまな形で振り返るとともに、行く末を見据えたメッセージを学内外に向けて発信した。

関連行事一覧

○卒業生と現役学生による対談

収録日／会場：2018 年 7 月 27 日（金）／白金 ボランティアセンター

白金通信 496 号（2018 年 10 月号）の特集企画として、センター設立前に阪神・淡路大震災の支援に駆けつけた卒業生とセンター学生メンバーである現役学生による対談を行った。

○パネル展「明治学院大学の学生ボランティア」

開催日／会場：2018 年 9 月 20 日（木）～10 月 20 日（土）／横浜 クララ・ラウンジ

2018 年 11 月 5 日（月）～11 月 21 日（水）／白金 パレットゾーン

ボランティアセンター学生セクションに加え、大学公認団体、実行委員会、およびこれらに所属しない学生団体が “Do for Others” に関わる活動をパネルで紹介した。1 日社会貢献プログラム 1 Day for Others パネル展示も同時開催。

○学生ボランティアフェス

開催日／会場：2018 年 10 月 20 日（土）／横浜 クララ・ラウンジ、911 教室

1 部) 学生によるパネル展示&ブース出展

上述したパネルの展示とともに、ブースで活動紹介、活動地域の名産品を紹介した。

2 部) 公開講座「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア -」（共催：教養教育センター附属研究所）

初代大学ボランティアセンター長の加山久夫名誉教授にセンター設立までの経緯、本学卒業生である賀川豊彦の活動が明治学院に与えた影響など、社会背景を交えてお話しいただいた。

3 部) トークセッション「ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」

参加者から受付時に募った「ボランティア活動とは?」「恋愛」等のテーマで議論した。

○朝日教育会議（主催：朝日新聞社、共催：明治学院大学）

開催日／会場：2018 年 12 月 8 日（土）／有楽町朝日ホール

15 大学と朝日新聞社によるシンポジウムとして、高橋源一郎教授による基調講演「『3・11』と大学」、高橋教授とゼミ OG によるトークセッション「ボランティア、って何だっけ?」、パネルディスカッションでは「今、求められる他者とのつながりとは～ “Do for Others（他者への貢献）” の実現のかたちを考える～」をテーマに 4 人のパネラーが “Do for Others” について語った（猪瀬センター長補佐が登壇）。

○20 周年記念冊子『ボランティアセンター 20 年のあゆみ』の発行

20 周年の節目を迎えたボランティアセンターが、学年外の共催を受けながら過去の活動を振り返るとともに、周年行事として行った今年度の活動の軌跡を残すために冊子化した。

設立 20 周年に寄せて

「第三の道」へ

阪神・淡路大震災は大きな被害をもたらしたが、実に多くの日本人が大惨事を目のあたりにして、自分もなにかしたいという、いてもたってもいられない思いを駆り立てました。これはまさしくボランティアの精神的原点であり、この年 1995 年が「ボランティア元年」と呼ばれるようになったのは頷けます。その社会的うねりのなかで、明治学院ボランティアセンターも誕生しました。

阪神・淡路大震災はまた、多くの市民を立ち上がらせ、いわば「市民立法」のかたちで、1998 年、「特定非営利活動促進法」（NPO 法）をこの国に成立させる契機ともなりました。国会議員も超党派的にこれを支援しました。あれから 20 年、いまでは NPO 法人は 6 万を超えています。貧困、家庭崩壊、障がい者、高齢化、地域福祉、災害、環境、国際交流等々、多岐にわたる NPO の働きには実に目覚ましいものがあり、疲弊化しつつあるわが国の社会形成に期待されるどころ大です。そこには、長い歴史と国際的な広がりをもって大きく発展してきた協同組合もまた位置づけられます。協同組合は経済活動をしてはいても、助け合いを目的とする非営利組織にほかなりません。

国や自治体の公的役割がますます重要になってきており、他方、企業もまた社会的貢献がこれまでになく期待されるようになってきました。これらとともに、いわば「第三の道」としてのボランタリー・アソシエーションの社会的役割は今後ますます大きなものになってゆくことでしょう。しかし、現実には、大半の NPO は財政的に困難な状況にあり、専従スタッフを擁することすら困難な場合が少なくありません。明治学院大学ボランティアセンターは大学ボランティアセンターとして、広く教職員・学生に呼びかけて、「第三の道」についてともに考える場づくりをしていただきたいものです。

私は、昨秋、明治学院大学公開講座において、「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア-」と題して、ボランティアセンター 20 周年記念講演をさせていただきました。その際、なぜ賀川が社会改造のために協同組合運動を重視し、これを献身的に実践したかについて述べました。賀川は早くから「第三の道」への先見性をもって、共益組織としての協同組合が果たすべき社会的役割や使命を訴えたのでした。しかし、この点について、NPO 関係者の理解は乏しいし、協同組合関係者の自覚も不十分であるように思われます。では、大学関係者はどうでしょうか。国や自治体および企業とは別に、しかしそれらとも手を携えて、これからますます大きく広がってゆくであろう「第三の道」（第三セクター）の可能性を学際的に探究していただきたいと願っています。それは新たな国家や世界を展望する壮大なヴィジョンであるとともに、ごく身近な人びとのくらしと結びついた、楽しい知的実践的チャレンジになるにちがいないと思います。



(明治学院大学名誉教授/ボランティアセンター初代センター長 加山久夫)

ボランティアセンター20周年を迎え

20周年を迎えるにあたり、ボランティアセンターでは、「学生企画」、「パネル展示」、「ボランティアセンターに関わってきた教職員・卒業生聞き取り」等の活動を行った。

学生企画については、2018年5月に20周年企画実行委員会が立ち上がり、ボランティアセンターの「学生事務局」に所属する学生や、ポートヘボン（学内イントラネット）等での情報をみて応募した学生が参加した。以後、定期的にボランティアセンターの教職員とも会議の場を持ちながら、何のために、何をするのか議論をしていった。その結果、広く一般から参加者を募るという形ではなく、今明治学院大学内でボランティアに関わる学生たちが集い、自分たちが抱えている課題や悩みを自由に語りつつ、ボランティア活動の意味を探っていく方向が見出されていった。そして、10月20日に横浜キャンパスで開催した「ボランティアセンター20周年記念イベント」が企画され、ボランティアセンターの学生セッションだけでなく、学内のボランティアサークル、留学生グループ、MGオリムピック・パラリンピックプロジェクトなどの学生が参加したブース展示、および実行委員会が企画した「学生ボランティアフェス：ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」を実施した。ボランティアセンターに関わる教職員に加えて、本学卒業生も参加し、活発な交流・議論が展開された。

これと平行し、「ボランティアセンター20周年記念 パネル展」を横浜と白金の両キャンパスで行った。狭義のボランティア団体に留まらず、スポーツや文化活動を行う課外活動団体（クラブ、サークル）が多数参加し活動を紹介するとともに、1 Day for Others で実施されているプログラムの内容が展示され、明治学院大学生がボランティア・スピリッツをもって行う活動の幅広さを学内で共有することができた。その内容は本報告書に掲載されたものをご覧いただきたい。

ボランティアセンターに関わってきた教職員、卒業生への聞き取りは、広報課や教養教育センター付属研究所などの協力を受けながら実施した。まず10月20日に開催した「20周年記念イベント」では、ボランティアセンターの初代センター長である加山久夫先生（本学名誉教授）に「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア-」と題して講演いただいた。20周年記念イベントに参加した学生も参加し、明治学院のボランティアの先駆者といえる賀川豊彦の精神や、阪神・淡路大震災の際に賀川豊彦記念館（神戸市）を拠点に活動した明治学院大学学生の活動、その延長でボランティアセンターが生まれるまでの過程について学びを深めることができた。加山先生の講演は、教養教育センター付属研究所が企画した2018年度明治学院大学公開講座（横浜キャンパス）の一回としても位置づけられ、地域住民の方も多数参加していた。また、阪神・淡路大震災におけるボランティア活動については、当時その中心として活動した卒業生に対する聞き取りを、ボランティアセンターに関わる教職員、学生メンバーとともに行った。この内容については、広報課の協力のもと『白金通信』に掲載されるとともに、別にまとめた『ボランティアセンター20年のあゆみ』にも聞き取り記録が掲載された。

この一年の実践と議論を通じて、ボランティアセンターは、今ボランティアセンターにかかわる学生だけでなく、まだボランティアセンターにかかわっていない学生、教職員に対しても、彼ら、彼女らがボランティア・スピリッツをもって展開する活動をサポートして行くという方向性が明確になったと考える。2019年度以降、それがどのように可能なのか、そして激動する時代に対して如何に対応できるものになるのか経験と知見を深めていきたい。

（ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平）

ボランティアセンター設立 20 周年記念パネル展示参加団体紹介



明治学院大学の
学生ボランティア

Meiji Gakuin University
Volunteer Center

明治学院大学の学生ボランティアは、
ボランティアセンターの学生メンバーによる活動を中心に、
課外活動団体(サークル)による活動も多数実施されていることが特徴です。
今回はボランティアセンターが把握している活動ではありますが、
各団体の活動を紹介するパネルを作ってみました。
明学生によるボランティアは、他にも行われていると思いますが、
まずその一端をご覧いただければ幸いです。

ボランティアセンター 設立20周年記念パネル展示

「明治学院大学の学生ボランティア」

ボランティアセンターは本年11月に設立20周年を迎えます。

阪神・淡路大震災時の学生たちの自発的な支援活動が誕生のきっかけとなったボランティアセンター。
これまで学生のさまざまな自主的な活動を応援してきました。

また、教育理念“Do for Others (他者への貢献)”の精神は、ボランティアセンターで活動する学生セクションだけでなく、多くのクラブ・サークルに浸透し、多種多様な社会貢献活動が展開されてきています。

この20周年を機に、各団体の活動紹介パネルが一同に会することとなりました。
どうぞ明治学院大学ボランティアの息吹を感じてください。

ボランティアセンター

会 期 2018年11月5日(月)～11月21日(水)

参加団体(順不同)

■クラブ、サークル■
サッカー部、アメリカンフットボール部、ラクロス部男子、児童教育研究会、応援団、落語研究会、愛好会協議会、OPENROOM、ハビタットMGU、手話サークルぼっけ、JUNKO Association、キャンパスコンシェルジュ、戸塚まつり準備会、ハロプロ研究会、MMM(みなとメディアミュージアム)、僕らの夏休みProject、MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会

■ボランティアセンター学生セクション■
横浜地域活動、白金地域活動、海外プログラム事業部、MGパール、明学レッドクロス、「Do For Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム、「Do For Smile@東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム

<参加団体>

ボランティアセンター学生セクション

- ・横浜地域活動
- ・白金地域活動
- ・海外プログラム事業部
- ・MGパール
- ・明学レッドクロス
- ・「Do for Smile@東日本」プロジェクト
明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム
- ・「Do for Smile@東日本」プロジェクト
陸前高田復興支援プログラム

体育会

- ・アメリカンフットボール部
- ・サッカー部
- ・ラクロス部男子

文化団体連合会

- ・児童教育研究会

応援団

- ・応援団

愛好会

- ・愛好会協議会
- ・OPENROOM
- ・ハビタットMGU
- ・落語研究会

実行委員会

- ・戸塚まつり準備会

任意団体

- ・手話サークルぼっけ
- ・JUNKO Association

その他

- ・MMM(みなとメディアミュージアム)
- ・MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会
- ・キャンパスコンシェルジュ
- ・ハロプロ研究会
- ・僕らの夏休み Project

● 横浜地域活動

横浜地域活動

戸塚区を拠点に地域で開催されるイベントの活性化を目指しています！

6月

春のふれあいフリーマーケット

戸塚駅周辺の戸塚原宿の交差点の近くで行います。7月までは子どもたちを対象にしたブースを出します。暑い時期のため、水鉄砲など水を使ったブースも出し、涼しく楽しく活動することができました！子ども達の元気いっしょな姿も見られます！そして、戸塚区のマスコットキャラクターのウナシーにもなれます！



7月

夏祭り・盆踊り

横浜キャンパス近くの小田急分譲地のお祭りに参加します。盆踊りは、地域の方々に教えてもらい、本番に備えて練習します。練習は地域の方や子どもたちと一緒に踊ります。地域の方とお話することができ、とても楽しいです！当日は浴衣を着て地域の方と一緒に踊ったり、屋台のお手伝いを行います。



9月

宿場祭り

戸塚駅前で行います。江戸時代に戸塚が東海道の宿場町だったことにちなんで開催されるお祭りです。多くのブースを出すため、準備は大変ですが、子ども達も元気をもらえます。また、2年生にとって最後のイベントのため、思い出深いものとなります。秋には1年生も活動に慣れ、積極的に子ども達とコミュニケーションを取れるようになります！



10月

秋のふれあいフリーマーケット

6月と同様に戸塚駅周辺の戸塚原宿の交差点の近くで行います。肌寒い季節ですが、たくさん子ども達がブースに来てくれて、私たち子ども達も元気をもらえます。また、2年生にとって最後のイベントのため、思い出深いものとなります。横浜地域活動は活動期間が短いことも、活動のしやすさの一つです。



12月

防災カフェまつり

昨年、横浜地域活動での新たな活動として初めて実施しました。横浜市民防災センターで行います。クリスマスが近いため、防災とクリスマスがコラボしたブースを出しました。そのため、子ども達も楽しく防災について学んでもらえたと思います。また、学生が消防局の方と事前に会議を行えるため、よい社会経験にもなりました！



月に1回

とっとの芽

東戸塚駅の近くにある子育て支援拠点の施設のとっとの芽に月に一回ボランティアに行っています。主に子ども達と遊んだり、絵本の読み聞かせをして楽しんだり活動しています。一緒に未就学児の子どもと遊び、保護者の方との交流会をするなかで子育ての大変さや子育て支援の必要性を感じています。



年間通して

Totsuka Garden

戸塚ガーデンは2017年4月、ボランティアセンターの学生メンバーの5名の企画によりスタートしました。多くの人に野菜作りを通して「食」をもっと身近に感じてもらうことを目的としています。ボランティアセンターの緑の館スペースに夏はパプリカ、トマト、ナスを、冬はほうろく草やラヂッシュなどを栽培しました。土を耕すことから収穫、できた野菜の調理・試食まで楽しみながら経験しています！



横浜地域活動の詳細

準備もイベント当日も楽しい！

学内活動日：週に1度 お昼休み
 学外活動：1年に約5つのイベントと月に一度のとっとの芽(自由参加)、戸塚ガーデン
 魅力：お年寄りの方から子どもまで、様々な世代の方と交流できる！
 子どもたちの笑顔が見れる！地域の活性化に貢献できる！友達が増える！
 自分の好きなペースで活動に参加できる！（とっとのメンバーがサポートしています）

● 白金地域活動

白金地域活動

ふれあい運動会

白金キャンパスの近くにある白金小学校で、ふれあい運動会のお手伝いを行いました。ふれあい運動会とは、幅広い世代の地域の方々が参加する運動会です。地域の方々が楽しめるように、自分たちも楽しみながらお手伝いしました。



黄色のスタッフジャンパーを着て、運営スタッフの方と盛り上げました。

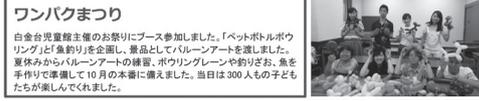
NEC 意見交換会

チャンスフォー・チルドレンの方にお話を伺い、子ども達の貧困の現状や問題点を知り、その上で自分達にどのようなことができるのかについて NEC の方々と一緒に意見を交換しながら考え、理解を深めました。



ワンパクまつり

白金台児童館主催のお祭りブースに参加しました。「ベイトボールボウリング」が魚釣り企画し、景品としてバルーンアートを選しました。夏休みからバルーンアートの練習、ボウリング練習や釣りざお、魚を手作りで準備して10月の本番に備えました。当日は300人の子どもたちが楽しんでくれました。



ピンが振れやすいようにレーンのサイズやアーチを工夫、ピンの重さも念入りに調整しました。

子ども達に大きなたまごをプレゼントして、お魚の釣り針で釣りおやつ。

ミーティング

毎週1回お昼休みに白金・横浜合同テレビ会議を行っています。活動の振り返りや意見を出し合い、情報共有できるように心がけています。放課後ミーティングも月に一度のペースで行っています。



年間スケジュール

4月 ふれあい運動会 (場所: 白金小学校)

白金地域の全町内会、自治会と白金小学校教員・PTA の方々が協力して、毎年行われている。セクションメンバーは、運動会の準備、司会、ラジオ体操の指導、競技のデモンストレーション、後片付けなどを行う。運動会後には、運営に携わった方々との懇親会がある。

6~8月 マップ作り

白金キャンパス周辺を明学生に知ってもらう目的で、マップを作成。セクションメンバー自ら歩いて学校周辺から最寄駅までを散策し、地域の知見を広めると共に、マップ掲載の材料を集める。

8~9月 ワンパクまつり準備

秋に目黒駅近くのどんぐり公園で行われる「ワンパクまつり」に企画から加わりたく白金台児童館にお願いし、子ども向けブース用にテント2つを任されている。夏休み期間を利用し、主に白金キャンパスにて、備品作成および景品にするバルーンアートの練習を行う。また、白金台児童館での学童補助の活動も予定している。

9月 ワンパクまつり (白金台児童館主催)

「ワンパクまつり」当日は、開始時間までまつり全体の準備もお手伝いする。白金地域セクションの子ども向けブースでは、手作りゲーム2種類を出店し、景品としてバルーンアートをプレゼントする。

10月 以降

これまでの経験を踏まえ、メンバーが興味あることの新企画実現に向けた活動を予定。みなと区民まつりに参加予定。学生セクション報告会での活動報告。

白金地域活動では
 “学生たちがやりたいことをイチから考える”ことを
 大切にしています！

● 海外プログラム事業部

海外プログラム事業部の、 明学ボランティアセンターの、



こんにちは。明学へようこそ。
私たちは、"Less than nothing, step forward" 世界を変える企画を作ろう
とをキャッチコピーとして活動しています。

格差、ジェンダー、食糧問題を柱として世界の諸問題を目標に向けて、その問題解決
のために自分たちができることを0から企画しています。個性豊かで楽しいメンバー
と一緒に世界をより良くするお手伝いをしませんか。

海外プログラム事業部 年間スケジュール

4月	5月27・28日 ペットボトルキャップ回収活動@戸塚まつり 集めたペットボトルキャップは途上国の子どものための ワクチンへと変わります。戸塚まつりではキャップを寄付してくれた方へ お菓子をプレゼント！2日間で6864個キャップが集まりました！！
5月	
6月	7月5日 大正地区センターで小・中学生に向けてイベント 小学生には食の大切さを、中学生にはジェンダーの問題を伝えるワ ークショップを行いました！近隣の小中学校に事前に告知に行っ たりもしました。
7月	
8月	9月(約7日間) 海外ボランティアツアー 2014年はバングラデシュ、2015年はスリランカ、2016年 はタイへ訪問しました。「その国で何を学びたいのか」、 関やテーマ決めの0から自分たちで行い、2018年度はタイ ・ミラー郡に行く予定です。
9月	
10月	10月11日 国際ガールズデー 国連で定められた世界の女の子の問題を考える日。世界には「女 の子」というだけで学校に行けないような子がたくさんいます。 この問題を啓発するために、Twitter や図書館などで紹介してい ます。
11月	
12月	
1月	ユニクロ衣料回収プロジェクト 2月11日、12日にユニクロ東急プラザ戸塚店「衣料 回収プロジェクト 難民に生きる服を。」ボランティア アとして参加しました。事後学習の一貫として夏休みに ユニクロを展開しているファーストリテイリング社の サスティナビリティ部の方にお越し頂き、講演会を実施 しました。
2月	
3月	

※他にもここに書ききれなかった企画はたくさんあります！
詳しくは学生メンバーにお尋ねください。

● MG パール

ボルネオ島について

東南アジアに浮かぶ世界で3番目に
大きな島。
そこには地上の生物種の70%が
生息するとされています。
しかし、それらの野生動物の住処である
森林は急激に減少しています。
その原因は油ヤシの
プランテーションです。
油ヤシからは私たちの生活に
必要不可欠なパーム油が採取できます。
そのため、森林伐採が進み住処を失った
動物は絶滅の危機にあります。

MG パール 普段の活動内容

MG パールの活動は、制作・販売・寄付とボルネオ島についての勉強会の
二本柱から成り立っています。
普段は週一回、横浜・白金校舎でアクセサリーの制作を行っています！
活動日時は学期ごとにメンバーで相談して決めています。
また、横浜校舎にある生協にて5月～7月、9月～12月の期間で
アクセサリー販売も行っています。



〈日々の制作風景〉

活動情報は twitter
@MgPearlBorneo まで！
MG パールで検索してください！

年間イベントスケジュール

- 4月 新入生説明会 & 制作体験・新入生歓迎会
- 5月 戸塚まつり出店
- 6月 キャンدلナイト出店
1Day「オランウータンから学ぼう！
ボルネオ島の環境問題」
- 8月 オープンキャンパス
- 9月 合宿
- 11月 白金祭出店
- 12月 キャンدلナイト出店
- 3月 観覧会出店 オープンキャンパス
- その他 不定期にて BCTJ 月例会参加

MG パール

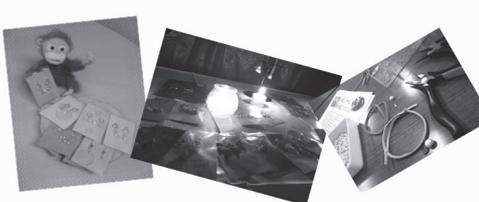
MG パールとは・・・

非営利団体ボルネオ保全トラストジャパン (BCTJ) と協力し、東南アジアにある
ボルネオ島の森林保全活動を行っているボランティア団体です。
森林伐採によって分断されたボルネオ島をつなぎ、野生動物の絶滅を防ぐために、
ボルネオ島産の淡水パールを使用したオリジナルのアクセサリーを制作、販売し、
売り上げの半分をボルネオ保全トラストジャパンに寄付し、
半分を制作費に日々活動しています。



活動目的

- ☆森林伐採により分断されたボルネオ島の森で、野生のオランウータンが自由に
移動し、繁殖できるように森をつなぐこと。
- ☆BCTJ「緑の回路プロジェクト」への寄付 → 寄付金を現地の森林や動物保護に
役立ててもらう。
- ☆アクセサリーを通してボルネオ島の現状を多くの人に伝え、身近な問題であると
知ってもらう。



● 明学レッドクロス

+ 明学レッドクロス +

+ 献血推進活動 +



年2回白金キャンパス内で献血の呼びかけ活動を行っています。学内での献血者が減少していることから、魅力ある都内の献血ルームを紹介するリーフレットを作成。時間がなく学内献血できない学生に配付し、学外での献血を促しました。

+ 日本赤十字社本社見学 +



日本赤十字社本社(大門)を見学し、赤十字奉仕団のボランティアガイドから日本赤十字社の歴史や活動内容を学びました。

+ 炊き出し訓練への参加 +



白金キャンパス近くの港区高松地区で実施される「防災炊き出し訓練」に参加。非常食のアルファ米(白米)と豚汁作りを体験しました。経験を積むほど、実感で役立つことを体感しました。

+ 横浜図書館展示 +



学生たちに赤十字社の活動を理解してもらうために、関連図書を選定し、分担して読んだ後、紹介ポップを作成して展示しました。

+ 明学レッドクロス 活動内容 +

【ミーティング】

- ★ 隔週月曜日または木曜日昼休み 白金・横浜テレビ会議室またはボラセン内で iPad 使用
- ★ 行事の前には、必要に応じて臨時ミーティングを開く予定

【大学内活動】

- ★ 4月・10月：献血呼びかけ
 - 白金校舎パレットゾーン前に献血車が入構し、学生たちに献血を促す。
 - 2017年度は、献血の呼びかけ促進のため、特色ある献血ルームを紹介するリーフレットを作成し、献血当日時間が取れない学生に配付し、献血ルームでの献血をお願いした。
- ★ 夏休み：日本赤十字社見学
 - 赤十字情報プラザ(資料コーナー)、看護倉庫、7階特別会議室・貴賓室を見学。
- ★ 夏休み：東京都赤十字献血センター見学
 - 献血された血液が、どのような手順で病院等に運ばれるかを学ぶ。
- ★ 秋学期：図書館展示(横浜校舎)
 - 学生たちに赤十字社活動を理解してもらうために、関連する本を展示。
 - 本を選定後、分担して読み、それぞれの本に紹介ポップを作成する。これにより、赤十字社活動に興味を持ってもらい、本を読んで少しでも理解を深めてもらうきっかけになることを願う。

【地域活動】

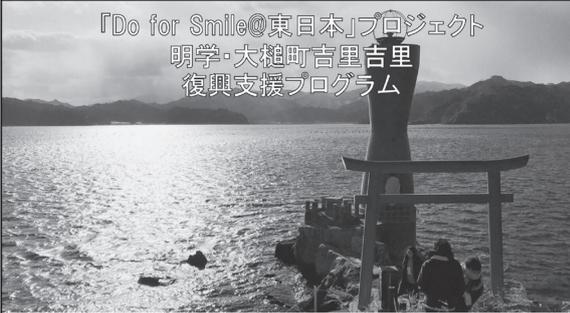
- ★ 10月：港区高松地区防災炊き出し訓練

【日本赤十字社からのボランティア募集依頼】

- ★ スマイルチルドレンプロジェクト(2017年度5名参加)
 - 子どもの貧困をテーマとし、香港ユースと協働している。日本ユースはNPO法人キッズドアと連携し生活困窮者の子どもたちに学習支援を行っている。
- ★ RCV(ボランティア情報誌)編集委員(2018年度4名参加)
 - 赤十字のボランティア活動等を取材編集し、全国へ伝える。
- ★ 全国赤十字大会(2018年度1名参加)
 - 当日は会場案内や資料配布など運営スタッフとして参加。
- ★ 災害時の連携を考える全国フォーラム(2017年度2名参加)
 - 全国から約300人が集まる一大イベント。ボランティアとして会場整理や誘導などを行った後は、分科会での学びに参加。
- ★ 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンにかかるボランティア(3名程度募集)
 - 8月上旬の顔合せから始まり、グローバルフェスタ JAPAN、赤十字シンポジウム等の展示企画の立案、準備、当日運営スタッフを担当。12月は募金活動に参加。

● 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム

「Do for Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里 復興支援プログラム



本プログラムの柱となる4つの活動

わんぱく広場
小学生を対象に、運動遊びを通して体を一緒に動かしたり、ミサンガやスタンプ作りなどの創作活動を明学生と行います。長期休暇中には宿題を見ることがあります。子どもたちの元気な姿に、いつもパワーをもらえます。

学習支援
中学生を対象に、授業サポートや長期休暇中の課題のお手伝いをしています。「きりきりじゅく」と題し、学習面のみならず、中学生と私たちの交流も視野に入れた、新たな活動を考えています。

ふるさと科
小学3年生の授業に、明学生がお手伝いさせていただいています。郷土愛を育み、次世代へ豊かな自然や文化をつなぐための取り組みとして、震災後に大槌町が導入した科目です。明学生が作った「吉里吉里カルタ」を用いています。

スタディーツアー
新たにメンバーとなった明学生を対象に、毎年6月に行っています。地域の方のお話を聞いて、震災や地域について学ぶことと同時に、自分たちの今後の活動も考える時間と合わせています。また、吉里吉里の良いところを上級生から新入生へ伝える場ともなっています。

地域に密着した活動は他にもたくさん!

吉里小運動会
5月に吉里吉里学園小学部にて行われる。運動会のお手伝いをさせていただいています。明学生は準備と片付けの他、当日の先生の補佐や録画などを行い、時に競技にも参加させてもらっています。子どもたちの一生懸命な姿を近くで見られる活動の一つです。

サマースクール
毎年夏に吉里吉里学園小学部にて行われている活動。明学生も夏季休暇を利用して、参加しています。基本はわんぱく広場と同じですが、夏休みならではのアークと一緒に入ったり、子どもたちの宿題のお手伝いをしたりしています。

お祭り(天照御泊神社例大祭)
毎年8月の第4週の土日に開催される例大祭。吉里吉里には、「大槌祭」「龍子舞踊」「倉舞」の3つの郷土芸能があり、それぞれの団体の迫力ある舞と神輿の力強さが感じられる。1年中最も暑い2日間です。明学生は現在、自主活動として団体に参加しており、この日は卒業生も多く再会できる日ともなっています。

吉里田舎大運動会
10月に吉里吉里地区の住民皆で行う運動会のこと。「天婦羅」など吉里吉里地区ならではの競技もあり、大変盛り上がる一日です。明学生も競技を企画、運営に関わらせていただいています。多くの地域の方と交流し、お話を聞ける活動でもあります。

吉里っ子文化祭
10月に小学生が日ごろから練習をしてきた歌や伝統芸能を、地域の方に向けて発表する場。明学生は、わんぱく広場に参加した学生を中心に、自主活動として見学に行っています。先生方や地域の方との交流の機会としても生かされています。

Twitterでも活動の情報を発信しています!

吉里吉里 @DIS_OTsuchi



「吉里吉里や よいところぞう おいでんせ!」

● 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム

「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム 活動概要

【活動概要】
震災の翌年(2012年)、関東圏などの小学生を対象にした陸前高田へのスタディーツアーを企画するセッションとして発足しました。
現在は、陸前高田市内の地域のイベントでのボランティアや、市内の子ども向けの活動、またキャンパスのある地域での防災イベントでの情報発信などに取り組んでいます。

【活動目的】
震災の陸前高田での被害や復興の現状などを外部に伝え、震災の風化を防ぎ、自分たちの地域でも防災・震災と向き合える。
陸前高田の魅力や魅力を発信する。
陸前高田の方々と交流を通じて、陸前高田に笑顔を増やす

【活動内容】
2011年～2015年「かわい子には旅をさせよ」(かわたび、※1)実施
2016年～ 地域イベントでの「お花七まつり」「うごく七まつり」/けんか七まつり参加、市内小生向けの工作イベントなどの陸前高田市での活動に「かわ、関東圏での防災イベントでも活動中

※1【かわたび(かわい子には旅をさせよ)プロジェクト】
関東圏などの小学校高学年の子ども達を対象にしたスタディーツアー。陸前高田を訪れ、地震や津波の恐ろしさを知って防災意識を高めてもらうことと、陸前高田での人のあたたかさ、陸前高田を忘れずまた来たいと思ってもらうことを目的に実施しました。

【チーム構成】
陸前高田での年4～5回の活動に加え、キャンパス内や関東で陸前高田の様子を伝えたり、防災関連のイベントを行っています。普段は月に一度の全体ミーティングと3つのチームで活動しています。

食チーム:
陸前高田の郷土料理など“食”を通して魅力を発信し、興味・関心を持ってもらうことと、陸前高田を身近に感じてもらい、東日本大震災の風化を防ぐ。

賑(にぎ)りチーム:
現地を訪れ、私達学生メンバーと現地の方々の交流を目的に活動し、陸前高田に笑顔を増やす。

伝(つた)えチーム:
陸前高田の復興の現状と、陸前高田の魅力若者に発信することを目的に活動!

全体ミーティングのようす

Twitterにて活動を発信しています。
@DIS_Takata
ここをチェックしてください!!
問い合わせ、ミーティング見学会など、気軽にDMください。

「Do for smile @東日本」プロジェクト陸前高田 年間行事

5月 明治学院大学防災訓練 戸塚祭り
戸塚祭りとは横浜キャンパスで開催される学園祭で、環境、福祉、国際を柱に行われています。私たちは陸前高田の郷土料理「ひつまみ」を作り、多くの方に食べていただきました。

6月 新入生スタディーツアー
「震災を知る」、「今の陸前高田を知る」を目的として、新入生を対象にスタディーツアーを行いました。

7月 きらりんキッズ夕涼み会
陸前高田の子育て支援施設で開催される夕涼み会で明学生が持ち込み企画のお花け屋敷で子供たちと触れ合いました。

8月 七夕まつり
けんか七、うごく七夕祭りの伝統ある二つの祭りに参加し、お手伝いをしました。

11月 白金祭 たかた子どもキャンパス
白金校舎で開催されるもう一つの学園祭、白金祭では、陸前高田の味噌を使用した玉こんにゃくを販売しました。

週末などに子どもたちの学習支援や文化活動を通して豊かで健やかに育まれることを目的としているプログラムです。今回は、子どもたちと一緒に制作し、普段生活している中で感じていることを見つめることを目的としました。また他大学の活動に参加することで、今後の活動に活かすための活動でした。

同じ岩手県で活動しているチーム同士でお互いの地域や活動内容を学びました。

2月 吉里吉里、陸前高田合同スタディーツアー たかた子どもキャンパス
地元の子供たちと明学生がバリエーションアートと一緒に作り交流を深めました。

3月 大学シンポジウム
私達と同じ現地以外の者として活動する他大学の学生と交流し、私達が今後、高田のために活動をするために大切なことを改めて学ぶようにつなぐことができました。

● アメリカンフットボール部



アメリカンフットボール部
SAINTS

★ボランティア活動の内容

SAINTSでは、現在、主にスポGOMIのボランティア活動を行っています。
 スポ GOMIではアメフト部が主催し、戸塚の町内会の方々や、リトルセインツ、ラクロス部をはじめとした他部活と、幅広い世代で、ボランティア活動を行っています。
 スポGOMIは、スポーツ競技として楽しみながらキャンパス周辺のごみ拾いをするイベントで、SAINTSの学生は運営を手伝っています。
 毎年 200 名もの人が参加しています。
 区民や、明学生、リトルセインツとの交流を深めながら街を綺麗にしています。




★ボランティア活動通じて成長していると感じた点

地域の方々や、他部活の方など、多くの方々に応援してもらえることは、チームの成長にも繋がります。
 ボランティア活動を通して、部員一人一人の練習に対する姿勢が大きく変わりました。



★ボランティア活動を通じて社会や大学と繋がったと感じた点

ボランティア活動を通じて地域の方々や交流する良い機会となり、その後、学校内でお会いした際に、SAINTSについて聞かれることもあったので、以前よりは関心を持ってもらっているのだと実感しました。



★ボランティア活動を行い良かったと感じる点

町内会の方々や、他部活との交流を深めることができ、アメリカンフットボールというスポーツを知ってもらえる良い機会となりました。

今年も7月に
スポGOMI開催
予定なので
参加お待ち
しています★

★今後について

SAINTSでは、今後もこのようなボランティア活動を行っていきたくて考えています。
 そして、スポGOMIでは、活動の幅を広げもっと多くの明学生が参加してもらえたら良いと思います。
 ボランティア活動を通じ、より多くの地域の方、明学生、学校関係者に応援してもらえようなチームにしていきたいです。

SAINTS 活動内容・年間スケジュール

1月	・自主練習期間	
2月	・トレーニング期間	
3月	・トレーニング期間	
4月	・勧誘期間 ・【オープン戦開幕】 青山学院大学定期戦	
5月	・【関西遠征】 近畿大学定期戦	
6月	・SAINTSカーニバル	
7月	・スポGOMI ・自主練習期間	
8月	・夏合宿	
9月	・【秋リーグ戦開幕】	
10月	・秋リーグ戦	
11月	・秋リーグ戦	
12月	・入れ替え戦 ・総会 ・シーズンオフ	

SAINTS は、週 4 日一部昇格に向けて日々練習しています！
 プレイヤー、スタッフ募集中です！

● サッカー部

明治学院大学体育会サッカー部

クラブプロフィール

我々サッカー部は1961年に創部されました。現在は東京都大学サッカーリーグ1部に所属しており、関東リーグ昇格を目標に日々トレーニングを重ねています。部員が約200人所属しているためカテゴリーに分かれて「リーグ」や「東京都社会人リーグ」などに出場しています。サッカーを通じて、人と成長することを目標にしています。

【昨年の主な成績】
東京都大学サッカーリーグ1部 優勝
関東大会出場

部員
リーグ
リーグ
東京都大学
サッカーリーグ部

旧ユニフォーム寄付

当サッカー部の前監督の友人のセネガル人サッカー選手を通じて彼の故郷である「Thies ティエスFC」に寄付しました。

ThiesFCは、首都のあるダカール州の隣の州で、州都のティエスは、セネガルで4番目に大きな都市で、人口は横浜市の1/10くらいです。

15〜18歳のユースチーム
19〜35歳の社会人チーム

2017年寄付

旧ユニフォームは2016年まで公式戦で使用していました。

ThiesFCには16歳から35歳の50名程度のメンバーが所属しています。ThiesFCから地元や海外のチームでプロになる選手もいるそうです。

少年サッカー大会開催

「少年サッカー大会」と「サッカークリニック」をヘブバーンで開催しました。当日は小学生5チームをお招きして交流戦を行いました。部員も会場設営や審判、そしてサッカークリニックで大活躍してくれました。小学生の楽しそうにサッカーをする様子を見た部員たちは「サッカーを楽しむということ再認識できた」と感じています。

主な年間スケジュール

2月 シーズン始動・合宿
3月 アメフトインターカップ選手選
4月 東京都大学サッカーリーグ開幕
5月 リーグ開幕
7月 アメフトインターカップ
8月 合宿
10月 東京都大学サッカーリーグ開幕
12月 関東大会(関東リーグ昇格戦)
12月 新人戦

【ボランティア活動を通じて】

サッカーを通じて、国境・年齢を超えて多くの繋がりが感じられました。今後も少年サッカー大会の拡充や他の年代とのサッカー交流、地域貢献・交流をする機会を増やしていきたいと考えています。何か協力して欲しいことありましたら、ご連絡ください。

そして、皆様から応援されるチームを目指していきます。

キーパー・マネージャー募集中!!
やる気に満ち溢れていて、サッカーが好きな方お待ちしています!!
mailto:1961@hepburns.jp
までご連絡ください。
<http://meu-soccer.club/index.html>
サッカー部ホームページ

● ラクロス部男子

HEPBURNS LACROSSE

スポ GOMI

毎年アメリカンフットボール部主催の、横浜キャンパスとその周辺地域のごみ拾いに参加しています！「ゴミ拾いはスポーツだ！」を合言葉にグループごとに分かれて対戦形式のごみ拾いを行い、楽しみながら地域をきれいにすることができました！！

3位を受賞しました！

戸塚の町をきれいにできました！

八幡神社の祭礼・余興

戸塚区下倉田町にて行われた、八幡神社のお神輿担ぎに参加しました。地域の方々と一緒に元気に神輿を担いできました！地域の方々からもまた参加してほしいとお声掛けをいただきました。

ほかに、
・熊本地震の際に明学のボランティアサークルと共同募金活動
・明治学院大学生協に募金箱を設置
などのボランティア活動にも積極的に参加しています！！
これらのボランティア活動を通して小さなことから自分たちが地域に貢献できることはあると言うことがわかりました。
これからも様々な活動に参加していきたいと思っています！

2018 Suchedule !

4月	新入生勧誘
5月	あすなるカップ(2年生大会)
6月・7月	アメフト部主催 スポ GOMI !
8月	夏合宿
9月 10月	リーグ戦! ぜひ応援に来て下さい!!
12月	ウィンターステージ(1年生大会)
2月 3月	SPリーグ 卒業式

現在ラクロス部男子は部員数約100名の大きな団体となりました！今年は一歩昇格に向けて部員全員で、一丸となり日々練習に取り組んでいます！また、リーグ戦はヘボンフィールドでも行われますので、ぜひ応援してください!!★

● 児童教育研究会

明治学院大学文化団体連合会 児童教育研究会

～団体紹介～
児童教育研究会は明治学院大学の文化団体連合会に所属しています。現在**新3年生5人、新2年生7人の合計12人**で活動しています。主に戸塚キャンパスで、毎週水、土曜日に活動している。文化団体連合会に所属する大学公認サークルです！毎月1～2回地域の小学生を校舎に呼んで、私たちが考えたオリジナルのゲームで遊んだり、春には遠足、夏には2泊3日のサマーキャンプがあったりと、子どもにとっても私たちににとっても楽しいイベントが沢山あります。先輩後輩関係なく子どもたちに楽しんでもらうためにアイデアを出し合い、少人数で和気あいあい、楽しく活動しています。子どもが好きな人は男女問わず大歓迎です。笑顔沢山の部員たちがみなさんをお待ちしています！！

年間で行っている活動は大きく分けて4つに分かれています。
☆土曜学校 **年8回**ほど横浜校舎に子どもたちを招いて、学生間で考えたゲームを行い、遊ぶ活動です！
☆子ども会活動 **年5回**ほど各地域に出向き児童館や体育館をお借りして、子どもと遊ぶ活動を行っています！
☆遠足 **毎年4月末**に晴天時は公園、雨天時は遊ぶ施設などに遠足に行きます！
☆サマーキャンプ **毎年8月中旬**に2泊3日のキャンプを行います！

～活動で力を入れている～
★「手作りのものを子どもたちに届ける」ということです。私たちが考えるゲームで使う遊び道具はもろいですが、子どもと関わる時間や、思い出といった実際に関わるからこそ作られるものを子どもたちに届けることを意識しています！！

★「子どもの立場、視点に立つ」ということです。私たちが活動で重要視しているものとして、子どももいかに楽しんでもらうかという立を掲げています。その為には「子どもの視点に立つ」楽しさ、安全面等を確認しながら活動を行うことがおのずと求められます。

～活動を通して様々な点での成長～
・子どもと接したことを通じて、相手のことを考え、わかりやすく伝えることを意識するようになったため、物事の伝達能力が上がった！
・様々な物事への瞬時の対応力や物事を観察する上での洞察力が上がった！
・相手の目線に立つ、子どもの目線に立つて考えることが増えた！
・子どもと接する際に、あえて厳しく接することも子どもの安全や危機察知の為には大事であることを知ることが出来た！



～活動から良かった感じる点～

- ・子どもと関わるうえで配慮をすべきことを考え、行動に移すことが、出来るようになったこと。
- ・普段、大学生活を行っているだけでは接する機会のない、子どもたちと関わる機会をたくさん持つことが出来、仲良くなる事が出来たこと。
- ・活動の中には、活動を行うための準備など大変なこともあるが、そういった忙しさの中に、楽しさを見出すことが出来ている点。
- ・自分が活動を休んだ時、「今日は来ないの？」と子どもが聞いてくれたという話を他の学生から聞いた時。

～活動を通して社会(地域)や大学との繋がり～

子どもたちから「楽しかったよ！ありがとう！」という声をもらったり、保護者の皆様から「子どもたちが楽しく帰ってきました、いつもありがとうございます！」といった声をいただいたり、大学の授業を終え家に帰る際に、活動に来てくれている子どもたちから、大きな声であいさつをしてくれたり、話しかけてくれる機会が出来ました。

私たちは活動を通じて「子どもの視点に立つ」ことを意識するようになりました。しかし実際は、社会には子どもだけでなく多くの人々が生活しています。私たち大学生は、卒業と同時に社会に入る人がほとんどです。社会に出た際に、一人ひとりに合わせた配慮や、相手の視点に立つて行動することや、社会に今ある問題を自分ならどう改善していくことが出来るのか、を考え行動することといった、「共同」の意識が大切だと考えています。私たちは活動を通じて、これらの考えを深め、社会に出た際に自分の力で生かせるように取り組んでいます。

～今後の活動～

活動自体には大きな変更等は考えていません。しかし、その分野はやや子どものかかわりの質を、今以上に高めることで、子どもにより楽しんでもらえるような活動を目指していきたい、と考えています！！

～メッセージ～

私たちは普段活動を行う中で、戸塚キャンパス近隣に住む子どもたちと関わっています。また、活動を通して保護者の皆様や地域の方と交流する機会もあります。これらの機会は大変貴重な機会として学生生活を送っているだけで経験することは多くないと思います。また、子どもたち一人ひとりに個性があり、活動を通じて子どもたちらしさに触れる機会が多いのも当サークルの特徴です。



● 応援団

明治学院大学応援団

明治学院大学応援団はリーダー部、チアリーディング部、プラスバンド部の3部で活動しています！毎年10月・11月にチャリティーショー「白金の集い」というチャリティーイベントを開催し、収益は障がい者スポーツ協会とあしなが育英会に寄付しています。

体育会の応援や学内外のイベントにも参加させて頂いています！

◎学内イベント ◎体育会の応援



◎チャリティーショー「白金の集い」開催

毎年10月・11月にチャリティーショー「白金の集い」というチャリティーイベントを開催し、収益は障がい者スポーツ協会とあしなが育英会に寄付しています。

◎チャリティーを開催して、社会と繋がったと感じた点

寄付活動を通じて、2/26に虎ノ門ヒルズで行われました。パリンピック冬季競技大会日本代表結団式・社行会にて演舞を致しました！日本選手団の方々へ直接エールを送らせて頂きました！！

◎応援団に所属して、成長したと感じる点

責任を持った行動がとれる様になったことです！団員1人1人の行動が応援団に何らかの影響を与えます。責任は大きいですが、団員1人1人が欠かせない存在です！



● 愛好会協議会

明治学院大学公認団体

愛好会



私たち愛好会は大学から公認を受けている学生団体です。スポーツ・旅行・音楽・学術文化の4系統に分かれた、30の部・サークルで構成され、約1000人もの会員が各々の目標に向かい日々活動しています。

活動内容

愛好会は日本赤十字社様と連携し、横浜キャンパスにて年に数回献血活動を行っています。
献血活動には毎年多くの学生に協力してもらい、有意義な献血活動になるよう努めています

ボランティアを通して気づき

献血を必要としている方が多くいることに気づかされ、熱心に取り組んでいます。

メッセージ

愛好会は様々な部・サークルの横のつながりが強いことが愛好会の最大の強みです。4年間という短い大学生活で多くの仲間と時間を共有したい方は是非一緒に楽しい大学生活を作ってください。

● OPENROOM

ボランティアサークル OPENROOM



OPENROOMは、「これ」という枠に縛られず、幅広いボランティア活動を行っているサークルです。
メインの活動としては障害児者支援を行っています。

東京都立青島特別支援学校

東京都立青島特別支援学校は東京都世田谷区にあり、世田谷区に住み中学校を卒業した知的障害のある方のための学校です。OPENROOMは、在校生や卒業生の行事にボランティアとして参加させて頂いていただきました。

★クリスマス会★
クリスマス会では、スポーツ班、調理班、ミュージック班に分かれて活動しました。スポーツ班ではサッカーをして、私たちが試合に混ぜていただきました。調理班では、ケーキの飾りつけのお手伝いをしました。ミュージック班では、クリスマスに関する歌を練習して発表しました。またビンゴ大会もあり、生徒さんの補助をしました。生徒さんとたくさん関わることができました。

<http://www.seicho-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/>

すくすくのびのび園

すくすくのびのび園は、目黒区にある児童発達支援センターであり、就学前の幼児を対象に療育を行うほか、施設が持つ専門機能を活かしながら、18歳までの発達に支援の必要なお子さんや障害を持つお父さん、そのご家族への相談支援、地域の施設への援助・助言を行っています。私たちは、保護者の方の懸念がある時などに、子どもたちと過ごすボランティアをしました。自分が担当する子どもに付いて一緒に歌を歌ったり、ボールプールなどで遊んだりしました。子どもたちが怪我をしないように見守ったり、時間やルールを守って行動できるようにサポートしました。

http://www.city.meguro.tokyo.jp/shisetsu/shisetsu/fukushi_shisetsu/sukusukunobinobie.n.html



合宿



毎年夏にメンバーの親睦を深めるため合宿に行っています。昨年は栃木県に行き、観光や夜にはバーベキューをして楽しく過ごしました。普段はメンバー全員で行うような活動がないので、このような環境でたくさん話すことができることは、とても良い機会だと思っています。また、春休みには都内から離れた所でボランティアを行うために、合宿を行います。昨年は実行することができなかったのですが、ゴミ拾いなどに参加させていただく形で、ボランティアをしに行っています。今回合宿ができなかったことの反省を生かし、今後は実行していきたいと考えています。

部会

毎月1回休み、各キャンパスごとに話し合う場として、部会を行っています。日にはメンバーの予定を重視し、曜日の固定などはせず、参加者が多い日にしています。堅苦しくなく、話しやすい雰囲気作りを大切にしています！月に1回なので、あまり負担なく参加することができます。また、毎月1回放課後にご飯会も行っています。そこではキャンパス関係なくメンバーが顔を合わせることができるので、先輩たちとの交流にもなります。

ボランティアの感想

ボランティアを行うことで地域の施設に貢献できる所が良かったと思います。また、異なる年代の人と関われるようにもなりました。

特別支援学級のボランティアに行ったのですが、考え方や理解力が一人一人違うことや、そこからどのようにアプローチしていけばよいのかということや、学ぶことができました。また、長く続けていく中で、子どもの成長を実感したほか、より深い信頼関係も生まれ、様々なことを体験させていただきました。

ボランティアを始めた理由は達成感を得るためです。自分が他の人に役立っているという実感はお金では得られないもので、自分に自信を持つことができました！他人のために動くことで自分も成長できるOPENROOMに是非参加してみてください！



● ハビタット MGU



国際ボランティアサークル
HabitatMGU

HabitatMGU は住居貧困問題に直面している世界約80か国で住居建築支援を行う団体 Habitat for Humanity の学生支部です。

HabitatMGUの活動内容

- ・GV (Global Village)    
主に住居貧困問題に直面している国に行き、住居の建築作業を行うプログラム。過去には、ポーランド・タイ・インド・カンボジアを訪れました。
- ・JV (Japan Village)  
国内支援に重点を置いたプログラム。過去には東北に行きコミュニティ支援を行いました。

その他ごみ拾い、フリーマーケットやシェルター支援など、地域に密着したボランティア活動も行っています。

Habitat for Humanityの活動理念

それは・・・
A world where everyone has a decent place to live
誰もがきちんとした場所で暮らせる世界

世界には、まだまだきちんとした場所で生活を送れない人がたくさんいます。その住居貧困問題を、少しでも解決するきっかけになればという思いで活動しています。



ボランティアを通して

- ・ ボランティアをする前にはまずは仲間が助け合うべき
- ・ 支援を受け入れる側にも負担が伴う
- ・ 日常に対しての自分の視野が広がる
- ・ 捉え方、考え方の違いを理解し受け入れようとする努力



ボランティア活動を行って良かったと感じる点

今の生活がいかに恵まれているかを改めて知りました。また、“家”というものが私たちに与えてくれたような存在なのか、いかに大切なのかを考えさせられました。そして、幸せとは何か、もう一度考え直させられました。

ボランティア活動を通じてメッセージ (社会や勇学生などに向けて)

世界には私たちが想像もできないような現実がたくさんあると思います。それらに一度目を向けることがとても大切なことなのではないかと思っています。また、ボランティア活動は自分の生き方を見つめ直す良い機会にもなると思います。



これから展開してみたいボランティア

現在ハビタット MGU では “Big GV” を計画中です。Big GV とはこの夏にタイで行われる予定の、家ではなく “図書館” の建設を目的とした派遣のことです。これに伴い、日本全国から図書を集める予定です。



● 落語研究会

落語研究会



ボランティア特別公演

落語をより多くの方に楽しんでもらうため、大学周辺の施設(老人ホームや、シニア会など)を中心にボランティア活動として披露しています。披露するのは落語だけでなく漫才やコントもリクエストを頂くので披露させていただいています。

団体紹介

落語研究会は、落語だけでなく、漫才やコント、ピン芸など様々なことをしています。年に4回あるライブで披露するため日々芸を磨いています。

成長した点、やりがい

ボランティア活動を行うことにより、大学以外で落語を全く知らない方々にも披露できるため、毎回新鮮な反応を頂くことができます。笑いのツボも一人ひとりで違うため、普段とは異なる場所でお客さんに対し落語を披露することは、自身の芸の向上に繋がりとても勉強になります。成長したと感じるのは、お客さんに聞かせる為の落語ができるようになったことです。自己満足ではなく、お客さんが楽しむ語り方を考え取り組むようになりました。これは、落語の場面だけではなく、日々の生活や社会でも活かしていける大切なことだと思います。

レスポンス

ボランティア講演後に、落語を聞いて下さった方々から「面白かったよ」「お話を聴いてね」などの言葉を頂きます。施設職員の方々から「好評なのでまたやって欲しいです」と声をかけていただき翌年もボランティア講演をさせて頂いたばかりの声を身辺に聞くことで私たち自身とても嬉しく感じています。

メッセージ

ボランティアに限らず、大衆さう、面倒くさそうなど思ってしまう方も少なからずいます。ほんの小さなことでも、誰かが笑顔になったり、お礼の言葉をいただいたり、自分が何かの役に立っていると実感することができました。ボランティアを始めるか悩んでいる方は、ぜひ思い切ってボランティア活動に参加してみてください。

団体アピール

落語研究会では、狂人亭という落語だけのライブを5・9・2月に行っています。また、4・6・11・12月にはお笑いライブを行っています。落語以外にも漫才やコント、ピン芸など様々な内容で開催しています。特に11月の白金祭では、3日間に渡ってライブを行い学外からもたくさんのお客さんに見に来ていただいています。多い日だと200人もお客さんの前でステージに立ちます。練習を重ね、全員で作上げたライブでお客さんに来て頂く時間はとても達成感があります。ボランティア講演は施設等から依頼を受け行うため不定期で行っています。(大学の休みの時期に多く行っています。)年間通して様々な活動があり充実しています。

2月開催 東伝大賞(学生落語大会)毎年参加しています

成長した点、やりがい

ボランティア活動を行うことにより、大学以外で落語を全く知らない方々にも披露できるため、毎回新鮮な反応を頂くことができます。笑いのツボも一人ひとりで違うため、普段とは異なる場所でお客さんに対し落語を披露することは、自身の芸の向上に繋がりとても勉強になります。成長したと感じるのは、お客さんに聞かせる為の落語ができるようになったことです。自己満足ではなく、お客さんが楽しむ語り方を考え取り組むようになりました。これは、落語の場面だけではなく、日々の生活や社会でも活かしていける大切なことだと思います。

メッセージ

ボランティアに限らず、大衆さう、面倒くさそうなど思ってしまう方も少なからずいます。ほんの小さなことでも、誰かが笑顔になったり、お礼の言葉をいただいたり、自分が何かの役に立っていると実感することができました。ボランティアを始めるか悩んでいる方は、ぜひ思い切ってボランティア活動に参加してみてください。

団体アピール

落語研究会では、狂人亭という落語だけのライブを5・9・2月に行っています。また、4・6・11・12月にはお笑いライブを行っています。落語以外にも漫才やコント、ピン芸など様々な内容で開催しています。特に11月の白金祭では、3日間に渡ってライブを行い学外からもたくさんのお客さんに見に来ていただいています。多い日だと200人もお客さんの前でステージに立ちます。練習を重ね、全員で作上げたライブでお客さんに来て頂く時間はとても達成感があります。ボランティア講演は施設等から依頼を受け行うため不定期で行っています。(大学の休みの時期に多く行っています。)年間通して様々な活動があり充実しています。

2月開催 東伝大賞(学生落語大会)毎年参加しています

● 戸塚まつり準備会

戸塚まつり準備会

「戸塚まつり」基本情報

◇横浜キャンパスで、毎年5月下旬に行う学園祭
 ◇2018年度は記念すべき21回目の開催です！
 ◇地域に深く根付いています！
 毎年、たくさんの地域の方が参加・来場してくださいませ。
 ◇「環境・福祉・国際」の三本柱を掲げて、企画・運営します。
 ◇主な企画は、①模擬店…屋外で食べ物の販売
 ②ステージパフォーマンス…歌やダンスなどの発表
 ③持ち込み企画…屋内での発表や企画
 ④フリーマーケット
 ⑤地域企画…地域の方と準備会が協力して行う企画
 ⑥準備会企画…準備会が行う企画
 ⑦大学企画…大学の職員が関わっています。

準備会員の様子

◇メンバー：2・3年生 23人

◇活動日：決まっていません。
毎年11月頃から少しずつ準備を始めています。

◇魅力：少人数だからこそ、準備会員同士の仲が良い！
お年寄りから子供まで、大学内では関わることのできない地域の方とたくさん触れ合うことができます！
やりがいがある！！当日は達成感がすごいです！！

地域と一緒に創り上げる戸塚まつりは他の学園祭とは一味違う！
実行委員に興味がある人、学部学科を超えて友達を作りたい人、子供が好きな人、
大学で新しいことに挑戦したい人…
私たちと一緒にまつりを作りませんか？

戸塚まつりのボランティアマップ



たくさんの地域の方と
交流できます！

リ・リパックプロジェクト

戸塚まつりは、環境に優しい学園祭を目指して、「リリパック」と呼ばれる、リユース食器を使っています。RRP テントでは、使い終わったお皿は回収をしています。

三本柱企画

環境・福祉・国際

戸塚まつりでは毎年、環境・福祉・国際の本三本柱に沿った企画を行っています。
 ◇2017年度の例◇
 ・環境…リ・リパック
 ・福祉…アイマスク体験 ペットボトルキャップキャン
 ・国際…ベルマークキャンペーン

地域企画

盆 DANCE

近年恒例となっている企画の一つです。大人から子供まで、盆踊りを通して幅広い年代の方の交流の場となっています。もちろん、準備会員も参加します！

戸塚まつり当日以外の 地域の方との交流

5月

下倉田・上倉田の両町内会の方と、戸塚まつり当日の地域企画「盆 DANCE」の事前練習を行います。



地域のお祭りのお誘いをたくさん頂くので、準備会員で参加します。
盆踊りを踊ったり、お神輿を担いだりしました。



夏休み

この他にも、「とつかお結び広場」や、「みなと区民まつり」にボランティアスタッフとして呼んでいただき、運営のお手伝いなどをします。

戸塚まつりを通して成長できたこと・やりがい
 ～戸塚まつり準備会員より～

戸塚まつり準備会は非常に少人数で運営しています。そのため一人一人の任務量や苦労も多ですが、毎、大学生活の中で、信頼できる仲間と丸ごと一つのことをやり遂げるという経験としても貴重なもので、自分の成長や自信につながっていると日々感じています。地域密着型の学園祭であるため、当日以外にも地域の方と触れ合う機会が多くあります。失敗のなように必ず必要なため、自然と礼儀作法が身に付きます。また、時には仲間と意見がぶつかることもあります。地域の方の要望を受け入れられぬこともあります。そんなときは、準備会全体で悩みがら最終決定を採り、双方が納得のいくように折り合いをつけることで、予想外の事態が起きても冷静に対処する力が身に付きました。準備期間こそ苦労した分、当日を終えた後の達成感や楽しさとして、戸塚まつりを通して、大学生活で何はじめてもなかったような時間を過ごすことができ、信頼できる仲間を見つけたことができました。

● 手話サークルぽっけ



手話サークル ぽっけ



団体紹介

手話サークルぽっけは昔から活動を行なっており、現在は約80人で活動しています。主に手話歌という、歌に手話を合わせて行うパフォーマンスをボランティアで発表させてもらっています！

2017 年度活動記録

- ・ TOKYO みみカレッジ 11 月
- ・ 東戸塚まつり 11 月
- ・ 東京 2020 パラリンピック 1000 日前イベント 12 月

などなどを行いました！





思い・目的

ボランティアを通して、小学生や地域の方に見てもらうことによって手話というものを知ってもらい、興味をもってもらい機会になればいいなと毎回思いながら活動しています。

今後の活動目標

これからは手話歌だけに限らず、他のものも取り入れて手話というものをより広くの方に知ってもらえるように活動を頑張っていこうと思っています！

活動を通して、小学生などの子供に「手話をもっと覚えたい」と言ってもらえたことがあり、そのような風に捉えてもらえると活動してよかったなと思えます。







大学内での活動

毎年戸塚まつり、白金祭で手話歌の発表や手話劇の発表を行なっています。ぜひお越しください！

活動日時：毎週水曜日（放課後 15 時 30 分→）

Twitter: @MGUpokke

● JUNKO Association



JUNKO Association

About activity of JUNKO Association

JUNKO Associationはベトナム・ミャンマーの子どもたちに教育支援を行っています。活動を行うにあたって団体では4つのプロジェクトに分かれて各方面から支援を行っています。

- 
ベトナムプロジェクト
 現地での活動を主とし、ベトナムのリゾート地であるダナンから車で数時間離れた農村地区、山岳地帯などの地域で活動を行う。観光地としても注目されているベトナムであるが、その裏には貧困が隠されている。私たちは子どもたちの視野を広げ、自身自身を客観視することができるよう、文化交流や大学生生活の紹介また創造的な交流を行う。また衛生環境が整っていない地域ではとくに掃除をし、掃除をする意味や清潔を保つ必要性を伝える交流を行っている。
- 
ミャンマープロジェクト
 現地での活動を主とし、ミャンマーの都市であるヤンゴンより車で4時間ほどの地域で活動を行う。発展途上であるため、都市部では大きな建物も建ち始めているミャンマーであるが、貧困もまだまだ残されている。開墾されたミャンマーという国で新たな世界を知ることができるよう文化交流を主とし、日本の高校生との手紙交換や、指導力を磨く交流を行っている。また子どもたちの勉強環境が少しでも整うよう家庭訪問を兼ねた助成金支援などを行っている。
- 
ビジネスプロジェクト
 JUNKO Associationの活動を支える資金獲得を行う。ベトナム・ミャンマーへ足を運び、現地の人が作った雑貨を購入し日本の通販販売系のイベント、高校や大学の文化祭で販売し活動資金を得る。現地の雑貨購入だけでなく、現地の工場とコラボし、学生が考えたオリジナル商品の作成も行っている。また日本ではいくつかのお店に協力していただき定期的に当団体の商品を卸し、販売していただいている。(LASKAさんなど) より多くの人に当団体の商品を手に取ってもらい、少しでも現地の思いが伝わりよう日々活動している。
- 
SRプロジェクト
 JUNKO Associationの活動を支えるため広報活動を行う。現地プロジェクトと共に現地へ赴き活動の様子を写真で撮影。自分たちの手で機関紙やパンフレットを作成し、自分たちの言葉で現地の子どもたちのリアルを伝える。文書上だけでなく、戸塚区内で定期的にイベントを開催し自分たちの口で伝える。OBOGの方々の支援や戸塚区民の協力をより多くそして長く得られるよう日々活動している。



JUNKO Associationの活動理念

「世界の恵まれない子どもたちのため」
 「学生による創造と実践の場」

これら2つの理念をもとにベトナム・ミャンマーで活動する。世界の恵まれない子どもたちの成長（人間的発達）を願って活動する。また、学生が運営主体となる当法人は、学生の高い志・創造力や行動力を尊重し、活動を通して学生たちの能力や視野を広げることを期待している。

ある一人の女性の想いから JUNKO Associationは成立しました。当時、明治学院大学国際学部の3年生であった高橋淳子さんは、ゼミで東南アジアの経済発展について研究をしていました。ベトナムを訪れた彼女は現地の人々の優しさを感じると共に、途上国という国の貧しさに直面し、「ベトナムの貧しい子どもたちのために何か役に立ちたい」という強い想いを胸に抱固しました。

しかし、その数か月後に不慮の交通事故に遭いこの世を去ることとなってしまいました。彼女の遺志が未永くベトナムの地に残るように、ベトナムの子どもたちの笑顔のためにと、ご両親は淳子さんの積立金や集まった善金を提供し、ゼミの仲間たちは学校内で募金活動を行いました。

これによって、1995年9月にベトナム中部の都市ダナンに近いクワンナム省ティエンフック村の小学校を改築しました。村人は感謝の意を込めて、この小学校を「JUNKO School」と名づけます。

そしてJUNKO Associationの前身が、当時のゼミ生を中心に発足し、明治学院大学の学生を中心に現在まで活動して参りました。

◎ボランティアを通して伝えたいこと◎

NPO法人JUNKO Associationで国際協力ボランティアを始めから、丸2年が経ちました。ボランティア、国際協力という聞き慣れないけれど、実際に現地へ行って活動してみると、ベトナムやミャンマーの子どもたちに自分が一体何ができるのかと葛藤した時間も多くなりました。

現地にいき子どもたちに会い、活動を行う前は、発展途上国の子どもたちはかわいそうというイメージが押し寄せてきました。しかし実際には、全くそんなことはありませんでした。子どもたちはいつでも笑顔で目を輝かせ、生き生きとしていました。自分が大きな偏見を持っていたかにショックを受け、自分自身の目で現状を見ることがいかに大切かを実感しました。

ボランティアを通して、取り組む課題全てを解決することはできないでしょう。しかし目の前にある問題に真摯に一步步取り組めば、必ずゴールは見えてくるはずです。自分ができることを丁寧に想いを込めて行うことはきっと大きな力になります。ボランティアというと敷居が高く聞こえるかもしれませんが、しかし自分ができることから、ぜひ少しずつ始めてみてください。



～春休みにおこなった活動 In VIETNAM～

農村地域では子どもたちの印象に残る交流（文化交流）を行うため、今までよりも交流参加の人数を増やして日本式の運動会を行いました。競技内容は綱引きと玉入れに加えベトナムの競技を行いました。子どもたちの家は農具そのもので賑かに賑わっていました。景色には戸塚区民の方と作成した折り紙のメダルや駄菓子、ノートなどを渡しました。



～春休みにおこなった活動 In MYANMAR～

男の子のみが通う職業訓練の施設では英語を用いた交流を行いました。将来社会へ出るときに英語を使えるほうが視野が広がるから少しでも英語に興味を持ってほしいという先生の願いのもとこの交流を始めました。今回は英文を書く交流で、今まで習った単語を使って作ってもらいました。真剣に考え答えを導き出している様子が印象的でした。正解した時に喜ぶ様子が子どもたちの達成感を感じました。



◎ボランティア活動を通じて地域や大学とつながったと感じる

活動を行っていく中で、学生だけでは考えきれない事情が多く、たくさんの方に協力を必要とします。活動の幅を広げるにはより多くの方の協力や支援が必要であり、そのためには当団体のことを知ってもらう必要があります。それにあたり戸塚区にある「ふらつとステーション」さんにご協力いただき定期的にイベントを開催しています。また多くのOBOGの方々に、今なお交流に対してのアドバイスをいただいています。学生だけでなく多くの方の協力のもと私たちの活動は成り立っています。ボランティアを通して得た知識や疑問を大学の学びに生かすことができます。東南アジアに関する講義ではより意欲的に取り組み、新たな知識を得るだけでなくボランティア活動におけるヒントも得ることができています。



◎活動を通じて成長したと感じる

団体としては活動発足から23年目となり、活動する学生数も増えています。それだけでなく、団体の持続性を意識し認定NPOの法人取得に向けて学生内で話し合う機会も増えています。新地域への活動や活動の方向性の転換など今までの先輩方の想いを守りつつも新しいこととどんどんと挑戦して行っています。個人としては人の前で話すことが多くなり、相手が求めている情報や、より伝わりやすい話し方や方法を考え出すことができるようになりました。またそれだけでなく、企画立案時においても本当にアプローチしたい対象や目的は何なのかを常に批判的に考えることができるようになりました。自分がある間に結果を残したいという気持ちもありましたが、団体として子どもたちに今必要な交流は何か、より長く子どもたちの命を支援していける方法を考えることが大切であるということにも気づきました。



● MMM (みなとメディアミュージアム)

みなとメディアミュージアム

みなとメディアミュージアム2017報告
作品との対峙・人との対峙・場との対峙

テーマ設定「対峙したあと」

みなとメディアミュージアムは、MMM「はなまる亭」を以て、地産地消のアーティファクトの展示・発信の場として、地域と向き合い、作品との対峙、人との対峙、場との対峙を目的とした。今年度は、地域と向き合い、作品との対峙、人との対峙、場との対峙を目的とした。今年度は、地域と向き合い、作品との対峙、人との対峙、場との対峙を目的とした。

大賞作品「おのがすがたを うつてやみん」

Sho Kato 「おのがすがたを うつてやみん」
Sho Kato の作品は、環境問題をテーマにした、作品だけでなく、地域と向き合い、作品との対峙、人との対峙、場との対峙を目的とした。

地域連携

地域連携・小規模な活動の展開
地域連携・小規模な活動の展開
地域連携・小規模な活動の展開

まとめ・今後の課題

「MMM2018」以上の活動は、
「MMM2018」以上の活動は、
「MMM2018」以上の活動は、

みなとメディアミュージアム

みなとメディアミュージアム2017報告
作品との対峙・人との対峙・場との対峙

大賞作品紹介

「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」

代表あいさつ

私はこの度、MMM2018の代表を務めていただくことになりました。山形県を代表して、みなとメディアミュージアムに参加させていただきます。今年度は、地域と向き合い、作品との対峙、人との対峙、場との対峙を目的とした。

「おのがすがたを うつてやみん」

「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」

「おのがすがたを うつてやみん」

「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」
「おのがすがたを うつてやみん」

● MG オリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会

明治学院大学 MGオリンピック・パラリンピック プロジェクト 実行委員会

ABOUT US

MG オリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会は、2016年に明治学院大学の学生によって立ち上げられました。学生が主体となり、東京2020大会に関するイベントへの「参加」、それを「発信」することで、2020年東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げる人の輪を広げることを目指しています。

現在、その実現に向け、ボランティア・教育・国際交流・情報発信・大学連携の5つのプロジェクトに分かれ、活動しています。各プロジェクトは、それぞれの視点でオリンピック・パラリンピックと向き合い、それを団体に共有することで、学生がオリンピック・パラリンピックの大会ビジョンである「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を理解し、2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に貢献できるよう、取り組んでいます。

「発信」の取り組み

当団体では、ホームページをはじめ、Twitter・Instagram・Facebookの各種SNSを通じて、オリンピック・パラリンピックにまつわる情報や、実際に参加したイベントやボランティアなど私たちの活動について、随時情報を発信しています。是非チェックしてみてください！

HP
<https://www.meiji.ac.jp/campuslife/mgoly/mgoly2020/>

Twitter @MGU_olypara
Instagram @mg_olypara
Facebook @MG19642020



お問い合わせ

学生代表 永野 帆子 Monoko Nagano
E-mail: nagano.ag19642020@gmail.com

これまでの主な活動

【Tokyo2020 学園祭 (2017.6.24)】

オリンピックデーと東京2020大会の大学連携協定締結を記念し、明治学院大学で開催されました。13の大学と大会組織委員会を連携し、かつて、近代オリンピック競技の一つであった「芸術競技」をアレンジして、各大学の学生団体によるパフォーマンスバトルを実施しました。

【ボッチャを体験しよう! (2017.11.11)】

横浜キャンパスの体育館で横浜市立倉田小学校の児童を招き、教育プロジェクトのメンバーを中心にパラリンピック競技であるボッチャの体験会を開催しました。小学生からは「まだやりたい!」「楽しかった」など、嬉しい感想をたくさんいただきました。

【留学生交流会 (2018.5.14)】

国際プロジェクトが異文化交流イベントとして、横浜キャンパスにて留学生交流会を開催しました。メンバー手作りのカードで交流を深めたり、留学生から見た日本の姿や東京2020大会に向けてのあの方について意見を交わすなど、充実した時間を過ごすことができました。

【バスケット体験会 (2018.6.2)】

白金キャンパス体育館にて、恵いすバスケットボール元日木代表の三宅亮己さんをお招きし、体験会を実施。誰がいてもスポーツの現状について話を伺ったり、実際にミニゲームを行いました。三宅さんは「まずは競技に興味を持ってほしい」とお話をされました。

【Tokyo2020 学園祭 the2nd (2018.6.23)】

前年度に続き二度目の開催となった当イベントは、全国の連携大学生約1000人が参加し、東京2020大会に関するクイズやスポーツで「大学連携王」を決めるバトルが開催されました。当団体からも4名の代表者が出場し、見事優勝。初代大学連携王の座を手に入れました。

● キャンパスコンシェルジュ



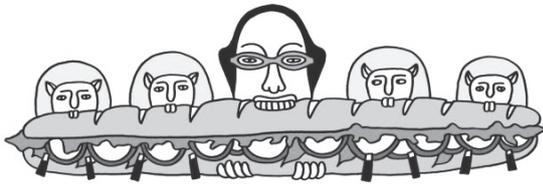
キャンパス コンシェルジュ

Campus Concierge

「全ての明学生により良いキャンパスライフを」
を理念に、
学生による学生のためのサポートチーム
として活動しています。

先輩学生が自らの経験を活かし、
相談に至らない「不安」レベルから、どんな質問にも対応します。
また、学生のニーズに応えるイベントの企画・運営、
大学の各部署との連携も行なっています。

拠点の8号館1階「**コモンズ8**」は、
勉強や話し合いなどに自由に使えるスペース
として解放しています。



私たちが大切にしている3つのこと

高校生・保護者案内

質問対応、式典補助

キャンパスツアー

定例ミーティング

① 受動的活動
質問・相談に応じて
案内をする

② 能動的活動
学生のニーズに
合わせた空間づくり
イベントの企画・運営

③ 意見提供
学生の声を
大学部署に届ける

広報活動

No. _____

大学の各窓口と
学生の架け橋になろう。

2013年に図書館で「アスクカウンター」として始動し早5年、
私たちは前例のない活動に楽しみながら取り組んでいます。組織のあり方について学び、自分自身の能力に気付き、様々な経験を通して組織として、さらに個人として成長してきました。

C a m p u s C o n c i e r g e

基本的に横浜キャンパスが活動拠点ですが、
様々な学部・学科・学年の
キャンパスコンシェルジュがいます。

また、キャンパスツアーや
戸塚まつりでの出店を通し、
地域との繋がりも実感しています。



今後も明学生のため、明学のため、
そして社会のために様々な方法で活動していき、
大学の更なる飛躍と成長を目指し
まい進していきます!!!

興味を持ってくださった方は是非、
コモンズ8におこし下さい。



拠点 8号館1階 コモンズ8

開室時間 平日 9:00~18:30

Twitter @meigaku_CC



Campus Concierge

● ハロプロ研究会

明治学院大学 ハロプロ研究会 (メガハロ)

メガハロ×ボランティア活動

横浜管理課の方より、戸塚まつりのチャリティライブのお手伝いに誘っていただいたことがきっかけで募金活動（ボランティア活動）に参加するようになりました。それからは戸塚まつりのチャリティライブはもちろん、白金祭のトークショーでも募金を集めるようになりました。

チャリティライブやトークショーの入場料を『お気持ち入場料』とし、みなさまから寄せられた入場料を全額、明治学院大学ボランティアセンターに託し、ボランティア活動のために役立てています！！

● 戸塚まつり・・・チャリティライブの開催



TOTSU 凸フェス 2016



TOTSU 凸フェス 2017

● 白金祭・・・ハロプロと関係のあるタレント、モデルなどのトークショーの開催



2017年にはPINK CRES.の夏焼雅さんと有吉反省会でお馴染みの、ばいばいでか美さんが出演していただきました！！

● これから展開してみたいボランティア

- ・ TOTSU 凸フェスの2日間開催
- ・ 白金祭でトークショーとミニライブの開催

来場人数が増加し、より多くの募金が期待できる！

メッセージ

チャリティライブやトークショーのお手伝いは大変なことも多いですが、なかなか体験することはできません。大学生のうちから芸能事務所の方と連絡をとり、アーティストのサポートをするということは自分の経験値をアップさせることもできます。そして、なによりチャリティライブやトークショーに来てくださるお客様が楽しんでもくれること、また SNSなどで「絶対にイベント行きます！」などと言ってもらえることが私たちのボランティア活動の励みにもなっています。また、これらのボランティア活動を行っていなければ横浜学生課やボランティアセンターなどの大学職員の方々と繋がることもなかったかもしれません。ボランティア活動をすることによって、困っている人々を助けるだけでなく、自分の人間関係も視野も広げることが出来るのではないのでしょうか。

● メガハロの日々の活動内容

メガハロでは週に1度昼食会を行っています。(白金・横浜の両キャンパス) 昼食会ではハロプロのDVDを鑑賞したり、話をしたりするなど、ハロプロを通じてみんなで仲良く活動しています。また、メガハロダンス部という活動もあり「踊ってみた動画」をYouTubeにアップしています。メガハロだけで定期的に行われる集まりはもちろん、他大学のハロプロ研究会と仲を深める集まりもあります。同じグループが好きな子同士でライブイベントに参加したり、みんなでハロプロ周りのカラオケをしたりするなど学年分けなく交流を深めています。

活動内容についてもっと知りたい方はメガハロ Twitterをチェックしてみてください！



● 僕らの夏休み Project



すべては子どもたちの笑顔のために

僕らの夏休み Project とは、東日本大震災をきっかけに発足した学生主体のボランティア団体です。

関東圏の大学生が夏休み等の長期休暇を利用して被災地を訪れ、子どもたちと長期的にふれあいながら、地域との交流を行っていくプロジェクトです。






～支部ミーティング～
週に一度、横浜キャンパスに明学のメンバーが集まって企画やイベントなどについて話し合いをします。



主な活動

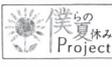
～夏企画～
僕らのメインイベント！子どもたちに最高の夏休みを届けます！
1週間岩手県を訪問し、大学生の考えたレクや実験などを通して、3日間小学生と交流します。最終日は地域のお祭りにも参加しています。





～僕らの総会議～
月に一度、約20大学、350人のメンバー（2018年3月現在）が集まり、より良い活動のために話し合い、メンバーの意識の高めあいをしています。





ボランティア活動をして…

成長した・良かったと感じる点

- ・コミュニティや繋がりが広がったこと
- ・東日本大震災について学べた
- ・自分の意見を伝えられるようになった
- ・他者の意見に耳を傾け、受け入れられるようになった



社会と繋がったと感じる点

- ・活動報告会に来てくれた方々と繋がったと感じる
- ・活動を通して、地域の子もたちだけでなく、大人の方々と繋がった



活動情報

☆支部ミーティング
場所：横浜キャンパス
時間：毎週月曜日 18時30分～20時30分

☆夏企画
期間：8月6日(月)～8月12日(日)

☆活動報告会
日程：9月16日(日)

☆秋の入会募集
10月から始まります！

☆連絡先(Twitter)
僕らの夏休み Project 明治学院大学支部アカウント→@MeiBokunatsu
僕らの夏休み Project 全体アカウント→@bokunatsu_pj









設立 20 周年に寄せて

卒業生から

学生メンバーとして、1 Day for Others リーダーとして、ボランティアファンド学生チャレンジ賞受賞団体として、ボランティアセンターとさまざまな関わりがあった卒業生も 10 月 20 日の記念イベントに参加してくださいました。本報告書では 2 名の方からメッセージをいただいております。

学生ボランティアフェストークセッションに参加して

「ボランティアは就活に役立つか」という質問が印象に残った。今の私の回答はイエス。なぜなら、ボランティア活動を通して、さまざまな立場や年齢の人たちと交流することは、キャンパスに留まっていたではできない経験で、仕事に生かしていると実感しているからだ。また、ボランティア活動をする際、何を求められているのか問いを立て、自分なりの答えを出し、行動する力は、必ず糧になると思う。しかしながら、これは結果論である。加えて、「就活に役立つためのボランティアか」という質問であれば、迷わずノーである。ボランティア活動は、自発的に取り組む社会活動で、見返りを求める行為ではないからだ。学生の頃の私が、「ボランティア」と「就活」を同じ文脈に乗せることも、乗せられることも好まなかったのは、そのような理由だったのだと振り返って思う。

だから、学生の皆さんには将来への希望を胸に、自信を持って、引き続きボランティア活動に励んでほしい。ボランティアセンターには、学生のさまざまな活動に取り組める環境がある。一方で、ボランティア活動の本質を常に考えて、一人でも多くの人の手助けになるような活動をしてほしい。

(2015 年度国際学部国際キャリア学科卒業)

ボランティアセンター 20 周年を迎えて

私は、元々ボランティアというものにまったく興味がなかったのである。たまたま友人に連れられ、説明会に行った際に成り行きで活動に参加することになった。

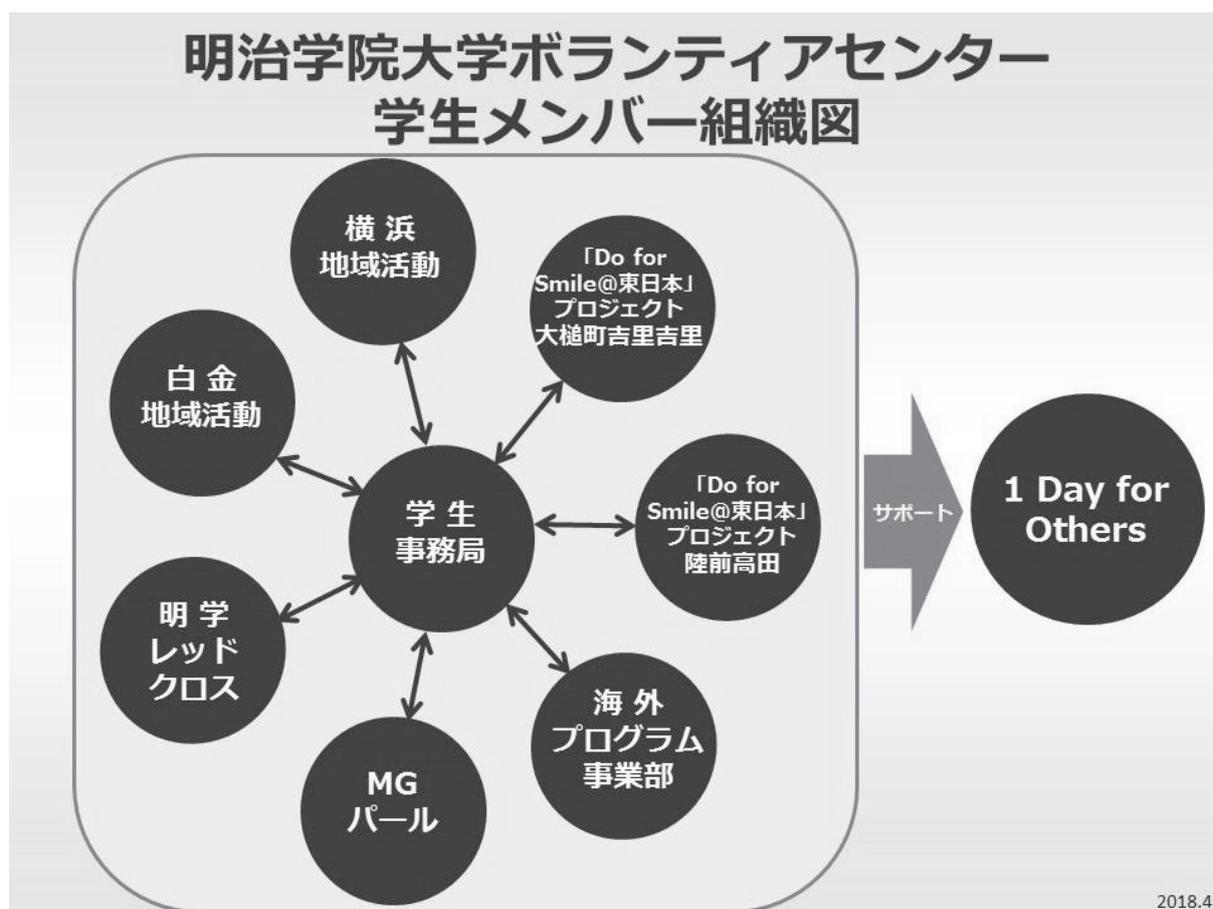
しかし、今思えばこれが一つのターニングポイントになったのではないかと思う。ボランティアという物はどこか高尚で難しいもの、一部の優秀な人がやるものだと考えていたが、いざ活動してみると今まで私が考えることのなかった国際問題の啓発やどのように組織を盛り上げるかといった 0→1 を作る活動でボランティアに興味がない私でも楽しいと感じられるものだった。それらの活動は「ボランティアをしている」ではなく、「楽しく充実していることをしている」感覚だった。そしてここでの経験は、現在の仕事でも大きく生かされているし、今後もこの経験を生かしていける分野で活躍したいと考えている。

最初はまったく興味のなかったボランティアも、自分なりの視点、自分なりの関わり方で興味があるものになり、将来を決定づけるきっかけともなった。今後も食わず嫌いをするのではなく、自分なりの視点で自分の興味の範疇に持っていき自分の可能性を広げていきたいと思っている。

(2016 年度国際学部国際学科卒業)

I 2018 年度活動報告

明治学院大学ボランティアセンター
学生メンバー組織図



ボランティアセンターには2018年度「学生メンバー」としてセクション活動に参加した学生が206名在籍した。複数のセクションに所属する学生もあり、セクション間の交流を図りながら積極的に活動に参加している。

<ボランティアセンターの学生セクションと学生事務局>

1. **地域活動**：大学近隣地域をベースに地域の一員として地域の活性化に取り組む
2. **「Do for Smile@東日本」プロジェクト**：東日本大震災で被害を受けた地域で子どもの遊び場づくりやお祭りへの参加、地域住民との交流など
3. **明学レッドクロス**：日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップのもと活動
4. **海外プログラム事業部**：地球規模で課題となっているさまざまな問題に取り組む
5. **MG パール**：マレーシア・ボルネオ島の森林保全・動物保護活動に取り組む
6. **学生事務局**：各セクションの横のつながりを維持し、さらには各セクションとボランティアセンターをつなぐ役割を担う

また、各セクションから選出された学生メンバーと公募の一般学生が運営委員・リーダーとなり、1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」を運営している。

2018年度ボランティアセンター行事一覧

センターとしての活動一覧です。学生セクションの活動はP40～P87をご参照ください。

4月	<p> 新入生対象学科別ガイダンス 新入生対象ボランティア活動アンケート実施 タイ・シーナカリンウィロート大学一行が来訪 「ボランティアセンター20周年行事学生事務局」メンバーを全学から募集 ボランティアセンターオリエンテーション (①②) 1 Day for Others 説明会 (①②③) 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム ガイダンス (①②) </p>
5月	<p> 横浜キャンパス 学生・職員合同防災訓練 ボランティアセンター学生メンバー交流会 国際機関実務体験プログラム説明会 (夏期) 第4回 Gakuvo Style Fund 活動報告会 2018年度第1回ボランティアセンター運営委員会 明治学院大学大学祭「戸塚まつり」 </p>
6月	<p> 第5回 Gakuvo Style Fund 説明会 1 Day for Others 春開催 (一部プログラムは5月開催) 国際機関実務体験プログラムオリエンテーション (夏期) 第5回 Gakuvo Style Fund 募集 明治学院同窓会東京世田谷支部「同窓生の集い」に出席 東京都作成「大学ボランティアセンター事例集 - 設立過程と活動のレポート -」に掲載 白金台児童館地域懇談会に出席 インテグレーション講座 (登録1年生対象) (①②) </p>
7月	<p> インテグレーション講座 (登録1年生対象) (③) 夏のボランティアフェア 2017年度 (横浜) 近隣自治会等役員との懇談会に出席 第5回 Gakuvo Style Fund プレゼン審査会 「平成30年7月豪雨」に伴う募金活動を実施 </p>
8～9月	<p> 1 Day for Others 春「振り返り会」開催 オープンキャンパスへの参加 (ボランティアミュージアム) インテグレーション講座 (登録1年生対象) (④) 「Do for Smile@東日本」プロジェクト夏期プログラム実施 国際機関実務体験プログラム実施 (夏期) 「平成30年北海道胆振東部地震」に伴う募金活動を実施 </p>
10月	<p> 東京都港区「みなと区民まつり」にボランティア参加 2018年度第2回ボランティアセンター運営委員会 国際機関実務体験プログラム説明会開催 (春期) ボランティアファンド学生チャレンジ賞2017最終報告会 1 Day for Others 秋開催 (10～12月) 設立20周年企画 (パネル展@横浜、公開講座、学生ボランティアフェス) </p>
11月	<p> 明治学院大学大学祭「白金祭」 ボランティアファンド学生チャレンジ賞2018募集 第3回「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」 インテグレーション講座 (登録1～3年生対象) 国際機関実務体験プログラムオリエンテーション (春期) 設立20周年企画 (パネル展@白金) </p>
12月	<p> 設立20周年企画 シンポジウム「分断が進む社会 他者とのつながりを求める意味とは」(朝日教育会議) 明治学院大学同窓会「現役学生・同窓生交流会」に出席 明治学院同窓会ウィメンズクラブ「くらはら会」クリスマス会に出席 1 Day for Others 秋「振り返り会」開催 ボランティアファンド学生チャレンジ賞2018授与式 第3回「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」授与式 </p>
1～3月	<p> 1 Day for Others 2019 サポート学生説明会 (随時) 白金台児童館地域懇談会に出席 国際機関実務体験プログラム実施 (春期) 2018年度第3回ボランティアセンター運営委員会 オープンキャンパスへの参加 (ボランティアミュージアム) 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム修了証授与式 設立20周年企画 (記念冊子『ボランティアセンター20年のあゆみ』作成) </p>

1 明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム

1.1 総括

「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」は、本学で活発に行われているボランティア実践と、大学の学びを融合する全学的な取り組みとして2016年度に始まった。

このプログラムは、①135時間以上のボランティア実践、②各学部学科と、共通科目を担当する教養教育センターが指定した科目のうち16単位の修得、③135時間のボランティア実践と、大学での学びを結びつけるための手がかりをつくる「インテグレーション講座（2016年度、2017年度登録学生は3回、2018年度登録学生は4回）」を受講した学生に、サティフィケート（修了証）を授与するものである。

本年度は3年目となり、2016年度に登録した学生（3年生）が認証を受ける。2019年1月時点で10名を越える学生がインテグレーション講座を終え、自身のボランティア実践と大学での学びを結びつけた最終報告書を提出している。第2回以降のインテグレーション講座は、各学部から選出された運営委員の協力を受け、全学的な体制できめ細やかな指導体制を構築することができたことに感謝したい。また、2016年度登録学生（3年生）の報告を聞くことで、2017年度登録学生（2年生／2019年1月段階で17名が登録）も進級以降の履修・学習について検討する手がかりを得ることができた。

2018年度登録学生（1年生／2019年1月段階で33名が登録）については、これまで実施してきた第1回インテグレーション講座（6月～8月に実施）に加えて、「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」の聴講、教養教育センターの運営委員によるボランティア学のレクチャーを受けることがインテグレーション講座として加わった（いずれも2018年11月10日に白金キャンパスで実施した）。これによって、第1回インテグレーション講座と、第2回インテグレーション講座までの間に1年以上空白期間があるという問題を解消し、登録学生の本プログラムへの動機付けを高めていくことができると考えている。また、2017年度に着任した本プログラムを担当する非常勤コーディネーターが、学生のボランティア実践に対するフィードバックをするとともに、2016年度生に対しては第3回インテグレーション講座で行うプレゼンテーションに向けた指導や、最終報告書についての相談も行っている。

初めての認証を行った経験を踏まえて、2019年度は本プログラムの意味を深められるような検証と改善を引き続き行っていく。

（ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平）

1.2 2018年度スケジュール

日にち	内容
4月	新入生向け学科別ガイダンスにて「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」について告知
① 4月23日(月)	ガイダンスの実施
② 4月25日(水)	「ボランティアと教育の連携についての意義、プログラムの概要」を説明
5月	ショート講座 「1Dayに参加してみよう」対象：全学生（横浜：5/14、5/28） 「11月の発表に向けて見通しをもとう」対象：登録3年生（横浜：5/7、5/21、白金：5/9、5/30）
5月16日(水)	インテグレーション講座の告知・エントリー受付開始
6月	ショート講座 「ボランティアを探してみよう」対象：全学生（横浜：6/13、6/25） 「自分のボランティアをアピールしよう」対象：2・3年生（横浜：6/4、6/18、白金：6/6、6/20）
① 6月26日(火)	インテグレーション講座 対象：登録1年生（2年生も可）
② 6月27日(水)	【テーマ】「ボランティア実践から学ぶとは」
③ 7月7日(土)	【内容】「大学での学び」と「ボランティア実践からの学び」の違いについて理解を深めた。
④ 8月2日(木)	【講師】猪瀬浩平（ボランティアセンター長補佐 教養教育センター教授） 中原美香（ボランティアコーディネーター） 田口めぐみ（ボランティアコーディネーター）
7月	ショート講座 「ボランティアに触れてみよう（人形劇のための紙人形を作ってみよう）」 対象：全学生（横浜：7/2、7/4）
9月	ショート講座 「まずは、テーマを考えてみよう」対象：登録3年生（横浜：9/25、白金：9/26）
10月	ショート講座 「ボラチャレを活用してみよう」対象：全学生（横浜：10/10、10/22） 「ボランティア実践と学びのつながりをまとめてみよう」対象：登録3年生（横浜：10/15、白金：10/17）
11月	ショート講座 「パワーポイントを仕上げよう」対象：登録3年生（横浜：10/29、11/5、白金：10/31、11/7）
11月10日(土)	インテグレーション講座 対象：全登録生 【テーマ】 登録1年生「ボランティア実践に基づく大学での学びについて知る」 登録2年生「自分のボランティア実践を大学での学びに結びつける」

	<p>登録3年生「ボランティア実践と大学での学びを融合した私の“Do for Others”」</p> <p>【内 容】 午前部：「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」の発表を全登録生が聴講。登録1年生は1年生向けのボランティア学のレクチャーを受講しワークシートを提出。 午後部：学部に分かれ、登録3年生は自らの「ボランティア実践と大学での学び」での成果をプレゼンテーションした。登録2年生は聴講のうえ、レポートを提出。 また、登録2年生がそれぞれの学びと活動の現状を報告し、登録3年生が自身の経験に基づきアドバイスした。</p> <p>【講 師】 午前部：発表学生 1年生向けボランティア学レクチャー：教養教育センター運営委員 午後部：各学部の運営委員の先生方、登録3年生</p>
12月	<p>ショート講座 「1Day サポート学生にチャレンジしよう」対象：全学生（横浜：12/10、12/11） 「最終報告書作成相談」対象：登録3年生（横浜：12/3、12/17、白金：12/5、12/19）</p>
1月	<p>ショート講座 「春休みにボランティアをしてみよう」対象：全学生（横浜：1/9、1/23） 「最終報告書の提出前確認相談」対象：登録3年生（横浜：1/21、1/28、白金：1/16、1/30）</p>
4、6、8、10、1月	「サティフィケートプログラムだより」発行
3月22日（金）	修了証授与式（認定対象者：12名）

1.3 2018年度プログラム登録者数

	学部						合計
	文	経済	社会	法	国際	心理	
2016年度生 （第3回インテグレーション講座 （2018.11）を受講した者）	0	0	9	2	2	2	15
2017年度生 （第2回インテグレーション講座 （2018.11）を受講した者）	3	3	3	0	5	3	17
2018年度生 （第1回インテグレーション講座 （2018.6-8）を受講した者）	8	10	14	6	18	9	65
合計	11	13	26	8	25	14	97

1.4 取り組みのようす

今年度の1年生を迎えて登録1年目から3年目までが初めて揃った。11月10日のインテグレーション講座では3学年が一同に集まり、登録年度に応じてそれぞれの学びを深めることができた。3年生は「ボランティア実践と大学での学びを融合した私の“Do for Others”」としてパワーポイントで発表し、それを2年生が聴講した。3学年が揃うことで上の学年がこのプログラムの取り組みの道しるべとなって、下の学年の学びを深める体制が整ったと言える。

1.5 学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会

「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の関連企画として、全3、4年生をエントリー対象として開催した。自身に取り組んだボランティア実践と、学部・学科の授業における学びを関連付け、双方の深まりを図った事例の発表の場を提供し、優れた発表に対して学長賞等を授与するものである。

一次審査（書類審査）を通過した学生が、2018年11月10日に発表を行った（一般公開）。この発表を2017、2018年度登録学生が「第2回インテグレーション講座」の先輩学生の発表として聴講した。

「学びに基づくボランティア実践プレゼンテーション大会」では、厳正なる選考の結果、下記の学生の入賞が決定した。

【テーマ】“Do for Others”の実現のために 「大学での学び」と「ボランティア実践」との連携

学長賞	1名
社会学部社会福祉学科3年	山田実玖
ボランティアセンター運営委員長賞	2名
社会学部社会福祉学科3年	佐藤千香子
社会学部社会福祉学科3年	奈須ひなた
ボランティアセンター長賞	2名
社会学部社会学科4年	毛利光咲
社会学部社会福祉学科3年	佐伯夏風
奨励賞	2名
心理学部教育発達学科4年	柴田康平
社会学部社会福祉学科3年	岩崎奏枝



※受賞者の皆さんの学びとボランティア実践の取り組みをボランティアセンターウェブサイトで紹介しています。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/certificate/news/2018/2019-02-26.html>

(ボランティアコーディネーター 田口めぐみ)

2 1 Day for Others (1日社会貢献プログラム)

職員総括

2018年度の1日社会貢献プログラム「1 Day for Others」は変化の年であった。2011年度よりスタートした「1 Day for Others」(以下、1Day)はこれまで多くの企業、団体のご協力をいただき、8年間で延べ約4,800名の学生がそれぞれの受入団体の活動や講義、イベントに参加させていただき、団体の活動理念や思いに触れ、体験をすることで多くのことを学び、感じさせていただいた。大学に入学してから間もない新入生を含め、上級生もが、「1日」だけではあるが社会と関わらせていただくことで、本学の教育理念である“Do for Others”を自然に体感し、人のための活動、社会貢献活動とはなんなのかを考え、卒業後に社会に出てからの自らのキャリアを考える「きっかけ」をつかむプログラムになるようにボランティアセンターとしては願っている。このようなプログラムを実現できているのもひとえに1Dayをご理解いただいている受入先の皆さまのご尽力の賜物と強く感じている。この場をお借りしてまずは感謝を申し上げたい。

冒頭に、2018年度の1Dayは「変化の年」という表現をした。1Dayがスタートした2011年度のプログラム数は、「23」であった。2018年度は「70」の受入先にご協力いただいたが、そのうち「11」のプログラムは新規受入団体のご提供くださったプログラムである。新規のプログラムには学生の考案から発したプログラムもあった。一例として株式会社ディー・エヌ・エーにご協力いただき本学横浜キャンパスにて開催した地域の子どもたちを対象とした「プログラミング講座」、スマートイルミネーション横浜実行委員会にご協力いただいた環境技術とアートが織りなす世界のどこにもない夜景作りのプロジェクト「スマートイルミネーション横浜」、横浜市港南区国際交流ラウンジにご協力いただいた「日本語を母語としない子どもたちのための学習教室」等が挙げられる。学生目線のプログラムが実施されたことで「1Day」に新しい風を取り込めたと考える。長年にわたりプログラムを提供いただいて熟成され、完成されたプログラムと新規のプログラムの融合により、数だけでは現れないプログラム全体の多様性が生まれた。実際に参加学生に行ったアンケート調査の満足度を問う項目では、「大満足」「満足」「普通」「やや不満足」「不満足」の選択肢の中から「大満足」「満足」を選択した参加者が「90%」を超える高い水準の回答が得られた。一人の学生が複数のプログラムに参加したり、前年参加したプログラムに再び参加するいわゆるリピーターの参加者も多かったことから、プログラム自体の満足度が高かったことが裏づけられている。

一方で前年度762名を数えた参加者が711名まで減少したこと、プログラムを当日欠席する学生が一定数発生してしまったことが課題として挙げられる。参加者数については、年度によっての大学入学者数や在籍者数の増減があり変化するものであるため一概に大きな課題とは言えないが、プログラム当日欠席の学生については、体調管理の指示不足等、ボランティアセンターからの指導不足によるものであったと反省している。当日欠席の学生が発生しなければ、参加人数の減少も食い止められた。なにより、時間をかけて準備いただいていた受入先の皆さまにご迷惑をお掛けしたことを大変心苦しく感じている。2019年度実施に際してはボランティアセンター内でも学生指導を徹底して行いたいと考える。あわせて8年という年月の中で培った伝統を残しつつ、2018年度のように新たなかたちのプログラムも学生に提供できればと考える。2019年度においても多くの学生がプログラムに参加し、大学生生活ひいてはキャリア形成の一助になることを期待する。

(職員 青木洋治)

1Day 運営委員総括

私は、1 Day for Others（以下 1Day）運営委員会に所属しており、今年度は 1Day の新規プログラム開拓に力を入れ、株式会社ディー・エヌ・エー（以下 DeNA）と提携したプログラムを実現させた。過去に参加した 1Day のプログラムの経験から企業の CSR 活動に注目し、DeNA が小学生に対して CSR 活動としてプログラミング教育を行っていることを知った。そこで DeNA に協力を依頼して、DeNA と提携した 1Day の新規プログラムとして実施が決まった。

DeNA がプログラミング教育活動に利用している教育アプリ「プログラミングゼミ」を使用して、明治学院大学の学生が小学生に対してプログラミング教育を行い、DeNA の CSR 活動を実際に体験させていただいた。プログラム当日は、13 時と 15 時からの 2 部構成で実施し、天候は雨だったが、どちらの回も 19 名ずつ計 38 名の小学生がプログラミング講座に参加していただき、非常に充実したプログラムとなった。

今回の活動を通して学んだことは、一から企画を立てることの難しさと、それをやり遂げた時の達成感である。本企画は、初めて自分で一から作りあげるプログラムであったため、どのようにしたら参加者にとって満足感のあるプログラムになるか考えることや、会場の設営等、企画立案から実施まで難しさに直面することも多々あったが、ボランティアセンター職員の方の支えもあり、無事にプログラムを成功させることができた。プログラム終了後の参加者アンケートでは、92%の方から大変満足と好評価を頂けたことや、「私もこの学校に通いたい」など、嬉しい意見を頂けたことが特に印象に残っており、一からの企画に挑戦して良かったと実感した。

1 Day for Others をはじめ、ボランティア活動を通してさまざまな人と接することで、新しい発見が多くあり、その経験が自分にとって新たな方向性となった。今後もボランティア活動をはじめ、さまざまなことに挑戦し、自分自身の成長につなげていきたい。また、大学生活の中で明治学院大学職員の方々にさまざまな面で支えていただいた。将来、私も学生の成長を支える立場となって、自身の成長を還元したいと考えている。

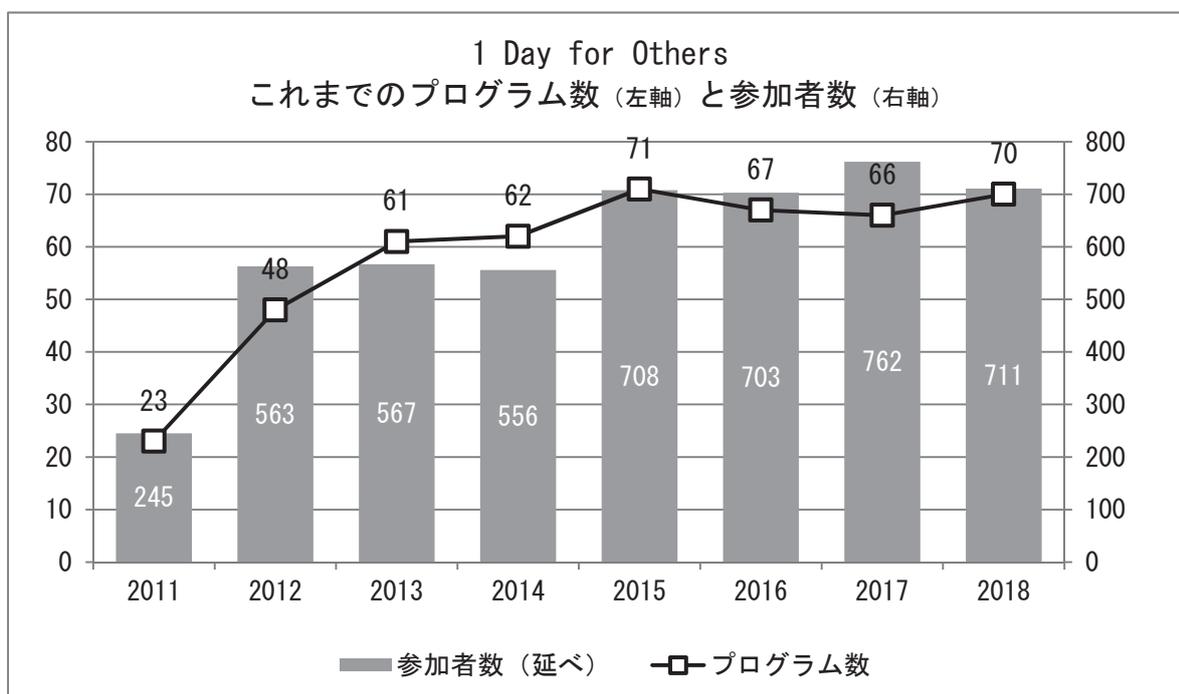
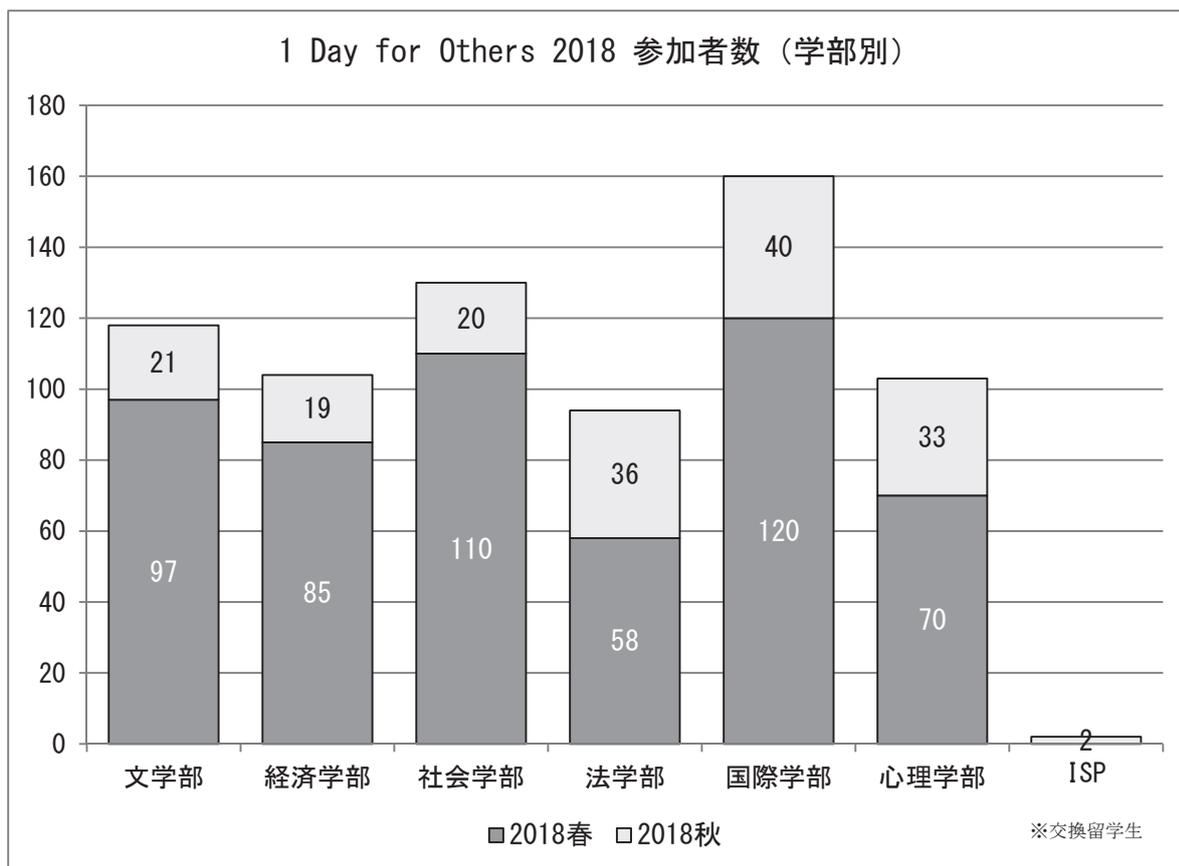
（学生メンバー 法学部消費情報環境法学科）



まず学生が「プログラミングゼミ」を学びます



午後は公募の小学生を招いて講師に



1 Day for Others 2018 春 プログラムリスト

コース分類	NO	企業および団体名	プログラム名	実施日	参加人数
①人とのつながりを実感	1	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	こどもとふれあおう とつとの芽 [ブチ 1Day]	4/21	5名
	2	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	こどもとふれあおう とつとの芽 [ブチ 1Day]	5/19	5名
	3	ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2017 受賞団体 ハム	1日のできる手話講座	5/19	25名
	4	NPO 法人 みなと子ども食堂	夕食作りを通して子どもたちや地域の人とコミュニケーションをしよう!	5/30	3名
	5	戸塚原宿商店街 松栄会	ふれあいフリーマーケット	6/3	38名
	6	宗教法人 善了寺	デイサービス「還る家ともに」～穏やかな一日を体験	6/9	3名
	7	特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール	小学生と一緒に作る、わくわく土曜日	6/9	7名
	8	ことぶき学童保育	Let's enjoy 学童保育～遊びから学ぶこと～	6/9	11名
	9	コミュニティスペース ふらっとステーション・とつか	サンドアート体験～地域の方との交流を深めよう～	6/10	8名
	10	社会福祉法人 のびのび福祉会	障がい者支援に参加しよう!	6/13	5名
	11	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	とつとの芽で子どもたちと遊ぼう!	6/16	5名
	12	芝の家	多世代交流拠点「芝の家」体験	6/16	5名
	13	フードバンクかわさき	食と心を支えるフードバンクかわさき	6/16	7名
	14	NPO 法人 ばれっと	ユニバーサルスポーツ大会 ～障がい者の方と触れ合おう～	6/17	2名
	15	とつか区民活動センター	外国へつながる活動について語り合おう!	6/17	2名
	16	スープの会	スープで温める「ホームレス」状態の方々との繋がり ～私たちが気づく「路上の出会い」～	6/23	3名
	17	港区立麻布子ども中高生ブラザ	おいでよ! 子どもたちとスポーツしよう!	6/23	5名
	18	公益社団法人 ジュニア・アチーブメント日本	子どもたちの職業体験をサポートしよう!	6/30	6名
	19	特定非営利活動法人 マドレボニータ	赤ちゃんや、夫婦と一緒にバランスボールエクササイズ! 産後の社会問題について一緒に考えよう!	6/30	3名
	20	一般社団法人 スマイルウォーキング倶楽部	元バリコレモデルから学ぶ障がい者の可能性! 障がい者と創る サマーファッションショー!	6/30	18名
	21	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	こどもとふれあおう とつとの芽 [ブチ 1Day]	7/21	3名
②地球規模で社会課題に取り組む	22	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 WFP 協会	国連 WFP 協会主催イベント「ウォーク・ザ・ワールド」 ～チャリティーイベントを盛り上げよう～	5/13	20名
	23	特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト	銀座でサツマイモ植え～都市緑化を体験しよう～	5/16	10名
	24	あーすフェスタかながわ 2018 実行委員会	あーすフェスタで多文化交流しよう!	5/19	15名
	25	あーすフェスタかながわ 2018 実行委員会	あーすフェスタで多文化交流しよう!	5/20	15名
	26	特定非営利活動法人 ワールドランナーズ・ジャパン	チャリティーマラソン大会を一緒に盛り上げて、 国際ボランティア!	5/20	36名
	27	特定非営利活動法人 アクションポート横浜	横浜の NPO と学生をつなぐ! NPO インターンシッププログラム運営	6/2	10名
	28	見沼田んぼ福祉農園	農業で人の「輪」を広げよう! 見沼田んぼ福祉農園	6/10	8名
	29	特定非営利活動法人 国際交流ハーティ港南台	日本語学習ボランティア ～様々な国の方々と国際交流しよう～	6/15	5名
	30	日本赤十字社 神奈川県支部	あなたの一歩が命を救う 赤十字救急法基礎講習	6/16	12名
	31	ファイバーリサイクルネットワーク (FRN)	古着から考えるリサイクル ～タンスの奥に眠った着物等を呼び覚ます!～	6/16	6名
	32	Y's farm	「田畑から食卓まで」 ～無農薬田んぼ体験と手作り Pizza Lunch～	6/16	20名
	33	久地円筒分水サポートクラブ	住宅地にも国の登録文化財はある! 円筒分水、広場の美化活動に参加しよう!!	6/16	6名
	34	オイシックスドット大地 株式会社 (現: オイシックス・ラ・大地 株式会社)	100万人のキャンドルナイト でんきを消して、スローな夜を	6/16	11名
	35	横浜市港南国際交流ラウンジ	日本語を母国語としない子どもたちのための学習教室 (はっば)	6/23	4名
	36	横浜自然観察の森	自然あふれる森の中でホテルを観察しよう! ～環境保全ボランティア体験～	6/23	3名

コース分類	NO	企業および団体名	プログラム名	実施日	参加人数
②地球規模で社会課題に取り組む	37	一般社団法人 ミャンマー祭り	異文化とイベント運営を学べる場！ ミャンマー祭り 2018	6/30	2名
	38	一般社団法人 ミャンマー祭り	異文化とイベント運営を学べる場！ ミャンマー祭り 2018	7/1	9名
	39	横浜市港南国際交流ラウンジ	カルチャー交流サロン 西アフリカ・ギニアってどんな国？	7/1	3名
	40	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン	世界の女の子たちの現状を知ろう ～私たちが今動けば未来は変わる！～	7/4	6名
	41	NPO iPledge	由比ガ浜海岸クリーン & ピースプロジェクト 2018	7/14	11名
	42	一般社団法人 日本スリランカビジネス評議会	スリランカフェスティバル 2018 ボランティア	8/4	10名
	43	一般社団法人 日本スリランカビジネス評議会	スリランカフェスティバル 2018 ボランティア	8/5	16名
社会課題に挑戦 ③ビジネスで	44	株式会社 ユーズ	あなたの街にも回収ステーションがあるかも？ 油のリサイクルを学ぼう！	6/2	5名
	45	株式会社 スワン	パンを一緒に売って、障がいについて知ろう	6/4	3名
	46	株式会社 マザーハウス	途上国ブランドと見つける“これから”の学生生活	6/9	17名
CSRについて知る ④企業の社会的責任	47	株式会社 資生堂	資生堂 ライフクオリティメーカーキャップ ～化粧の力で笑顔を増やそう！～	5/26	20名
	48	株式会社 イオンフォレスト (ザ・ボディショップ)	THE BODY SHOP (ザ・ボディショップ) でハンドトリートメントを学んでコミュニティ活動体験をしよう！	6/6	6名
	49	ソニーマーケティング 株式会社	社会貢献につながる、SONY の商品・サービスを企画しよう	6/6	27名
	50	日本電気 株式会社 (NEC)	イノベーションで笑顔あふれる社会に ～NEC の社会貢献活動を学び参加しよう～	6/13	12名
	51	株式会社 ディー・エヌ・エー (DeNA)	DeNA のイベントで子どもたちをサポートしよう	6/16	7名
	52	株式会社 セールスフォース・ドットコム	グローバル企業とボランティア ～社員さんとの交流で学ぶ社会貢献～	6/27	10名
	53	株式会社 エイチ・アイ・エス	H.I.S (旅×SDGs) 持続可能な旅の為に旅行業界がすべきこと	6/30	26名

1 Day for Others 2018 秋 プログラムリスト

コース分類	NO	企業および団体名	プログラム名	実施日	参加人数
①	1	とつか宿場まつり実行委員会	とつか宿場まつり 地域のお祭りを一緒に運営しよう！	9/23	44名
	2	宗教法人 善了寺	デイサービス「還る家ともに」～穏やかな一日を体験	10/13	3名
	3	戸塚原宿商店街 松栄会	ふれあいフリーマーケット	10/14	27名
	4	神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーすぶらざ)	あーすぶらざのハロウィンイベントを盛り上げよう！	10/28	9名
	5	スマートイルミネーション横浜実行委員会	スマートイルミネーション横浜	10/31	15名
	6	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	こどもとふれあおう とつとの芽 [プチ 1Day]	11/17	5名
	7	NPO 法人 みなと子ども食堂	夕食作りを通して子どもたちや地域の人とコミュニケーションをとろう！	11/21	1名
	8	コミュニティスペース ふらっとステーション・とつか	デコパージュで作るオリジナルパスケース	12/2	5名
	9	芝の家	多世代交流拠点「芝の家」体験	12/8	2名
	10	特定非営利活動法人 アクションポート横浜	横浜サンプラザプロジェクト	12/8	13名
②	11	特定非営利活動法人 ワールドランナーズ・ジャパン	AFRICA パートナーシップラン in 稲城	9/29	5名
	12	特定非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト	銀座でサツマイモ掘り	10/17	7名
	13	認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK (樹恩ネットワーク)	多摩の森・大自然塾～学生編～	11/11	6名
	14	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 WFP 協会	高島屋で限定サンタの人形販売～オリジナルチャリティー商品販売から世界の食糧問題について考えよう！～【午前の部】	11/21	11名
	15	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 WFP 協会	高島屋で限定サンタの人形販売～オリジナルチャリティー商品販売から世界の食糧問題について考えよう！～【午後の部】	11/21	5名
	16	一般社団法人 ミャンマー祭り	異文化とイベント運営を学べる場！ ミャンマー祭り 2019	12/8	8名
③	17	パタゴニア 横浜・関内	アウトドアアパレルメーカー「パタゴニア」の環境 CSR 活動について理解を深めよう	11/16	5名

3 「Do for Smile@東日本」プロジェクト（東日本大震災復興支援）

3.1 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム

学生チーフ総括

2018年度の本活動で特筆すべき点は、吉里吉里学園中学部における学習支援活動の収束化だろう。従来、私たちは主に子どもを対象とした活動を展開していただけに、その決断は大きな転機になった。具体的にそれは、本活動の性質が「復興支援活動」から「地域コミュニティ支援」に変化しているのだという認識を私たちにもたらせてくれた。加えて、それらは「私たちの活動は果たして復興支援なのか」という問いからの逃げではなく、むしろ「大槌のためになにができるか」という視野の広がりにもつながったと私は感じている。

広がりという点で言えば、Gakuvo Style Fund という学外の奨励金制度を利用して新たな活動（吉里吉里マップ作成）を行ったり、現地で他大学の学生と協働したりして学生間のつながりを増やすなどして、活動の幅が広まった。その際に私は、本活動を外から客観視できていることを実感し、この感覚を大切にしたいと考えた。したがって、日頃私たちがお世話になっているボランティアセンター等に感謝しつつ、同時に、学外へ飛び出していくような精神や姿勢も大切にしたい。そしてそれが、大槌のためになるのであればなおさらのことである。

2019年3月23日（土）には、かつてのJR山田線が新しく三陸鉄道リアス線としておよそ8年ぶりに開通する。ぜひ今の大槌を訪れてみてほしい。

（学生メンバー 法学部消費情報環境法学科）

2019年3月11日で東日本大震災から8年が経つ。町は大きく変わり震災の跡は目に見えなくなりつつある。また、大槌町旧役場の解体工事も始まるなど町全体でも大きな変化が見られる1年であったように感じる。私たちも復興支援としての活動からの転換期にあるのではないかと考え、悩みながら今年度は従来の活動よりも範囲や視点を広く持つように意識し、活動してきた。

従来の活動のうち、関係各所へのアンケートの結果からその活動へのニーズが感じられないことから学習支援の活動が収束となった。今年度で大きな決断の一つであったように考える。このようなニーズの変化は復興が進んでいることを表していることであり、寂しくも喜ばしいことであるように感じた。震災当時から続いてきていた活動の収束はタイミングや方法も考えて行動しなければならず判断するのは難しい。しかし、学生が考え決断したことは非常に意味のあることであったと私は考える。

現在、復興支援として学生にできることは限られてきている。一方で学生の力を必要とする場もあり、復興支援に限らずニーズは存在している。震災を知らない世代が増えていくなか、私たちは8年前に起きたことにしっかりと向き合い続けなければならないと考える。震災を忘れないこと、それが風化をさせたくないという地域の方々の声に応える一つの方法であり、この活動に関わる者としての責務であると考え。今までのつながりを大切に今後の活動のありかたも考えていかなければならないと考える。

この1年間も大槌町の皆さま、そしてこの活動に関わるすべての方々の方々の支えで学生一同、さまざまなことを学び、考える機会をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

（学生メンバー 法学部法律学科）

●2018年度「明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム」の主な活動

日にち（移動日含む）	内容（参加人数）
5/18（金）～5/21（月）	吉里吉里学園小学部運動会に参加（8名）
5/26（土）・5/27（日）	大学祭「戸塚まつり」で「デコ鮭」ワークショップを実施（5/26：13名、5/27：6名）
6/8（金）～6/11（月）	大槌町文化交流センター（愛称：おしゃっち）オープン記念イベントにボランティア参加（6名）
6/15（金）～6/18（月）	スタディツアー（17名）
8/2（木）～8/11（土）	吉里吉里学園小学部で「サマースクール（コラボ・スクール）」に参加（26名）
8/27（月）～9/1（土）	吉里吉里学園小学部での授業「ふるさと科」に参加（9名）
9/1（土）	「復興支援大学校」に参加（4名）
9/14（金）～9/18（火）	「きりきりじゅく」を実施（10名）
10/5（金）～10/8（月）	「吉里吉里大運動会」（地域の運動会）に参加（10名）
11/23（金）～11/26（月）	吉里吉里学園小学部で「わんぱく広場」を実施（10名）
12/14（金）～12/17（月）	「吉里吉里マップ」作成の調査（5名）

◇戸塚まつり

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現地のみの活動ではなく、関東という別の地域でセクションの活動を発信する機会とする ・戸塚まつりに参加し、今後さまざまな場所での発信の機会を展開していくうえで、今回の経験を生かす ・新入生が活動するにあたり、より吉里吉里についての知識を深める機会とする
場所	横浜キャンパス ボランティアセンター内
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・Shake Hand のデコ鮭作成体験、デコ鮭の物販 ・「Do for Smile@東日本」プロジェクト活動パネル展示
活動日時、参加人数	2018年5月26日（土）13：30～18：00、13名 5月27日（日）10：00～16：00、6名

実施概要

2018年2月の合同スタディツアーの際に「おおつち おばちゃんくらぶ（以下、おばちゃんくらぶ）」で体験させていただいた「デコ鮭」作りを戸塚まつり来場者の方に体験してもらいたいと企画。おばちゃんくらぶ作成のデコ鮭を事前購入し、販売・作成ワークショップを行った。同時に、私たちの日頃の活動を理解してもらえよう紹介パネルおよび立て看板も設置した。ワークショップ参加者には作ったデコ鮭に自ら値段をつけてもらい、おばちゃんクラブ作成のデコ鮭の販売も行った。用意していたデコ鮭は完売することができた。このことは個性あふれるデコ鮭が元気良く外に泳いでいったようにも感じられた。

感想・活動を通して得た学び

このワークショップは私が初めて行ったボランティアであった。自分の手から生まれたデコ鮭が多く

の方の役に立っているという実感はあまりわいてこなかったが、どこかで役に立っているということを願って活動を行うことの大切さを学ぶことができた。また今まで知らなかった活動を理解し、知らない方に広めていくことが活動を行ううえでの本当の意義になるということも学んだ。ボランティアには、はっきりした形はないのだということを感じることができた。

今後に向けて

これからもおばちゃんクラブの活動は続いていく。しかしこの活動は、まだまだ周知されていないのが現状であると感じた。デコ鮭の活動が広まっていくためには多くの理解が必要である。私たちにできることは、東北で行われているおばちゃんクラブの活動を関東などの身近な場所で広めていくことである。デコ鮭が、作った本人の手から多くの方の手へと渡っていくのと同じように、この活動も私たちから日本や世界中の人へと広まっていけたらいいと考えている。

(学生メンバー 心理学部教育発達学科)

◇大槌町文化交流センター（おしゃっち）オープン記念イベント

目的	吉里吉里だけでなく今後の活動の幅を広げるきっかけにするために、オープニングイベントを成功させる
場所	岩手県大槌町文化交流センター 愛称：おしゃっち（岩手県大槌町末広町）
活動内容	オープニングイベントのお手伝い
活動日時、参加人数	2018年6月9日（土）14：00～21：00（※午前中はおおつち おばちゃんクラブに伺い、戸塚まつりの売り上げ費をお渡しした）、6月10日（日）9：00～17：00、6名

実施概要

6月10日に行われた大槌町文化交流センター（愛称：おしゃっち）のオープニングイベントに参加した。主な活動内容は前日のイベント準備および当日の運営のお手伝いである。その他にもおおつち おばちゃんクラブに伺い、石鱈のデコパージュを作ったり、お手伝いの合間には地域の方と交流をしたりした。また、施設内の震災伝承展示室では映像や震災に関する本を見せていただいた。

感想・活動を通して得た学び

おしゃっちは多くのことを考えさせられる場所で、復興のシンボルでもある。施設内には伝承室の映像、震災前の大槌町の模型、震災に関する本があり、震災を忘れないというメッセージが伝わってくる。また、施設内で多くの意見が飛び交うことは、風化を防いでいる。辛い経験をしても新しいことを喜び合う地域の方と時間を共有することで、大切なことはつながり続けることであるとわかった。改めてセクション名に「復興」が入っていて、その復興が震災復興から地域復興に変わった意味を理解することができた。

今後に向けて

今までは吉里吉里に限定した活動だったので先輩方から引き継いできたものを実践すれば良かった。しかし、今回は明学生の存在を知らない方々との交流だったので、再び活動させていただけるように、より責任ある行動が必要とされていた。また、私たちが知らない輪に入ることは新たな挑戦でもあった。この経験により視野が広がって、大槌町での今後の活動に繋げることができた。また、以前の活動でお

話をいただいたこともあり図書館の活動は次につながった活動として大きな意味があったと考えている。

(学生メンバー 文学部英文学科)

◇スタディツアー

目的	震災から7年がたった吉里吉里の町が今どのような状況なのかを視察する。 地域の方のお話をきいて、過去と現在のニーズの違いを吸収し、今後の活動にいかす。
場所	岩手県大槌町吉里吉里地区
活動内容	語り部による大槌町の案内/地域住民の方々から震災や街についての話を直接伺う/ 活動を継続している学生による町案内/調べ学習
活動日時、 参加人数	2018年6月16日(土)～6月17日(日) 17名

◇サマースクール（コラボ・スクール、わんぱく広場）

目的	・子どもたちにとって安心・安全な遊び場を作る ・吉里吉里学園小学部の子どもたちとの距離を縮めるとともに明学生間の連携を強める
場所	岩手県大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	コラボ・スクールのサポート、わんぱく広場の実施
活動日時、 参加人数	2018年8月3日(金)～8月10日(金) 8:15～17:30 26名

実施概要

午前中は、大槌町教育委員会が行っている、夏期期間の子どもたちの学習を進める活動であるコラボ・スクールに参加し、学生1人に対し小学生2～3人の学習をサポート。子どもたちと一緒に昼食を食べ、午後は晴天時は保護者監視のもと、プールに入り、雨天時は体育館で通常のわんぱく広場にならない、ボールを使った運動などを行った。

コラボ・スクールが行われない土日は、町の図書館にて震災の学習を行ったり、公民館近くにある地域の方と一緒に作っている「すまいる花壇」の整備を行った。



感想・活動を通して得た学び

子どもたちに勉強を教えるのが初めてという学生もいたが、臨機応変な対応ができ、子どもも学生もともに成長することができた活動となった。また、コラボ・スクールを行っている認定NPO法人カタリバの方から「コラボ・スクールでのお楽しみの時間を任せたい」とのお言葉をいただき、最終日には学生の考えたレクリエーションを行い、子どもたちにもとても喜んでもらうことができた。

また、土日の活動では、地域の方のご厚意でNPO法人吉里吉里国に呼んでいただき、薪割りからご飯づくりをするなどの貴重な体験ができた。

今後に向けて

今回のサマースクールでは、コラボ・スクールが長期にわたるため、3班に分かれ現地での活動を行ったが、その点で日程の共有や確認不足が多く、活動がスムーズに行えない場面が多かったと言える。プールや体育館での活動の際のルール把握や、最低限の認識ができていない点もあり、明確な決まりごとを子どもたちも合わせて確認する必要がある。来年も同じ形態をとるならば、活動日程を念入りに組み、詳しい時間や内容についての共有を活動リーダーごとに行う必要がある。また、地域の方との連携は必須であり、連絡を密に取り合うのは難しい点でもあるが、できるだけ具体的な活動内容を聞いたりと、提案したうえで活動に臨んで欲しいと考える。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇ふるさと科

目的	・地域をよりよく「知る」ために、吉里吉里弁に「親しむ」。 ・小学生に自分たちの調べたことを「発信」させる学びの機会とする。
場所	岩手県大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	吉里吉里カルタを使用し、吉里吉里の方言や文化に触れる
活動日時、 参加人数	2018年8月28日(火)～8月31日(金)(※28日は準備日) 9名

◇きりきりじゅく

目的	吉里吉里の子どもたちが「普段関わりの少ない大学生」を身近に感じることで、それぞれの将来を考えるきっかけをつくる
場所	・郷土料理、講習会：岩手県大槌町公民館吉里吉里分館 ・スポーツ大会：岩手県大槌町吉里吉里地区体育館
活動内容	・郷土料理：世代間交流を通して、地域の方々が暮らしている中では気がつきにくい地域の魅力を改めて感じてもらう 明学生も郷土料理を体験し、吉里吉里の文化を学ぶ。またその魅力を知る ・講習会：各教科の勉強方法について提案する ・スポーツ大会：体を一緒に動かすことで距離を縮める 私たちがいることで実現可能な大人数ならではのスポーツを行う
活動日時、 参加人数	2018年9月15日(土)午後～22:00(※午前中は、すまいる花壇の手入れ)、9月16日(日)7:00～22:00、9月17日(月)6:00～20:30 10名

実施概要

吉里吉里学園中学部の生徒、先生、保護者を対象に実施した我々の従来の学習支援という活動に対してのアンケート結果より、「学習面のサポート」よりも「大学生との関わり」にニーズがあることがわかった。そのため、きりきりじゅくは「大学生と交流すること」に重点を置きつつ学習会の側面も残した。吉里吉里の子どもたちが「普段関わりの少ない大学生」を身近に感じることで、将来を考えるきっかけとしたい。

感想・活動を通して得た学び

一から企画し、実現する難しさを知った。中学生にとって多忙な時期であったこともあり、対象であった中学生の参加者を集めることが困難であった。「中学生になれば忙しい」という現実があり、これまでの活動は多くの方々に支えられていたことを実感した。また、震災のビデオを地域の方と一緒に観る機会があり、吉里吉里という町は絆が強い町であることが、復興の過程からも見ることができ、とても良い経験となった。



今後に向けて

震災当時から復興支援としての学習支援活動があり、そのニーズの変化に対応して、きりきりじゅくへの転換を図った。しかし近年の吉里吉里学園中学部の学力向上傾向にともない、これまで行ってきた学習支援活動、また新たに実施したきりきりじゅくへのニーズが見られず、両活動を収束することになった。活動の中で、予定通りにいかない点や、企画内容、リスク管理など、多様な面から工夫が必要であると実感した。今回の反省点や気づきを今後の他の活動に生かしていきたいと思う。

(学生メンバー 法学部法律学科)

◇吉里吉里大運動会

目的	地域の運動会に参加し、地域のさまざまな年代の方々との交流を深める
場所	岩手県大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	運動会前日準備、当日のお手伝いおよび、明学として競技に参加する、その後片付けをして地域の懇親会に参加する
活動日時、参加人数	2018年10月6日(土)13:00~15:00(※その後、すまいる花壇の手入れ)、10月7日(日)8:30~12:00、10名

実施概要

毎年、大きな地域行事の一つである吉里吉里大運動会が行われている。毎年前日準備から最後の懇親会まで2日間参加させていただいており、地域の方々との交流を通して自分たちの活動をより良くする機会となっている。今年は台風の影響で運動会は中止となってしまったが、地域の方々とともに公民館に集まり懇親会を行った。その中で明学として時間をいただき、学生たちがクイズや○×ゲームなどのレクリエーションを行い、地域の方々に自分たちの活動を紹介したり、普段関わる機会のないの方々との交流をすることができた。



感想・活動を通して得た学び

台風の影響で大きく活動が乱れたが、公民館長の芳賀博典さんをはじめとした地域の方々のおかげで短

い時間ではあったが、懇親会という吉里吉里地域の方々が集まる会に参加させていただけたことで地域の方々の温かみに触れ、学生たちも活動に対しての考えや思いがそれぞれ変化していったように感じた。また活動中台風の影響で長く停電が続いた。その際にふとある方が「震災の時と似ている」とおっしゃっていた。その時に実際いつ何がまた起こるかわからない不安や恐怖について、私たちには計り知れないが、私たちがやるべきこと、どうあるべきかを見つめ直すきっかけを作ることでもできた。

今後に向けて

来年は今年やるはずであった吉里吉里大運動会ができることを願っている。また明学から毎年一つ競技を提案して競技種目として実施することが今年ではできなかったため、来年には実施予定の競技ができれば良いなと思っている。またセクション活動全体として子どもと関わるものが多いが、この大運動会はさまざまな年代の方と交流ができるため、1年生をはじめとした運動会に参加したことがない学生たちにも参加をしてもらいたいと考えている。そして交流を通して何か一つでも自分の活動として考える、見つめ直す、今後の活動について考えるものにもなれば良いなと考えている。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇わんぱく広場 (11月)

目的	子どもが本来持っている力を引き出す
場所	岩手県大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	体力向上のため体育館での運動や、工作などの創作活動、学力向上のため勉強会を行う
活動日時、参加人数	2018年11月24日(土) 13:00~15:00 (※午前中は、すまいる花壇の手入れ)、11月25日(日) 10:00~11:30/13:00~15:00、10名

実施概要

わんぱく広場は、震災後安全な遊び場が確保できなかった子どもたちに、安全で安心できる遊び場を提供することを目的として始められた。震災から月日が経った現在では、地域のニーズの変化により、ドッジボールといった動の遊びや折り紙やミサンガ作りなどの工作をする静の遊び、子どもたちの学校の宿題または学生が用意したプリントを用いて学習する勉強会を通して、「子どもが本来持っている力を引き出す」ことを目的に活動を行っている。



感想・活動を通して得た学び

この活動では、安全面を考えて静と動の遊びはそれぞれ混ぜない、持ち込まないというルールを設けているが、静の遊びで制作したものを動の遊びに持ち込んでしまう、制作中に走り回ってしまう等のことがあった。またドッジボールでは異なる年齢・性別の子らと一緒に遊ぶ中で低学年と高学年、男子と女子間での力の差が出てしまうという難しさがあり、子どもたちの意思や創造性を尊重しつつも学生の臨機応変の対応が求められると感じた。

今後に向けて

震災から時が経ち、子どもたちの中には震災を経験していない年代も増えてきており、地域のニーズも変化をともなってきた。我々も活動意義が変わりつつある中で、新しい試みの必要性を感じさせられている。吉里吉里学園に通う子どもたちは思いやりがあり、学年問わず仲が良いのが活動においても感じられる。そうした良いところをさらに伸ばし、自分たちが明学生という外部の存在であることを生かして子どもたちにより広い視野を持って成長してもらえようような機会となれば良いと感じる。

(学生メンバー 文学部フランス文学科)

◇吉里吉里マップ

目的	・変わりつつある吉里吉里の今の姿を形に残す ・物質的に留まらず「心の復興」という観点を意識する
場所	岩手県大槌町公民館吉里吉里分館、浪板交流促進センター
活動内容	大槌町吉里吉里地区、浪板地区におけるマップの作成活動
活動日時、参加人数	2018年12月15日(土) 8:00~17:00、12月16日(日) 6:40~20:30 5名

実施概要

吉里吉里地区は近年、建物や設備といった点で着々と復興している。「地図作り」を通して、住民の方々にとって当たり前となってしまう地域の魅力を再確認したいと考えた。そこで Gakuvo Style Fund に助成金を申請し、審査の結果、支援を受けることになった。具体的にどのような地図にしていくなのか、私たちだからこそその個性も含め10回を超える事前ミーティングで準備をしたうえで現地活動を行った。

感想・活動を通して得た学び

今回の現地活動では、浪板不動滝や崎山展望台といった普段の活動では行けないようなところに地域の方の力をお借りしていくことができたり、現地でしか聞けない情報を聞くことができたりと地域の方にいつも以上にお世話になった。改めて地域の方々の温かさを感じる機会ともなり、地域の方々とともに地図を考えることができた。また、他大学との意見交換を行う場を設け、同じ活動を行う同世代の意見を聞くことができ、貴重なものとなった。現地活動を行ったことで良い地図を作りたいというメンバーの士気が高まったように感じた。

今後に向けて

3月には吉里吉里地区に鉄道が再び開通し、今まで以上に吉里吉里地区に活気が舞い戻ってくるだろう。東京にいる私たちができることとして、「自分たちだからこそできる現在の吉里吉里を伝える」ことが挙げられる。その資料の一つとして吉里吉里マップを活用していければと考えている。今回の現地調査では私たちの先輩方が作ってきたパンフレットが地域の方々に親しまれていることがわかった。

作成する「吉里吉里マップ」も地域の方々はもちろん、初めて吉里吉里を訪れる人や遠い東京から吉里吉里の今を知りたい方に親しまれるものとなるような地図にしていきたい。

(学生メンバー 経済学部国際経営学科)

3.2 陸前高田復興支援プログラム

学生チーフ総括

2018年で東日本大震災から7年が経つ。7年が経つということは、私たちの活動にも変化が必要になるということである。2018年は既存の活動だけでなく、新しい活動を試行錯誤した1年であった。

私たちが今年の活動において大切にしたのは以下の二点である。一つ目は陸前高田の方々とのつながりを大切に、近い距離で接することである。私たちが活動を継続できているのは、陸前高田の方々の温かさに支えられているからである。感謝の気持ちを持ちながら、陸前高田の方々に関わり続けることは何よりも重要であると感じた。一つの形の表れとして、今年は「たかた子どもキャンパス」をはじめ、企画立案の段階から関わらせていただいた活動もあり、少しずつではあるが新しい試みでも信頼関係が築けていると感じる。

二つ目として、私たちの活動を広い視野で捉えることも必要であると感じ、今年は「そなエリア東京（防災体験学習施設）」の見学をはじめ、他大学の復興支援団体との勉強会にも積極的に参加した。これらの活動を通じて、メンバーそれぞれが刺激を受けるとともに、新たな活動のきっかけ作りにも生かせるものが多かったと感じている。今後とも継続していきたいと思うところである。

総じて今年1年間の活動というのは、すぐに成果が表れるわけではない。しかし今後私たちに求められる活動とは、私たちなりの思い・関わり方で活動を行っていくということであると思う。その意味でメンバー各々が活動において自分なりの思いを持つことが大切であり、私たちなりの活動を作っていく一歩になったと感じる。

私たちの活動というのは決して大きなことを成し遂げることが目標ではない。復興が進むなか地域の方々に寄り添い、笑顔の一助になれる活動を行っていくことであると感じる。今後はメンバーの思いを大切に、笑顔の輪を作っていける活動を行っていければと思う。

(学生メンバー 法学部法律学科)

●2018年度「陸前高田復興支援プログラム」の主な活動

日にち（移動日含む）	内容（参加人数）
5/27（日）	防災体験学習施設「そなエリア東京」を見学（11名）
7/6（金）～7/9（月）	スタディツアー（8名）
7/13（金）～7/15（日）	きらりんきっず「夕涼み会」に参加（5名）
8/5（日）～8/9（木）	・「けんか七夕」に参加（4名） ・「うごく七夕」に参加（4名）
8/10（金）～8/12（日）	たかた子どもキャンパス「夏の思い出自然体験（米崎の海編）」に参加（3名）
8/17（金）～8/19（日）	たかた子どもキャンパス「ペットボトルいかだチャレンジ」に参加（4名）
9/1（土）	「復興支援大学校」に参加（9名）
9/28（金）～9/30（日）	たかた子どもキャンパス「稲刈り体験」に参加（6名）
10/26（金）～10/29（月）	たかた子どもキャンパス「自主企画」を実施（4名）
11/1（木）～11/3（土）	大学祭「白金祭」で陸前高田「あんじょう農園」の米崎りんごを使用した「りんごパイ」を販売

12/7 (金) ~12/10 (月)	きらりんきっず「ファミリーフェス 2018」に参加 (2名)
1月	「白金祭」での利益 5,408 円を日本赤十字社「平成 30 年 7 月豪雨災害義援金」に寄付
3/10 (日)	「3.11 被災地応援イベント～あの時と今～」 横浜市民防災センターで横浜地域活動、陸前高田復興支援プログラムのメンバーが来場する子ども向けのブースを出展 (6名)

◇防災体験学習施設「そなエリア東京」見学

目的	スタディツアーの事前学習を兼ねた見学
場所	東京臨海広域防災公園 そなエリア (江東区有明)
活動内容	津波についての知識を身につけ現地での学びをより有意義なものにする
活動日時、 参加人数	2018 年 5 月 27 日 (日) 14:00~16:00 11 名

実施概要

防災体験ゾーンで実際に災害が起きた時のシチュエーションで災害について考える。津波避難体験コーナーではどのように津波から逃れるべきか考える。防災学習ゾーンでは、災害が起きた際に役立つ知識や必要な物について学ぶ。そのほか、災害と暮らしの学習、事例に学ぶ自助の知識、地域情報コーナー、映像ホールでアニメから災害を学ぶ。

感想・活動を通して得た学び

私自身、このセクションに入ったばかりだったので災害について理解を深めるとも良い機会となった。日常生活の中で災害について考える機会はなかなか少ないので、この活動に参加したことで災害が起きた時に自分がどのように行動するべきか具体的に考えることができた。そして次のスタディツアーの学びへとつながったのが良かった。

今後に向けて

そなエリアはとても綺麗で、一人一つタブレットを持ち災害が起きた街を歩き、その中でどういった対処法が正しいのかといったクイズなどがあり、セクションに入ったばかりの新生や災害の知識を深めたい人にはとてもわかりやすく、良い場所だと思った。これからもそなエリア見学を行うことで多くの人が災害について学ぶきっかけとなり、今後の活動へとつながると思った。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇スタディツアー

目的	陸前高田を知る、そこで経験したことを今後の活動に生かす
場所	岩手県陸前高田市、大船渡市
活動内容	語り部さんからお話を聞く/市内見学
活動日時 参加人数	2018 年 7 月 7 日 (土) ~7 月 8 日 (日) 8 名

実施概要

1 日目：震災についての具体的なお話を体験された方から聞き、津波の被害に遭われた方々の気持ちを考える。

奇跡の一本松の見学では、津波の恐ろしさを目で見て感じた。それとは別に一本松の木の生命力を復興の象徴としている町の方々の気持ちを考える。

アバッセたかたでは、陸前高田市内の町並みを見学した。

2 日目：1 日目にお話を伺った方とは別の語り部さんにお話を伺い、さまざまな思いを知る。

大船渡津波伝承館を訪問し、津波の恐ろしさをデータや数値を見て再確認する。

活動を通して学んだこと

陸前高田市へ実際に足を運び、被害の状況を自分の目や耳で確かめ、肌で感じることで、実際に行動してみることの大切さを理解した。テレビのニュースや新聞の記事ではわからないこともあり、災害の被害の甚大さを知らない人が多いのではないかと考えた。大きな被害を受けてしまったのは勿論自然の力が原因だが、人為的な原因もあったと聞かされた。人のちょっとした不注意で大きな被害を促す可能性があるということは自分たちの身の回りにも言えることと気づいた。自然の脅威は計り知れないものであり、人間の予想を上回る可能性があることを理解するべきと思った。

今後に向けて

陸前高田市復興に役立てるように、自分たちは活動を行う。ボランティア活動という名目で自分たちが手助けしているようにも思えるが、現地の方々に温かく迎え入れてもらっているおかげで、滞りなく活動ができています。自分たちも支えてもらっている立場だということを忘れずに今後の活動に励む。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇きらりんきっず「夕涼み会」

目的	親子向けイベントのお手伝い
場所	高田大隈つどいの丘商店街（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	お化け屋敷の出し物/イベント屋台のお手伝い
活動日時、参加人数	2018年7月14日（土）8：00～21：00 5名

実施概要

私たちは毎年特定非営利活動法人きらりんきっず主催の夕涼み会に参加させてもらっている。ボランティアとして屋台の手伝いをするだけでなく、私たち自らブースを開いて参加している。今年はお化け屋敷を出展し、後片付けの手伝いも行った。

大きな困難から立ち直ろうと支えあう人々の集いで、1日を通して大いに盛り上がった。



感想・活動を通して得た学び

自ら出展するということが活動はボランティアな内容であった。実にたくさんの人々が集まり、街の復興ぶりを肌で感じるとともに、未来に臨む子どもたちの限らないバイタリティーを垣間見た。無料で開いていたため何度も何度も繰り返し足を運ぶ子どもがいた。彼らの笑顔を見るたびに自分たちの活動の意味を思い知ることができた。後日、きらりんきっずの方からお礼の便りをいただいた。喜び、達成感、そしてボランティア活動を実感した。

今後に向けて

先輩から受け継いでいるこの活動を絶やすことなく続けていきたいと思う。ボランティア活動で知り合った現地の子どものと数年ぶりに再会しその成長ぶりに驚いたとの声があった。街のこれからを担う子どもたちに寄り添い未来を支える、そんなボランティア活動でありたい。

(学生メンバー 経済学部経済学科)

◇けんか七夕

目的	・伝統ある「けんか七夕まつり」を盛り上げる ・ボランティア学生として祭りを盛り上げる
場所	岩手県陸前高田市気仙町
活動内容	お祭りの準備のお手伝い、参加、片付けのお手伝い
活動日時、 参加人数	2018年8月6日(月)8:30~18:30、8月7日(火)8:30~21:00、8月8日(水)8:00~14:30、4名

◇うごく七夕

目的	・長年続いているお祭りに参加することで、現地の人々がお祭りにかける思いを知る ・お祭りに参加することで地域の活性化に貢献する
場所	岩手県陸前高田市高田町中心部
活動内容	お祭りのお手伝い
活動日時、 参加人数	2018年8月6日(月)8:30~22:00、8月7日(火)8:15~20:00、8月8日(水)8:00~14:30、4名

実施概要

1日目は、今回お世話になる荒町組の方の指示のもと短冊などのお手伝い、昼食後市内案内、大船渡温泉にて入浴。お祭りの関係者の方と夕食をご一緒させていただきました。

2日目は雨のため予定より大幅に遅れて開会式がスタートした。また雨のため老人ホームに行くことができずにけんか七夕の見学をした。その後雨が上がりアバッセたかた周辺に移動した。さまざまな地域の山車を見ながら山車を引くことができた。

3日目は午前中にけんか七夕の片付けの手伝いをし、帰路についた。



感想・活動を通して得た学び

うごく七夕などのお祭りは地域の方などが協力して作り上げているものでたくさんの方々をつないでいるものだと実感した。

ある地域の方が、「震災前のような祭りはできないけれど、祭りを続けることに意味がある」とおっしゃっていたことが印象に残っている。今回のお祭りで仲良くなった女の子に笛は毎年いつ頃から練習するかと聞いたところ、1年中、親や兄弟が代々やってきた笛をもっと上手に長く吹けるようになりたいと言って、来年もまた笛を聴きたいと強く思った。皆さんの話を聞いてこのお祭りは決して途絶えさせてはいけない文化だと強く感じた。地域の方が強い思いを寄せるお祭りに参加させていただいて本当に素敵な経験になったと思った。

今後に向けて

今後は準備日として前日だけでなくもう少し長期間携わることができたらいいと思った。今回はできているものを組み立てるお手伝いが多かったが、その前段階のお手伝いできればより地域の方と深く関われるのではないかと思った。

初めて陸前高田を訪れて実際に足を運んだからこそ学べることや経験できたことが多くあった。今回学んだことはしっかり次に生かしていきたい。また周りの方々に気を遣っていただいて助けられたことが多かったので、次は自分から積極的に行動し今回気がつかなかったことなどをたくさん見つけたいと思う。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇たかた子どもキャンパス「夏の思い出自然体験（米崎の海編）」

目的	陸前高田の子どもたちにとって大切な夏の思い出を作るべく尽力する
場所	岩手県陸前高田市米崎地区の海、陸前高田グローバルキャンパス（陸前高田市米崎町）
活動内容	食用貝の採集/貝を使った工作の手伝い
活動日時、参加人数	2018年8月11日（土）7:45~14:30（※夕方はレンタル自転車で市内めぐり） 3名

実施概要

陸前高田市教育委員会主催の「たかた子どもキャンパス」の活動中に子どもたちが怪我をしないよう見守り、より楽しんでもらうべく一緒に遊び、思い出を作った。市内の貝の専門家の監修のもと、地元である米崎の海で食用貝の収集を行い、昼食を作り一緒に食べた。さらに事前に用意された貝を磨いて作ったスタンプを使い、その日の思い出の絵を描いた。

感想・活動を通して得た学び

陸前高田市は海に面しているなので、夏は海に行って遊ぶことが当たり前であると思っていた。しかし震災の影響で海に対して恐怖感をもつ保護者も多く、この活動によって初めて海で遊ぶという親子もいた。震災により遊びが制限されている現実を改めて知らされた。参加したメンバーと子どもたちがとても仲良くなり盛り上がった活動になったことはこの企画が成功した証であり、教育委員会の皆さんの手伝いを遂行することができて良かったと思った。

今後に向けて

子どもたちと上手く交流することができ、彼らをきっかけにして保護者の方とも話すことができたことは良かった。活動自体は良かったが、参加時期がお盆の帰省ラッシュと重なったため、普段利用している交通機関ではないルートで行くことになった。そのうえ遅延で乗り換えに間に合わない事態が起きてしまい、対応に追われた。そのときボランティアセンターと連絡を取りながら決めることが大変だったので、事前に非常時のルールを定めておくべきだと感じた。

(学生メンバー 法学部法律学科)

◇たかた子どもキャンパス「ペットボトルいかにチャレンジ」

目的	子どもたちが安心して遊べるようリスク管理を徹底し、楽しい夏の思い出となるように全力でサポートする
場所	夢アリーナたかた（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	ペットボトルいかにチャレンジ運営のお手伝い、自分たちが作りたいかだで子どもたちと一緒に遊ぶ、怪我のないように見守る
活動日時、参加人数	2018年8月18日（土）7:30～12:30（※午後は地域の方からお話を伺った） 4名

実施概要

陸前高田市教育委員会主催の「たかた子どもキャンパス」で、ペットボトルを積み重ねていかに作り、そのいかに乗って一緒に遊んだり、怪我のないように見守ったりした。

たかた子どもキャンパスとは、土曜日午前中に市内の小学生が学習活動や文化体験活動、地域住民との交流活動など、さまざまな体験活動に取り組む市教育委員会が主催するプログラムのことである。

感想・活動を通して得た学び

普段は小学校などの教室を借りて運営しているが、今回は市営プールの一部を使ったため、一般の方々に迷惑をかけないように注意をした。小学生低学年は震災を経験しておらず、陸前高田市の海水浴場で泳いだことがない子どももいたため、水を使った遊びを楽しんでもらえたことが感慨深かった。

今後に向けて

水を使った遊びに参加するのは初めてであったため、より注意が必要だった。参加人数が少なかったため一人ひとりに対応できたが、人数が多くなることも踏まえて安全面の対策を強化していくと良いだろう。「たかた子どもキャンパス」は年に数回参加させていただいているが、来年度はより回数を増やして地域の方ともっと交流を増やしていきたい。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

◇復興支援大学校

目的	東京近郊の復興支援団体の交流
場所	東洋大学白山キャンパス（文京区）
活動内容	復興支援に関するワークショップ 教授6名、学生30名が参加（7-8団体）
活動日時、 参加人数	2018年9月1日（土）13:00～17:00 6名

実施概要

東洋大学白山キャンパスにて、他大学の、さまざまなセクションが集まり日々の活動報告を行った。最初は団体ごとにそれぞれ工夫したパワーポイントを使って発表をした。途中でグループ分けをし色々な団体の人とでグループを作り、さらに深く話し合ったり、東北のご当地グルメであるずんだ餅を使ってシェイクを作るなどレクリエーションも行った。

感想・活動を通して得た学び

私は当時まだ陸前高田に行ったことがなく経験が浅かったため、多くの先輩方の話を聞いて、これからの自分の活動への良い刺激ももらった。団体ごとでやっていることはまったく異なるようにみえても、ボランティアという誰かのためにという点では同じであることに改めて気づかされた。

今後に向けて

普段陸前高田セクションの中で活動するだけでは得られないような知識をこの復興支援大学校で得られたので、これからの活動に生かしていこうと思う。また、この大学校でも話し合った「ボランティアとは何か」というテーマをもう一度考え直して自分が活動している意味を深く考えながら活動していきたい。

（学生メンバー 法学部政治学科）

◇たかた子どもキャンパス「稲刈り体験」

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田の子どもと積極的に触れ合う ・稲刈りを通じて陸前高田の食文化に触れ、理解する ・震災から7年経って今自分たちができることやこれから必要とされることを考える
場所	岩手県陸前高田市
活動内容	<p>午前：陸前高田市子育て支援団体NPO法人きらりんきっず主催の稲刈り体験への参加 午後：市内の直売所である産直はまなすで行われるかかしコンテストへの参加のためのかかし作成、設置</p>
活動日時、 参加人数	2018年9月29日（土）8:20～21:00 6名

実施概要

9月29日に、陸前高田市の子育て支援団体NPO法人きらりんきっず主催の稲刈り体験に参加し、地域の方々と交流した。また市内の直売所である「産直はまなす」にて、かかしコンテストに参加するためにかかしを作成、設置した。商業施設「アバッセたかた」にも足を運び、町や地域の人々のようすを

感じる事ができた（なお、台風の影響で急遽日帰りとなった）。

感想・活動を通して得た学び

地域の方々の陸前高田への熱い思いを感じる事ができた。また、子どもたちがとてもパワフルでたくさんのエネルギーを得ることもできた。今回の稲刈り体験に参加していた子どもたちの中には、震災を経験した子どもだけではなく、震災後に生まれて震災を知らない子どももいた。震災を知らない世代が増えていく中で、震災をなかったことにしない、させないために、地域の方々がさまざまな活動を行っていることを学んだ。



今後に向けて

震災を知らない世代が増えていく中で、私たちが陸前高田へ行き、学んだことや感じたことを発信していく場を設け、被害の大きさや被災地の今を伝えていくことが重要であると思う。そのためには情報を共有し、その情報をさまざまな形や場所で伝えていくことができる活動を目指すことが求められていると感じる。

（学生メンバー 社会学部社会福祉学科）

◇たかた子どもキャンパス「自主企画 体を動かす遊び」

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安全で楽しく動ける遊び場を提供するお手伝いをする ・町の地形や起伏を知ること、かさ上げされた高さや意味を考える ・米崎町、矢作町をより深く知る
場所	岩手県陸前高田市米崎町、矢作町
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・たかた子どもキャンパス活動、安生さんのりんご農園のお手伝い ・矢作町散策、陸前高田ドライビング・スクールで田村満さんからお話を伺う
活動日時、参加人数	2018年10月27日（土）7：30～22：30、10月28日（日）7：00～22：00 4名

実施概要

1日目は、早朝に陸前高田市役所前に到着。そのままBRTに乗って陸前高田グローバルキャンパスの体育館に向かい、たかた子どもキャンパスの活動を行う。大縄跳びやスポーツかるたなど、市役所の方やボランティアの方々と一緒に体を使った遊びを行う。その後、「産直はまなす」を訪問し安生さんと合流した。安生さんのりんご農園で大学祭で使用するりんごの発注と、りんごの全面に太陽の光が当たるようにりんごの向きを変えるお手伝いをさせていただく。夜は鈴木旅館に宿泊。

2日目は、徒歩で朝から矢作町の散策を行う。その後観光物産協会にて自転車をレンタルし市内を散策する。陸前高田ドライビング・スクールの田村満さんにお話を伺いに行く。夜に陸前高田市役所前から夜行バスに乗り帰宅。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動を通して町の人々のあたたかさを感じた。私たちが町を散策していると、必ず挨拶をしてくださり、話しかけてくださった。町のあたたかさと地域のつながりの強さを感じた。また、たかた子どもキャンパスでは、特にスポーツかるたで盛り上がり、達成感を感じたとともに、一から何かを企画するためには、さまざまな状況を考える必要があるという、企画の大変さも実感した。

今後に向けて

東日本大震災が発生してから年数が経ち、私たちのボランティアの内容も変わってきていることを感じた。瓦礫の撤去から、傾聴すること、地域の人々が集い楽しめるイベントの企画・開催や、子どもたちの教育支援などに変ってきているということを、陸前高田ドライビング・スクールの田村満さんのお話を伺って感じた。今後セクションの中で、これからできる支援は何なのかを話し合い、これからも継続した支援活動を続けていきたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇きらりんきっず「ファミリーフェス 2018」

目的	・子どもたちが遊ぶ場所の安全を守るお手伝いをして、親子で参加できるイベントをサポートする ・陸前高田のさまざまな風景を見る
場所	夢アリーナたかた（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	きらりんきっずイベント手伝い/市内見学
活動日時、参加人数	2018年12月8日（土）8：50～23：00、12月9日（土）8：40～21：00 2名

実施概要

陸前高田市の高田大隅つどの丘商店街に拠点をかまえる、特定非営利活動法人きらりんきっずが行う「ファミリーフェス 2018」の前日準備と当日の2日間に参加した。また陸前高田に訪れたのが2回目以上のメンバーのため、町並みの変化を見学した。

ファミリーフェスに向けて前日に行った準備は、机の搬入やマット敷きの手伝い、当日はいくつかあるブースの手伝いや入口での靴袋配り、アンケート協力の声かけ、片付けに参加した。市内見学は以前からも訪れている一本松や商業施設周辺を見学した。

感想・活動を通して得た学び

きらりんきっずの皆さんには7月の夕涼み会でお世話になっていたが、ファミリーフェスには初めて参加した。子どもだけでなく保護者も楽しめるようなブースもあり、親同士でつながることができるイベントがあると情報交換や地域でのコミュニケーションが生まれると感じた。私がブースで手伝っていると、参加者から感謝の言葉や、活動に関しての要望が出てきていて、きらりんきっずが地域に住む親子に寄り添って一緒に活動している印象を受けた。

今後に向けて

以前の活動で我々の顔を覚えてくださっている方や声をかけてくれる子どもがいてとても嬉しかった。

1回行って終わりにするのではなく、繰り返し行って関係を作っていくことで、団体の活動やその目的、プロセスを理解できて現状に気づき、私たちの活動内容もより深いものになっていくと感じる。市内見学も何度も訪れることで工事による道や風景の変化を学ぶことができた。今後は先輩や自分たちが築いた関係を後輩につなげていくとともに、町並みの変化をセクション内だけでなくもっと広く伝えていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

3.3 大学間連携災害ボランティアネットワーク

◇仙台七夕まつり

目的	七夕まつりを通して地元の方々との交流を深めるとともに、ボランティアの精神を学ぶ
場所	仙台市中心部および周辺商店街
活動内容	会場設営・撤収、来場者対応、広告配布
活動日時、 参加人数	2018年8月6日(月) 16:00~22:00、8月7日(火) 10:00~15:00 10名(一部引率あり)

実施概要

藩祖伊達政宗の時代から続く伝統行事。旧暦7月7日に全国各地で催されていた七夕の季節感に合わせ、仙台七夕まつりは新暦に1か月を足した暦である中暦を用い、現在の8月6日から8日に開催される。期間中は、仙台市内中心部および周辺商店街をはじめ、街中が色鮮やかな七夕飾りで埋め尽くされ、毎年200万人を超える多くの観光客が訪れる。日本古来の星祭りの優雅さや飾りの豪華絢爛さをあわせ持つ祭りとして、全国に名を馳せている。

感想・活動を通して得た学び

全国的にも有名なお祭りであって、天候が悪化していたにもかかわらずその賑わいを感じることができた。地元の方々に愛され、地元の方々によってスムーズで活気がある運営がなされていることは、活動に参加してみれば一目瞭然だった。東京から来たと話す私たちが温かく迎えてくださった皆さんに感謝したい。全国各地からボランティアに参加していた学生と交流できたことも印象的だった。短い間ではあったが、時間を共有するだけでこれほどの一体感が生まれるということを知った。

今後に向けて

課題点としては、台風接近にともなって予定よりはるかに早く活動を終了することになったことが挙げられる。予想しなかった事態に戸惑い、ボランティア先の方々にもご迷惑をかけることがあったかと思う。遠方での活動になる際は、天候の急変や交通の混乱など考えられるすべての事態に対して十分に備えておく必要がある。ボランティアに参加「させていただく」身であることを理解すれば、私たちの都合で受け入れ先に迷惑をかけることはあってはならないのだ。

(法学部グローバル法学科)

4 明学レッドクロス(日本赤十字社とのボランティア・パートナーシップ)

職員総括

2018年度は、春学期開始直前にチーフが諸事情で辞め、新3年生メンバーも1名になる事態が起こり、セクション存続が危ぶまれる出だしとなった。

しかし、4月の新入生勧誘時に、残り1名となった3年生と引退した4年生の応援もあり、1年生5名、3年生1名の加入があった。新メンバー加入にともない、白金・横浜と校舎が離れているためにできる溝を埋めるべく早い時期に懇親会を行い、1年生から3年生までの交流を通じメンバー1人1人を知る良い機会となった。また、今年度メンバーになった1年生は、ボランティアセンター主催「1 Day for Others プログラム」の日本赤十字社神奈川県支部「救命救急講習」に参加し、日本赤十字社の活動概要も学ぶことができた。

2017年度のように、自分たちが一から新しい企画を打ち出すことはできなかったが、年2回の白金キャンパスでの献血呼びかけ(4月・10月)、全国赤十字大会受付ボランティア(5月)、防災炊き出し訓練(10月)、横浜図書館展示(12月)と毎年行う活動を継続することができ、また日本赤十字社との協働であるRCV(赤十字社情報誌)編集委員会へ委員として3名を送り、第70号～第72号の発行に携わることができた。12月の横浜図書館展示では、これまで秋学期に入ってから本を選んでいたので、その紹介ポップ書きが遅くなりがちであったが、今年は夏休み中に本が読めるよう準備時期を早めた。メンバーが書いたポップを見て、選定した本を借りてくれた学生が3名もいたことから、この活動が実を結んだことを実感できた。

残念であったのは、2016年に中国紅十字会香港支部ユースとの交流で始まった協働プロジェクト(スマイルチルドレンプロジェクト)で「子どもたちの貧困」をテーマにそれぞれの国で行動を起こし、日本ではNPO法人「キッズドア」と組んで、生活困窮家庭の子どもたちに学習支援を行っていたが、現メンバーがこれに関われなかったことである。引退した4年生2名が継続して活動し、後輩たちが引き継いでくれることを望んでいたが、学習支援を行う場所が東京都内に限られていることから、横浜キャンパスで5時限目まで授業があると参加が難しいことが課題としてあり、今後日本赤十字社担当者と考えていく必要がある。

(職員 北野順子)

●2018年度「明学レッドクロス」の主な活動

日にち	内容(参加人数)
4/27(金)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動(2名、職員1名)
5/16(水)	「平成30年全国赤十字大会」ボランティア参加(1名)
6/16(土)	日本赤十字社神奈川県支部にて「救急法基礎講習」受講(1 Day for Others 協働プログラム)(12名(内、セクションメンバー5名)、職員1名)
8/9(木)	東京都赤十字血液センター見学会(6名、職員1名)
10/15(月)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.70』完成(2名) Contents:平成30年7月豪雨災害 特集1:災害ボランティアセンターって何?

	特集2：若さと汗が光る！熊本の熱き奉仕団 http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/181019_005474.html
10/21 (日)	港区高松地区の「防災炊き出し訓練」に参加 (1名、職員1名)
10/26 (金)	学内献血会@白金キャンパス 献血呼びかけ活動 (2名、職員1名)
12/10 (月)～12/21 (金)	横浜図書館展示 (9名) テーマ：戦争と子どもたち
1/18 (金)	取材・編集を担当した赤十字ボランティア情報誌『RCV No.71』完成 (3名) Contents：つながる&つづける 特集1：つながろう！「新たな支え合い」を目指して 特集2：私のボランティアの履歴書 http://www.jrc.or.jp/activity/volunteer/news/190122_005578.html
《その他通年活動 (日本赤十字社のプロジェクトに参加)》	
4月～3月	「スマイルチルドレンプロジェクト」メンバーとして活動 (2名)

◇スマイルチルドレンプロジェクト

目的	子どもの貧困へ理解を深め、子どもたちへ学習支援を行う
場所	NPO 法人キッズドアの学習会、日本赤十字社本社 (港区)
活動内容	中高生への教育支援
活動日時、参加人数	毎月1回 18:30～21:00 3～4名 (他大学生を含む)

実施概要

私が参加するスマイルチルドレンプロジェクトでは貧困状態にある子どもたちへの学習支援を行っている。現在は明学レッドクロスの学生の他、他大学の学生を含めた約10名がこのプロジェクトに参加しており、赤十字のユースメンバーとして「NPO 法人キッズドア」の学習会へ参加している。

主な活動としては個別学習会での中高生への指導、英語を使ったゲームを企画・実施する「English Drive」での中高生との交流がある。また定期的に日赤本社でのミーティングを通し、日々の学習支援の活動報告や香港の赤十字ユースとの協働の意義についても話し合うことで、子どもの貧困への理解を深めている。

感想・活動を通して得た学び

この活動を通して学んだことは、学習支援は単に勉強への理解を深めることや知識を教えること以上に子どもたちの気持ちに寄り添い、学習を進めていくことが重要だということである。私が主に担当していたのは中学1年生の子であったが、学習中に落ち着きのなさが度々見られた。そのようなときに自分が中学生の時のことを思い出し、その子の好きな分野の話をしたり得意なものをほめて伸ばすよう心掛けたことで、楽しく学習を進められるようになり、私も充実感を得ることができた。

今後に向けて

赤十字のユースとしてこれらの学習会にこれまで以上に積極的に参加・参画していくため、この活動に参加するメンバーの募集や他大学の学生メンバーとの協力を心掛けていきたい。それと同時にこのプ

プロジェクトは中国紅十字会香港支部との協働であるため、香港のユースボランティアとも連携を深めていきたい。また、赤十字のボランティア活動は献血や災害支援のイメージが強いが、このような学習支援を行っていることをさまざまな人に知ってもらえるよう、広報活動に力を入れていきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇平成 30 年全国赤十字大会

目的	全国赤十字大会の運営スタッフとしてボランティア参加
場所	明治神宮会館（渋谷区）
活動内容	来賓の方への式典用リボン付けの補助、受付、会場案内や資料配付
活動日時、 参加人数	2018年5月16日（水）8：00～13：40 1名

実施概要

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下も出席される大きな大会で、当日の受付・会場案内や資料配付など、運営スタッフとして参加した。主に担当したのは入口にて来賓の方への式典用リボン付けであった。終了した後は会場に入り、プロローグとして「赤十字この一年」の上映が行われ、第1部として日本赤十字社から有功章の授与があり、その後フローレンス・ナイチンゲール記章を受章された伊藤明子さんと青少年赤十字メンバーの小林正英さんの実践活動の報告を聞いた。第2部アトラクションでは歌手の岩崎宏美さんとピアニストの国府弘子さんによるコンサートを鑑賞した。

感想・活動を通して得た学び

一人での参加ということでも緊張していたが、受付をともに担当した運営スタッフの方にどうすればよいかを聞き、それに対し優しく教えていただき、緊張もほぐれ、任された業務を遂行することができた。来賓の方に式典用リボンを付けるということで、どのような方たちがいらっしゃるのか他のスタッフの方に聞き、来賓の方とのコミュニケーションを取りながら、続々といらっしゃる方たちに手際よくリボンを付けていくことができた。その経験から初めてお会いする方々とコミュニケーションを取って連携しながら何かを行うことの大切さを学ぶことができた。

今後に向けて

明学レッドクロスに所属している中で、日本赤十字社を前面に感じる事があまり多くはないと感じていたが、今回全国赤十字大会に運営スタッフとして参加し、日本赤十字社が行っている活動について全国から参加している支部の方たちのお話や表彰された方の活動報告を聞いて、これを生かすことができたらと今後に向けて意欲が湧いた。またボランティア活動をする際に、まったく見ず知らずの土地で活動するにあたり、そこで出会う人たちとの交流の大切さを心に留めて活動をしていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇東京都赤十字血液センター見学

目的	献血についての知識を深める
場所	東京都赤十字血液センター（新宿区）
活動内容	東京都赤十字血液センターの業務概要の説明を聞き、献血された血液が病院に運ばれるまでの工程を学ぶ
活動日時、 参加人数	2018年8月9日（木）13：30～16：30 6名、職員1名

実施概要

明学レッドクロスの活動の中に、献血の呼びかけが含まれている。私たち1年生の中にはこの活動に興味を持って入った者もいる。しかし、「献血」と言われて私たちが想像できるのは「血を採る」ということくらいで、あまり知らないのが現実であった。周りに献血の呼びかけを行う前に、まずは自分たちが献血について学ぶ必要がある。そこで、献血に関する見聞を広めるため東京都赤十字血液センターを訪れ、血液センターの業務概要説明を聞き、施設内の見学をさせていただいた。



感想・活動を通して得た学び

献血を何度かしたことがあったが、自分の血液がどこにどうやって運ばれていくのか、運ばれた後どうなるのかまったく知らないうえに、考えたこともなかった。今回の見学を通して、採取された血液が病院に運ばれる前にさまざまな作業や検査が行われていることを詳しく知ることができた。特に驚いたのは血液の保存可能な期間だ。赤血球や血漿、血小板、全血など種類によって異なるものの、最も短いもので4日しか持たないということである。このように、実際に自分の目で見て献血について知識を深められたことは、とても貴重な経験になった。

今後に向けて

実際に見たり体験したりすることで自分たちの知識を深めることはできたが、そこでとどめていては意味がない。得た情報を周りに伝えてより多くの人に知ってもらうことが肝心である。私たちが初め献血についてほとんど知識がなかったように、大学内でも知らない人が多いのではないかと思う。一人でも多くの人に献血に興味を持ってもらえるよう、今回学んだことを私たちが積極的に広めていきたいと思う。

（学生メンバー 心理学部心理学科）

◇港区高松地区防災炊き出し訓練

目的	防災炊き出し訓練を通して地域の防災意識を高める
場所	港区立高松中学校
活動内容	豚汁、非常食アルファ米（五目飯）を400食作り、同所で開催された“スポーカルまつり”参加者に配付
活動日時、参加人数	2018年10月21日（日）9：00～13：30 1名、職員1名

実施概要

昨年に引き続き、今年も港区高松地区主催の防災炊き出し訓練が高松中学校で開催された。今年も、中学校で行われたスポーツフェスティバルと同時開催だった。中学校のピロティを利用し、地域の皆さんと一緒に400食の五目飯と豚汁を作った。実際作業を始めると、使用予定だったお玉の長さが足りず、トングとお玉を養生テープでつなげ長さを伸ばして使うなど、予想外なことが起きた。また、今年は災害が多かったこともあり参加者の意識が高かった。



感想・活動を通しての学び

地域の方は昨年も参加しており、準備がすべて揃った状態での実施だったため、作業がスムーズに進行したと感じた。しかし、実施概要で述べたように、お玉の長さが足りない、他にも、ガスコンロとお鍋の大きさが合わない、換気が悪く作業場がガスの臭いで充満する、今回用意した数が400食だったため、水の量が多く、火が通るのにかなりの時間が必要だったなど、実際参加してみて気づきが多々あった。

今後に向けて

災害はいつどこで起こるのか誰もわからない。私たちができることは、予想し、経験を重ねることである。今回参加して、何事も予想通りには物事が動かないと感じた。実際災害が起きたら水不足になるかもしれない、ガスや電気が通らないかもしれない、訓練時よりも最悪なコンディションになるだろう。そのような中で自分はどのように動けるのか、動くためには日々の訓練が大事である。今年は、日程が合わず、明学レッドクロスからは学生が1名しか参加できなかったが、今後はもっと積極的に取り組んでいきたい。

(学生メンバー 文学部英文学科)

◇ 『RCV』(赤十字ボランティア情報誌) 編集委員

目的	日本赤十字社ボランティア情報誌の作成
活動期間	2018年6月～2019年3月
参加人数	3名

実施概要

日本赤十字社の発行する情報誌『RCV』の作成に携わった。今まで70号、71号の発行に携わったが、そのうちの71号では大阪に出張し、災害ボランティアでの課題などを中心にインタビューしてきた。日本赤十字社大阪府支部と協力し取材を行い、その後インタビュー形式の記事を作成した。

感想・活動を通じての学び

今まで雑誌の作成などしたことがなく、そのうえインタビューの経験などもなかったため、大阪に出張に行くとなった時は非常に不安であったが、チームで話し合い、しっかりと分担を決めたおかげでスムーズに取材活動を行うことができた。また、インタビューだけでなく写真の撮影も行ったため、どのように写真を撮れば読者にとってわかりやすい記事になるのかということを考えながら撮影を行った。そして、編集作業を通じて今まで知らなかったボランティアの現状につ



いても知る事ができた。特殊な技能を使ってボランティアをしている方や、普段は大工として働きながら災害時の屋根瓦の修理の仕方の講演会を行っている方など、さまざまなボランティア活動があることを知ってもらい、多くの人にボランティアについて興味を持ってもらいたいと思った。

今後に向けて

今後は、編集委員という立場ではなくなっても、さまざまなボランティア活動に興味を持つことは忘れずにいたいと思う。ボランティア活動というものは決して敷居の高いことではなく、些細なことでもボランティアになり得るということを伝えていけるような人になりたいと思っている。

(学生メンバー 法学部法律学科)



5 地域活動（キャンパス周辺地域での活動）

5.1 横浜地域活動

学生チーフ総括

今年度は、横浜地域活動の学生人数が約 40 人と非常に多く、大規模団体であることに対して、プラスな面もマイナスな面もあった。まずプラスな面は二つある。一つ目は 1 度のイベントで多くのブースを出展できたことだ。横浜地域活動の主な活動として、戸塚近辺で開催されるお祭り子ども向けのブースを出展するという活動がある。大人数であることを生かし、6~8 のブースを出展し子どもたちを飽きさせずに楽しんでもらうことができたと思う。さらに子どもたちだけでなく、保護者の方でもブースに対して興味を持ってくださる方もいたため、非常に嬉しかった。二つ目はさまざまな意見を聞き入れることができたことだ。大人数であるからこそ、それぞれが持つ意見も違うため、メンバー内で意見交換を定期的に行うよう心がけた。基本的には週に 1 度のミーティングのほかに、各イベント後にロングミーティングといった反省会を実施した。反省会によって、全員で良かった点、改善すべき点を認識でき、次のイベントにつながるよう努力した。また、お祭りに出展するブースを決める際にも、さまざまなアイデアが出たので、より視野を広げてブースをつくることができた。次にマイナスな面としては、それぞれのボランティアに対する熱意の違いがあることだ。人数が多い分、積極的に活動に参加したいと考える人もいれば、自分に余裕があるときだけ参加したいと考える人もいる。どちらの側にも対応できるように、横浜地域活動としての活動内容を広げることが来年度へ向けた課題だと思う。短期的、長期的に実施できるボランティアをメンバー内で考え、メンバー全員が張り詰めすぎず、楽しむことも大切にしながら活動できるようにしたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

●2018 年度「横浜地域活動」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/10（火）・4/11（水）・ 4/12（木）	「ボランティアサークル合同説明会」 ※ボランティアに興味のある新生、さらに今まで興味を持ったことがなかった新生に、明治学院大学のさまざまなボランティアサークルを日替わりで紹介。横浜地域活動メンバーが司会。 【参加サークル】 JUNKO Association／横濱てらこや／MG ハロドッグ／NYANCO／NPO 法人鎌倉てらこや／エコキャンパスミーティング／MMM（みなとメディアミュージアム）／OPENROOM／僕らの夏休み Project／手話サークルぽっけ／ハビタット MGU／カンボジア教育支援団体ぽけっと／NPO 法人つばさ／STUDY FOR TWO 明治学院大学支部／横浜地域活動（登場日順） （4/10：運営学生 2 名、参加者 75 名、4/11：運営学生 2 名、参加者 75 名、4/12：運営学生 2 名、参加者 76 名）
4/21（土）	「とっとの芽」（プチ 1Day）（5 名）
5/13（日）	柏尾川魅力づくりフォーラム「第 23 回戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン」 清掃活動に参加（2 名、職員 1 名）

5/19 (土)	「とっとの芽」(プチ 1Day) (5名)
5/26 (土)・5/27 (日)	大学祭「戸塚まつり」で子ども向けお祭りブースを企画・実施 (5/26:26名、5/27:19名)
6/3 (日)	戸塚区原宿商店街・松栄会「ふれあいフリーマーケット」で子ども向けブースを企画・実施 (1 Day for Others 協働プログラム) (38名 (内、セクションメンバー29名))
6/16 (土)	「とっとの芽」(1 Day for Others 協働プログラム) (5名)
7/21 (土)	・「とっとの芽」(プチ 1Day) (3名 (内、セクションメンバー1名)) ・「小田急分譲地自治会夏祭り」にボランティア参加 (9名、職員1名)
9/9 (日)	柏尾川魅力づくりフォーラム「第24回戸塚駅周辺魅力アップキャンペーン」清掃活動に参加 (3名、職員1名)
9/23 (日)	「とつか宿場まつり」(1 Day for Others 協働プログラム) (44名 (内、セクションメンバー34名))
10/14 (日)	戸塚区原宿商店街・松栄会「ふれあいフリーマーケット」で子ども向けブースを企画・実施 (1 Day for Others 協働プログラム) (27名 (内、セクションメンバー23名))
10/26 (金)	上倉田地区資料作成ボランティア (1名、職員1名)
11/11 (日)	横浜市民防災センター「オータムフェスタ 2018」で子ども向けブースを企画・実施 (7名)
11/17 (土)	・「とっとの芽」(プチ 1Day) (5名 (内、セクションメンバー1名)) ・倉田小学校地域防災拠点 防災訓練 (2名)
1/25 (金)	上倉田地区資料作成ボランティア (1名、職員1名)
3/10 (日)	「3.11 被災地応援イベント～あの時と今～」 横浜市民防災センターで横浜地域活動、陸前高田復興支援プログラムのメンバーが来場する子ども向けのブースを出展 (11名)
3/16 (土)	「とっとの芽」(5名 (内、セクションメンバー1名))

◇とっとの芽 (戸塚区地域子育て支援拠点)

目的	・戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」で子どもたちと触れ合う ・明治学院大学学生に「とっとの芽」の活動について知ってもらう
場所	横浜市戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」
活動内容	子どもたちや保護者の方々との触れ合い
活動日時、参加人数	1. 2018年4月21日(土) 9:30~12:00、5名(プチ 1Day) 2. 5月19日(土) 9:30~12:00、5名(プチ 1Day) 3. 6月16日(土) 9:30~16:00、5名(1 Day for Others 協働プログラム) 4. 7月21日(土) 9:30~12:00、3名(内、セクションメンバー1名)(プチ 1Day) 5. 11月17日(土) 9:30~12:00、5名(内、セクションメンバー1名)(プチ 1Day) 6. 2019年3月16日(土) 9:30~12:00、5名(内、セクションメンバー1名)

実施概要

戸塚区には「とっとの芽」という地域の子育て支援拠点がある。そこは、親子の集まる場所となっており、子育ての悩みを相談することもできる子育ての支援の場である。「とっとの芽」での活動は、掃除をすることから始まり、親子が集まってきたら、広場で子どもたちと触れ合ったり、保護者とお話をしたりする。お昼前になると、おもちゃの片付けをして、大型絵本の読み聞かせをしたり、手遊びをしたりする。利用者が帰った後は、子どもたちが使用したおもちゃの消毒をする。今年度は、「ふたご、みつごの会」と「クリスマス会」の二つのプログラムにも参加させていただいた。

感想・活動を通して得た学び

「とっとの芽」を利用する子どもたちは0～2歳児が多く、日常生活で関わる機会が少ない年代の子どもたちである。その年代の子どもたちはまだ言葉を十分に話すことができないので、一緒に遊んだりコミュニケーションを取ったりすることの大変さを実感した。突然泣き出してしまったり、喧嘩が始まってしまったり、楽しいだけの時間ではなかったが、人見知りの子どもの一緒に遊ぶことで笑顔を見せてくれるなどたくさん貴重な体験をさせていただいた。また、職員の方々や保護者の方々と話すうえで子育ての苦労や喜びを知ることができた。

今後に向けて

将来、結婚して自分の子どもを持った時や、身の回りで小さな子どもと関わる時に「とっとの芽」で子どもたちと触れ合った経験や保護者の方々から伺った子育ての話を生かしていきたい。また、活動を通して小さな子どもたちに関する知識を得ただけでなく、子どもと関わる自信を持つこともできた。時間に余裕がある大学生のうちに子どもたちと触れ合うことができたことは大きかったので、より多くの学生に「とっとの芽」のような子育て支援拠点の活動に参加してもらいたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇戸塚まつり

目的	地域の方々との交流
場所	横浜キャンパス ボランティアセンター前
活動内容	子ども向けお祭りブースの作製・運営
活動日時、参加人数	2018年5月26日(土) 13:00~18:00、26名 5月27日(日) 9:30~16:00、19名

実施概要

横浜地域活動メンバーを五つの班に分け、それぞれで子ども向けのお祭りブースを作製し、運営した。ブースの内容はシャボン玉、輪投げ、風鈴作り、ヨーヨー釣り、スマートボールである。活動開始は春休み中の3月初旬、まず全員でブース案を出していき私たち1年生の中だけでざっくりとした計画を練った。4月に入り新1年生も仲間に加え、週1回のセクションミーティングの他にも班ごとに昼休みに集まるなどして準備を進めていった。当日は遊びに来てくれた子どもたちとの交流に積極的に参加できた。

感想・活動を通して得た学び

私のいたシャボン玉班はシャボン液を自分で作ったり、一度に大量のシャボン玉を作ったりして子どもたちと交流するブースを担当した。その中で、私のチームはガラクタ（ハンガーやうちわの骨組みなど）を使ったシャボン玉作りを担当した。失敗しても次はこれをやってみよう、とたくさん挑戦できたことが良かったと思う。このように準備に時間をかけた分、当日子どもたちの楽しんでいる姿を見るとやって良かったと思えるし、なにより自分たちの達成感につながる良い経験になった。

今後に向けて

シャボン液を子どもたち自身で作ってもらおうと計画したが、あらかじめの用意やシミュレーションが不十分だったため当日上手くいかず、実現することができなかった。自分のチームだけではなく他のチームの進行状況もしっかり見ながら、協力の輪をもっと広げられれば良かったと思う。そして子どもだけでなく一緒に参加してくださったお父さんお母さんや、お年寄りの方にも楽しんでいただけるようなお祭りブースを考えられると良いと思う。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

◇ふれあいフリーマーケット

目的	フリーマーケットに参加した親子に楽しんでもらう
場所	横浜医療センター公開空地（横浜市戸塚区原宿）
活動内容	戸塚原宿商店街が主催するフリーマーケットで子ども向けの遊戯ブースを運営
活動日時、参加人数	2018年6月3日（日）8：30～15：30（1 Day for Others 協働プログラム）、38名（内、セクションメンバー29名） 10月14日（日）8：30～15：30（1 Day for Others 協働プログラム）、27名（内、セクションメンバー23名）

実施概要

横浜市戸塚区原宿の商店街「松栄会」が主催する「ふれあいフリーマーケット」にて、来場する子どもたち向けの遊戯ブースを企画、運営を行った。どのような内容なら子どもたちが楽しめるか、屋外でのイベントであることを考慮して、遊びを工夫しながら活動した。またフリーマーケット全体の運営として「来場者のカウント」「ゴミ分別の誘導」「抽選会」なども行った。運営への協力を通して地域の方々と協力し、交流を深めた。

感想・活動を通して得た学び

松栄会の方との打ち合わせの中で、戸塚原宿地域の課題として若い人が少ないことが挙げられ、子ども向け遊戯ブースの運営は親子連れを呼び込むことにつながっていると知ることができた。また当日は1Day参加者を含め、同じブースを運営する仲間でも子どもの年齢や得意不得意、外の環境（風が強いなど）について気がついたことを共有しながら、ブースでの活動を適宜工夫していくことで、協力していく大切さと難しさを学ぶことができた。



今後に向けて

ふれあいフリーマーケットは年2回毎年参加しているので、今回学んだことや気がついたことを地域の方や学生メンバーで共有し、来年はより良い活動ができるよう努力する。横浜地域活動の継続した活動として今後も松栄会の方と協力していきたい。課題として、活動中それぞれのメンバーが独立して動いている中で、情報の伝達が上手くいかなかった点を今後改善する。戸塚原宿地域で子ども向けに活動する意味について意識し、しっかりと目的・目標を考えながら活動する。

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇小田急分譲地自治会夏祭り

目的	地域の活性化
場所	横浜市戸塚区上倉田町
活動内容	夏祭りに参加し、盆踊りを地域の方と踊る
活動日時、参加人数	《練習会》2018年7月4日(水)3名、7月11日(水)2名、7月18日(水)6名、いずれも19:00～ 《本番》7月21日(土)19:00～、9名、職員1名

実施概要

小田急分譲地自治会夏祭りで、私たちは地域の方と一緒に盆踊りを踊り、クレープの屋台の手伝いをした。夏祭りの事前準備として、地域の方とともに開催日の1か月前から週1回、盆踊りで踊る音頭の振り付けを教わり練習を重ねた。盆踊りには音頭が約五つあり、戸塚音頭といった地域の音頭があるということを地域の方に教わった。当日は夏祭りならではの浴衣やハッピを着て参加した。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動で、戸塚音頭という地域の音頭を踊り地域の方々と関わることで地域活性化につながる事ができたと考えるのは傲慢に思えるが、これからの地域活動の原動力になり得る活動であった。地域の方は皆温かく優しくかった。このような方々に囲まれて戸塚キャンパスでの大学生活を過ごしてきたのだと気づかされると同時に、嬉しく思った。活動を通して、この地域の方のためにもさらなる地域活性化を目指して活動していこうと思えた。

今後に向けて

お祭りを通して地域をより理解することができたので、今後はそれを生かし、地域活性化に向けて活動内容を改めて考えていこうと思う。しかし毎年、例年と同じように盆踊りに参加し踊るというだけではなく、『昨年とは違い、新しいことを理解することができた』などと思えるように活動を行っていきたい。そのためには目標を持って、新しい気持ちで活動に参加していきたい。たくさん学んで、今よりもさらに発展した横浜地域活動にしたい。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇とつか宿場まつり

目的	戸塚宿を地域の人に広める
場所	戸塚駅周辺、戸塚区役所（横浜市戸塚区）
活動内容	子ども向けのブースの運営
活動日時、 参加人数	2018年9月23日（日）8:15～16:15（1 Day for Others 協働プログラム） 44名（内、セクションメンバー34名）

実施概要

戸塚区役所や地域で活動している団体の方々とともに、2015年から開催している「とつか宿場まつり」に参加し、スマートボール、輪投げ、クイズラリー、魚釣り、新聞紙ダーツといった子ども向けブースの運営をした。また、スポーツセンターの方と一緒にパラリンピックの正式種目でもあるポッチャを体験できるブースや戸塚の歴史を学びながら遊べるすごろくのブースを出した。クイズラリーでは、戸塚宿の歴史に関する問題を出し、子どもたちに興味を持ってもらうためガチャガチャを使うなど工夫した。



感想・活動を通して得た学び

活動を通して、自分たちで計画しーから作り上げることの大変さを学ぶことができた。宿場まつり当日、子どもたちが楽しんでいる姿を見て達成感を得ることができた。自分自身も戸塚宿について学びながら幅広い世代の方々と交流することができ、良い経験になった。今回、親子連れの方が少なかったためか手が空く時間が多かった。そのような場合にはほかのブースを手伝うなど積極的に自分から行動することが大切であると思った。

今後に向けて

夏期休暇に入る前から誰がどこのブースを担当するか決めていたため、夏期休暇中に班ごとに準備をすることができた。ブースごとに分かれて準備をしたことによりスムーズに準備を進められた。しかし、班ごとに活動することが多く各班の進行状況をセクション全体で共有できていなかったため、ほかの班がどのような活動をしているのか全体で把握できていなかった。また、来場した子どもが少なかったためか学生が時間を持て余しているようだった。今回の反省を踏まえ、各班の進行状況を報告する機会を設けること、ブースを減らすことを検討する必要がある。

（学生メンバー 心理学部心理学科）

◇オータムフェスタ 2018

目的	子どもたちに楽しく防災に親しんでもらう
場所	横浜市消防局横浜市民防災センター
活動内容	子ども向けブースの出展
活動日時、 参加人数	2018年11月11日(日) 10:00~15:00 7名

実施概要

横浜市消防局や、(株)クレディセゾン、損害保険ジャパン日本興亜(株)などの協力のもと、横浜市民防災センターにて実施された「オータムフェスタ 2018」において学生ブースを出展・運営した。当日は、折り紙で作った魚を釣る魚釣りやペットボトルを使って行う輪投げの二つのブースを出展した。



感想・活動を通して得た学び

私は、この企画において当日のリーダーを務め、メンバーのバランスを見ながら運営スタッフの方との連絡などを行った。この企画は、初めて私たち1年生が主体となってお手伝いさせていただいた企画で、それ故緊張感もありつつも、子どもたちに楽しんでもらえるブース作りができたと感じている。イベントを通して自分自身も防災を学びながら、子どもや保護者の方、さらに消防士の方とも交流ができとても貴重な経験になった。また、当日の来場者の多さにも驚かされた。私は市民の防災意識向上を図るこのようなイベントにこれまで参加したことがなかったので、今回こういった形で携わることができ嬉しく思った。

今後に向けて

オータムフェスタ 2018 は1年生が主体となって行う活動としては初めてのものであったので、学生メンバー間での情報共有や当日までの準備に慣れておらず、少々混乱が生じる場面もあった。しかしその分、活動全体を通して企画実行の流れや注意する点を把握できたという面もあり、今後のあらゆる活動に生かしていこうと思う。また、今回の反省として、「子どもたちに楽しんでもらう」という事項を優先してしまい、学生ブースに防災の要素を充分に取り入れられなかったというものがある。企画の趣旨・ニーズに沿ったものを考えていかなければならないと感じた。今後のイベントなどでは運営側の方と事前の打ち合わせをより重視し、学生メンバー同士の話し合いを重ね、ボランティアとしての質を高めていく。

(学生メンバー 法学部法律学科)

5.2 白金地域活動

学生チーフ総括

今年度はこのセクションが活動を再開してから2年目ということで、昨年の活動をさらに良いものにして、新しい活動も考えていた。昨年から行っていた活動では、以前の活動の反省を踏まえ改善していくことももちろんであるが、メンバー1人1人の意見を大切に、協力しながら行った。昨年の活動によってできた地域の人とのつながりの大切さも実感した。新しい活動としては、白金キャンパス周辺のマップ作りを行い、横浜・白金両キャンパスのボランティアセンターと、白金キャンパス学生課に設置させてもらった。新しい活動を始めるというのは難しかったが、とても大きな成果になったと思う。

また今年は1年生から3年生までの新メンバーも増え、さらに活動が賑やかであったとも感じている。白金キャンパスを中心に活動しているため自然と上級生が多くなるのだが、新入生や横浜キャンパスに通学する学生もメンバーに加わり、積極的に活動に参加してくれたためとても頼もしかった。昨年と一緒に活動していたメンバーの経験と、新しく参加したメンバーの新鮮な意見からとても充実した活動につながった。

さまざまな活動を行うことで苦勞することもたくさんあったが、メンバー同士の協力でどの活動も良いものになったと思う。しかし活動を再開してまだ日も浅く、セクションとしても活動自体もまだまだ変化や改善が必要である。これからも地域の方々との関わりを大切にしながら、これからできることを考えていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

●2018年度「白金地域活動」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
4/29 (日)	白金小学校での地域運動会「ふれあい運動会」(12名、職員1名) ※明治学院高等学校の生徒3名、教員3名も参加
8/20 (月)	バルーンアート講習会 (講師：NPO 法人みなと子ども食堂 理事 愛敬真喜子氏) (5名)
8月	白金台児童館で学童保育ボランティア
9/29 (土)	白金台児童館主催「ワンパクまつり」で子ども向けブースを企画・実施 (17名 (内、セクションメンバー13名)、職員1名)
6月～10月	白金キャンパス周辺地域を紹介したマップ「白金食さんぽ」を作成 (15名)
10/6 (土)・10/7 (日)	「みなと区民まつり」(10/6：17名 (内、セクションメンバー2名)、10/7：34名 (内、セクションメンバー10名)) ※10/7は台風接近による強風のため中止となった

【参考】2018年度白金キャンパス近隣地域での活動 (公募プログラム)

日にち	内容 (参加人数)
8/18 (土)～8/20 (月)	港区高松地区青少年委員会主催「みなとキャンプ村」(14名 (内、セクションメンバー1名))
9/16 (日)	「目黒区民まつり (目黒のSUNまつり)」(7名)

12/2 (日)	「MINATO シティハーフマラソン 2018」(27名)
3/9 (土)	港区高松地区青少年委員会主催「三浦半島いちご狩り」(11名)

◇ふれあい運動会

目的	地域交流
場所	港区立白金小学校 グラウンド
活動内容	地域主催のふれあい運動会に参加し、各種手伝い、交流を図る
活動日時、 参加人数	2018年4月29日(日) 9:30~14:00 12名、職員1名 ※明治学院高等学校の生徒3名、教員3名も参加した

実施概要

白金小学校にて白金地域主催のふれあい運動会に参加した。当日は司会進行、準備体操のお手本、そのほか競技のデモンストレーション、競技ごとの用品・備品の設置・片付けなど主に運営のサポートを行った。運動会の前には、白金小学校で行われた事前打ち合わせに参加したり、学生ミーティングで準備体操の練習を行ったりした。また、活動後には地域の方々の懇親会に参加し、交流を図った。



感想・活動を通して得た学び

子ども、高齢者など老若男女問わず「同じ地域」というくくりでさまざまな方が参加しているふれあい運動会に参加し、私たち自身楽しみながら活動することができた。白金周辺を拠点に活動している私たちにとって、このように実際に地域の方と一緒に活動するというのはとても貴重な機会であり、その大切さも学ぶことができた。また、今回は本学系列校の高校生とも一緒に活動でき、とても良い経験となった。このような活動を通してより一層地域の方との交流を図っていき、信頼関係を築いていきたいと考える。

今後に向けて

ふれあい運動会は地域のさまざまな方と交流できる大切な場であり、今後も参加したいと考えている。事前に配付された冊子の確認不足など反省点も出たため、来年度以降スムーズに動けるように全体での共有を徹底していきたいと思う。また、運動会後の懇親会という場は、地域の方のニーズを聞けるとても良い機会であると考え、積極的にお話を聞いたりし、交流を図ることでその後の活動にいかしていければと考える。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇ワンパクまつり

目的	白金台児童館を中心とする地域のお祭りにおいて、ブース出展をすることで地域連携を強化
場所	白金台どんぐり児童遊園（港区白金台5丁目）
活動内容	子ども向けブースの出展
活動日時、 参加人数	2018年9月29日（土）9：30～16：30 17名（内、セクションメンバー13名）、職員1名

実施概要

子ども向けのお祭りとして白金台児童館主催で行われた「ワンパクまつり」で、魚釣りゲームと空き缶積みゲームの二つのブースを出展した。景品として子どもにあげる手作りバルーンアートにも挑戦し、イヌや剣のほかにクマなどの製作に励んだ。当日は、どちらのブースもたくさん子どもたちに楽しんでもらうことができ、大変貴重な経験となった。



感想・活動を通して得た学び

夏休みの期間も学生メンバー間で積極的に集まることで出展準備にも十分な時間をかけることができた。当日の天候は雨であったにもかかわらずたくさん子どもたちがブースに遊びに来てくれたため、子どもたちとの交流も多く、非常に充実した時間を過ごすことができた。今回の活動を通して、自分たちで何かを作りあげることの難しさと同時に、作りあげる達成感を改めて学んだ。

今後に向けて

今回の活動は、前年の反省を生かして製作準備の時間を十分に確保したことや、当日の役割分担をシフト化したことでスムーズに行動することができた。しかし、当日の天候が雨予報であったにもかかわらず、雨への備えが足りなかったため、ブース運営へ支障をきたす事態が発生してしまったことなど反省点も多々あった。良かった点は継続し、悪かった点は改善を心がけ、今後の活動をより良いものにしていきたい。

（学生メンバー 法学部消費情報環境法学科）

◇学校周辺マップ「白金食さんぽ」の作成

目的	大学周辺地域を知り、その情報をマップにして白金キャンパスに通う学生に伝える
場所	白金キャンパス周辺
活動内容	周辺地域の探索/飲食店の取材/マップのデザイン
活動日時、 参加人数	《取材》2018年6月19日(火)、25日(月)～27日(水)、7月2日(月)、3日(火) の放課後、15名(目黒班7名、品川班8名) 《マップ作成》2018年7月7日(土)～10月5日(金)

実施概要

「白金食さんぽ」は白金キャンパスに通う学生に向けて、大学周辺の情報を提供するためのマップである。白金キャンパスを中心に品川駅方面と目黒駅方面にグループを分けて、大学周辺の飲食店に飛び込み訪問を行った。その際にメンバーが食事をすることで、学生目線の情報収集を行うことを心がけた。各グループで取材した内容は全体ミーティングで共有し、マップの内容やデザインも意見を出し合って考えた。完成したマップは横浜と白金の両キャンパスに設置し、多くの学生の目に留まるようにした。

感想・活動を通して得た学び

マップの取材は学生メンバーが飛び込みで行ったのだが、「白金＝高級」のイメージがあったため非常に緊張した。しかし実際には大学生歓迎姿勢のお店が多く、明学生限定のクーポンまで付けてくれるところもあった。直接お店の方とお話することで、地域の情報を得ることができたため、大変貴重な機会となった。「白金食さんぽ」は情報をただ伝えるインターネットとは違う、学生目線の情報ということを意識したマップとなったと思う。

今後に向けて

マップ作成にあたって一番印象的だったのは、印刷を依頼した高輪の印刷会社の方が、2017年以前の白金地域活動の先輩方が作ったマップを覚えていたことである。さらにマップを見た学生から「こんなお店もあるよ!」と新しい情報の提供を受けたり、地域の方からSNSを通じて感想を頂いたりした。地域と大学生をつなぐきっかけとしてマップの意義は大きい。今後もマップを通じた地域交流ができればと思う。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

『白金さんぽ』両面カラー印刷し、8つ折にして完成。

●表面

6
TRATTORIA La Follia
A ハズカ屋
B 1000円～
C 店内に入る人数は7、8人ほど
D 昼 火曜～金曜 11:30～14:00
土曜 12:00～14:00
夜 火曜～土曜 18:00～22:00
日曜 18:00～21:00
定休日 月曜
E 03-5420-4710

7
白金 inakara
A 洋食レストラン
B ランチ 1000円～ ティナー 2000円程度
C テラス席もありゆったり過ごせます！
D 赤いお肉のフレッシュポークが自印
E 平日 ランチ 11:30～16:30
ティナー 18:00～23:00
休日 ランチ 11:30～17:00
ティナー 17:00～23:00
E 050-5595-4753
☆このマップを見たと言えばワンドリンクサービス！

8
カフェ・ラ・ポエム
A カフェ
B ランチ 1000円～ ティナー 1500円～
C 外観、内装がとてもおしゃれで本格的な料理が楽しめます
D ランチ 11:30～15:00 ティナー 11:30～21:30
E 050-5590-2804

9
ドーナツフラント
A ドーナツ、カフェ
B 300円～400円 ハンも売ってます
C 自然素材にこだわったドーナツ
D イートインスペースもあります
E 平日 8:00～19:00 休日 11:30～19:00
E 03-6271-2249

10
白金スイーツ
A ケーキ、アイスクリーム、パン、カレーなど
B ～1000円 アイスクリーム380円～
C ぜいたくなアイスです
D 10:00～20:00 不定休
E 03-6409-6512

11
岩崎白会
A レストラン、フレンチ
B ランチ2900円 ティナー4500円～
C 素材にこだわった料理 ホリウーム満点です
D 平日 17:00～23:00 休日 15:00～23:00
定休日 毎週水曜
E 050-5594-2886

白金さんぽ
散歩
白金地域活動

白金地域活動とは？
明治学院大学ボランティアセンターに所属する学生が中心です。白金キャンパス周辺の活性化を目的に、主に地域の運動会やお祭りのお手伝い、企画をしています。2017年度よりセクションとしての活動を始めたため、新しい活動を開始するメンバーもまだ少数ですが、1人1人が積極的に活動し、それぞれの意見を大切にしています。このマップもメンバーの足で実際に白金周辺を巡り、作成しました。今後も、メンバー同士協力して活動に取り組み、成長していきたいです。

☆Twitter☆
ボランティアセンター 白金地域活動
@SkrnvcStudent
どんな活動をしているのか知りたい方、興味のある方はぜひチェック!!

1
ビザビステーキ チーター
A 洋食
B 800円～
C 肉や野菜の豪華なビザとランチのカレー
D 11:30～22:00
E 03-6271-0139

2
ホーリー
A 喜なからの洋菓子店 since1966
B ケーキ、マドレーズ等 平均380円
C イートインスペースが4席
D 10:30～20:00 定休日 月曜
E 03-3441-6976

3
栗香亭
A 中華料理
B 約7000円～
C 安いのにボリューム満点
D 11:00～20:00 定休日 火曜、日曜
E 03-3441-2875

4
味の家
A 中華料理
B 800円～
C 明学生御用達
D 11:00～15:00 17:00～22:00
E 03-6385-2236

5
chocolate lechevin
A チョコレート専門店
B チョコ1粒 70円～
C 梅干菓子やケーキなども販売
D 11:00～19:00 定休日 日曜
E 03-5422-9763

Special Thanks：取材にご協力いただいた方々
発行：2018年10月1日
発行者：明治学院大学ボランティアセンター
学生セクション/白金地域活動
印刷所：小池企画印刷
※掲載情報はすべて作成時点のものです

●裏面

【お店紹介】
Aジャンル
B価格の目安
Cお店の特徴
D営業時間・定休日
E電話番号

6 海外プログラム事業部（国際協力、国際支援）

学生チーフ総括

2018年度の新体制発足直後は、実質6人のスタートだったと記憶している。マンネリ化しつつあった各企画からの脱却を図り、少ない人数ながらも尽力した。タイでのボランティアツアーはその代表例と言ってもよい。当セクションの謳い文句「Think globally, step forward ～世界を変える小さな一歩～」にもあるが、まさしくゼロからの企画立案だった。すべてが良い結果になったとはいいたいものがあるものの、メンバー各々に何かしらの影響を残したことは明らかだった。

新体制となり半年経った4月は、新入生メンバーの獲得に奮闘した。10人加入すれば多いと予想していたが、予想の倍以上の20人を超える新入生が加入してくれた。そして、彼らを迎えてからのセクション活動は非常に盛り上がりを見せた。10月の明学国際ガールズ・ウィーク企画はその代表例と言えるだろう。その企画の立案や実施は、経験と知識を蓄えた上級生メンバーと型にとらわれない新入生のフレッシュさが、前年までの活動では見られなかった新たなセクション色を作り上げた。企画をすべて振り返るととても書ききれない。それほど今年度のセクション活動は中身の濃いものだった。

昨年12月に引き継ぎを行い、チーフを退いた。苦労もあったが、チーフの活動がなくなり一抹の寂しさを感じながら学生生活を過ごしている。新体制には彼らの持ち味である「勢い」と「柔軟な発想力」を存分に生かして活動して欲しい。彼らが、私の大好きな「ボラセン」に良い風を起こしてくれることを期待して、海外プログラム事業部のチーフ総括としたい。

（学生メンバー 法学部政治学科）

●2018年度「海外プログラム事業部」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
5/26（土）・5/27（日）	大学祭「戸塚まつり」で子ども向けペットボトルキャップ回収キャンペーンを実施（5/26：3名、5/27：4名）
10/8（月）～10/12（金）	国際ガールズ・デー企画「明学国際ガールズ・ウィーク」（32名）
10/23（火）～10/26（金）、 29（月）	ペットボトルキャップ回収キャンペーン「Cap for Treat」（10/23：11名、10/24：9名、10/25：7名、10/26：13名、10/29：8名）
2018年12月～2019年3月	国際ガールズ・デー企画「書き損じはがき・未使用はがき回収キャンペーン」（7名）

◇ペットボトルキャップ回収

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが気軽に楽しみながら身近にできることを実感してもらい、興味・関心を持ってもらう ・イベントを通して普段よりさらに多くのペットボトルキャップを回収しワクチンに換え、世界の子どもたちの健康に貢献する
場所	横浜キャンパス ボランティアセンター付近

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・海外プログラム事業部のメンバーが回収箱を持ち、ボランティアセンター前でキャップ回収を行う ・集めたキャップを進栄化成（株）に送りリサイクルしてもらい、換金額を認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）に送る
活動日時、参加人数	2018年5月26日（土）11：00～18：00 3名、27日（日）10：00～17：00 4名 10月23日（火）11名、24日（水）9名、25日（木）7名、26日（金）13名、29日（月）8名、いずれも昼休みに実施

実施概要

5月の戸塚まつりでは主に地域の方を対象に、10月のハロウィンイベントでは横浜キャンパスの学生を対象にペットボトルキャップ回収の呼びかけをし、収集した。ペットボトルキャップは約860個でポリオワクチン1人分相当の20円になること、回収業者がキャップをリサイクルし、売却した利益によってワクチンが作られ支援国の子どもたちのもとへ届く流れを説明するなど、積極的に声かけを行った。10月はハロウィンにちなみ学生メンバーが仮装をして呼びかけを行い、キャップを持ち寄ってくれた方にはお菓子をプレゼントするなど学生たちに興味を持ってもらうよう努力した。事後にはキャップの個数を数え、キャップから作られるワクチンの量を計算しボランティアセンターに掲示した。



感想・活動を通して得た学び

積極的に声かけを行い、キャップ一つからでもボランティア活動に参加できることを知ってもらったことで、普段の活動で挙げられていた“一部の人がしか参加できていない”という問題の改善につなげることができた。10月のハロウィン時には多くのメンバーが仮装をして呼びかけを行ったため、より学生の興味を引くことができ、イベントと結びつけることで楽しくボランティア活動を広めることができた。学生への呼びかけや回収を通して、声かけという地道な活動が、遠く離れた国の子どもたちの健康につながっていることを考え、活動を見つめ直す良い機会となった。

今後に向けて

5月の戸塚まつりでの活動ではペットボトルキャップ回収、またキャップがワクチンに換わることのお知らせができた。10月のハロウィンでは目標の7,000個を達成し、7,744個のキャップを回収することができた。一方でお持ち寄りいただいた人数は少数であり、参加が限られた人たちだけになってしまった。より多くの人へのキャップ回収の周知が課題である。今後、イベントと絡めてキャップ回収を行う際には、事前の告知や普段のキャップ回収活動の広報を心がけたい。例えば、SNSを利用し学内のみならず学外、地域の方にもお伝えできると良いだろう。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

(学生メンバー 心理学部心理学科)

◇明学国際ガールズ・ウィーク & 書き損じはがき・未使用はがき回収

目的	学生に国際ガールズ・デーについて知ってもらうだけでなく、企画に主体的に参加することで社会問題への関心を深めてもらう
場所	横浜キャンパス：インターナショナルラウンジ、図書館、ボランティアセンター、 commons 8、食堂 白金キャンパス：食堂
活動内容	ピンクレモネード販売、外貨募金、関連本展示、書き損じはがき・未使用はがき回収
活動日時、 参加人数	明学国際ガールズ・ウィーク：2018年10月8日（月）～12日（金） 書き損じはがき・未使用はがき回収：2018年12月～2019年3月 32名

実施概要

2018年10月8日から12日を明学国際ガールズ・ウィークと定め、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの「学生によるファンドレイジング活動」に参加し、フリープランとしてピンクレモネード販売、外貨募金、関連本の展示を行った。12月以降はその活動の一環として、書き損じはがき・未使用はがきの回収を行い、学外からの郵送も受け付けた。活動による寄付金は、プラン・インターナショナルのバングラデシュの「少数民族の女性たちの収入アッププロジェクト」に届けられた。



感想・活動を通して得た学び

早くからSNSや三角ポップなどで広報活動を行ったことで、多くの学生や大学職員に関心を持ってもらい、企画に参加してもらうことができた。ピンクレモネードの販売は予想以上の反響で、5日間で574杯を売り上げた。購入が寄付につながるという手軽さが企画成功の鍵になったと感じる。また、企画を通して活動メンバーが世界の女性問題について知識を深め、自分たちには何ができるのか思索する機会にもなった。活動をメディアに取り上げてもらう機会があり、海外プログラム事業部の活動を学外にアピールすることができた。

今後に向けて

今回の企画は、書き損じはがき・未使用はがき回収を除き学内のみで行われた。来年度はシンポジウム開催や他大学との協力など、企画の幅を広げ、学外の人も参加できるようにしたい。広報に関しては、ピンクレモネード販売の宣伝と外貨募金・関連本展示の宣伝のバランスが取れていなかった。広報の仕方についても検討し工夫していきたい。また、より良い企画を作るために活動メンバーの勉強会なども実施していきたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇学生による自主活動

タイボランティアツアー

2018年9月11日から19日、ボランティアセンター学生セクション・海外プログラム事業部の12名のメンバーでタイ、チェンライを訪れた。

現地では、山岳民族の生活向上と伝統継承を目的としたNGO ミラー財団の短期ボランティアプログラムに参加した。

アカ族の村に5日間滞在し、中学校での異文化交流活動（折り紙や習字）や幼稚園の壁にペンキを塗るボランティア、村の生活体験をした。

活動を通し、メンバーは村の生活力に驚いた。村一体で大きな家族のようなコミュニティができあがっており、自給自足の形が成り立っていた。少数民族ならではの問題を目の当たりにしながらも、元気いっぱいの子どもたちに圧倒された。

渡航前には、理解を深めるために事前学習を行い、帰国後はメンバーの学びをまとめた報告書を作成した。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

※報告書はボランティアセンターで閲覧できます。

7 MG パール（環境）

学生チーフ総括

2018年度のMGパールの目標は販売機会を増やしていくことであったが、達成することができなかった。しかし、例年の活動ではあるが、戸塚まつりに出店をした際、たくさんブースが出店されている中、多くの方がMGパールにも足を運んでくださり感動した。普段は横浜の生協で販売しているが、見てくれる人の顔を見ることはできないため、とてもいい刺激になったと感じている。また、普段の活動では短い時間しかメンバーと顔を合わせず、キャンパスが違えばまったく会わない人もいる中、皆と一緒に活動できる貴重な時間だった。私たちが行っているボランティア活動はアクセサリーを作ることだけではないのだということに再認識できた時間であった。お客さんとのコミュニケーションで、ボランティアの内容や効果を説明して広めていくことも私たちの役目であるということに気づけた。来年度は2018年度MGパールを支えてくれた先輩方が就職活動で忙しくなるので、私たちが今まで先輩方がサポートしてくれたことを全力で後輩にしていきたいと思う。そして、私がチーフをやっていて失敗したことや良かったことを次期チーフに伝えて支えたいと考えている。1年間チーフをやらせていただいて、たくさんの方にご迷惑をおかけしてしまったが、緊張したり、嬉しかったり、大変だったり、たくさんの方の経験をすることができたことに感謝したい。

（学生メンバー 社会学部社会福祉学科）

●2018年度「MGパール」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/4（水）	国際ソロプチミスト 東京-弥生「観桜会」に出席・出店（4名）
5/26（土）・5/27（日）	大学祭「戸塚まつり」で出店（5/26：5名、5/27：5名）
6/23（土）	「夏至キャンドルナイト@善了寺」に出店（3名）
8/28（火）	白金地域の造形作家・山下民子氏との制作会（3名）
9/22（土）・9/23（日）	夏合宿（9名）
11/29（木）	認定特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン（BCTJ）定例会に参加（2名）

※1 Day for Others「オランウータンから学ぼう！ボルネオ島の環境問題」は受入先都合のため中止となった

※毎週1回昼休みに学内で制作活動

◇戸塚まつり

目的	ボルネオ島の天然パールを使用したアクセサリーの広報と販売
場所	横浜キャンパス
活動内容	ボルネオ島の天然パールを使用したアクセサリーの販売
活動日時	2018年5月26日(土) 13:00~18:00、5名
参加人数	5月27日(日) 10:00~16:00、5名

実施概要

普段の活動で制作しているボルネオ島の天然パールを使ったアクセサリーを販売し、売り上げの半分をボルネオ島の環境保全に貢献している認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンに寄付した。販売活動を行うことで地域の方々や学生に MG パールの活動に興味を持ってもらい、活動について知ってもらうきっかけになった。また、学生広報委員からインタビューを受け、その内容の一部が白金通信にも掲載された。それによって、学生や教職員にも MG パールの活動について知ってもらうことができた。

感想・活動を通して得た学び

アクセサリー販売を通じて、地域の方々に MG パールの活動について興味をもって頂けた。また、広報委員の学生を通して学生にも活動について知ってもらえるきっかけになった。さらに、新入生のメンバーが入ってから初めて白金のメンバーと顔を合わせる機会にもなり、MG パール全体としてもコミュニケーションの輪が広がった。ただ、参加者自体が少なく一部の人だけになってしまったことが残念だった。

今後に向けて

MG パールのアクセサリー販売の場にもっと多くの学生などに来てもらえるように、事前にツイッターでの広報を確実に行えるようにしたい。そのうえで、アクセサリー商品のバリエーションを増やし普段の活動で制作できるような計画を立てられるようにしようと考えている。また、早めにシフトの予定を立て、多くの新入生が普段会うことができない白金のメンバーと顔を合わせる機会にしたいと考える。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇夏合宿

目的	博物館見学などを通して、自然の大切さを知る。学年を超えた知識の共有
場所	神奈川県 足柄下郡湯河原町、小田原市
活動内容	制作体験（皿への絵付け、シーグラスで写真立て装飾）、博物館見学など
活動日時、参加人数	2018年9月22日（土）11：00～9月23日（日）16：00 9名

実施概要

1日目は湯河原駅に到着した後、陶芸館でお皿への絵付けを体験した。その後、写真立てを装飾する活動のために湯河原海水浴場にて貝やシーグラス拾いをし、拾ったものを使用しながら写真立ての装飾を行った。普段、なかなか触れる機会のない自然に関する体験ができた。また、夜にはボルネオ島やMGパールの活動に関する知識共有のため、勉強会を行った。ボルネオ島の森林破壊の現状や問題に関するクイズをし、MGパールの活動目的が再確認できた。2日目は、自然について学ぶため生命の星・地球博物館を見学した。

感想・活動を通して得た学び

普段MGパールの活動では、ボルネオ島の淡水パールを用いたアクセサリーを制作しているが、合宿では海岸でとれた貝やシーグラスを用い写真立ての装飾をし、自然の物を飾りにするという共通点のある活動を行い、自然をより身近に感じることができた。勉強会でボルネオ島の森林破壊の現状や自然についての知識を合宿に参加したメンバー全員で共有し再確認したり、制作体験や博物館見学などをする中で、2日間を通して学年を問わず関わり合う機会を多く設けることができ、普段キャンパスが別のメンバーや初めて顔を合わせるメンバーとの仲を深めることもできた。

今後に向けて

夏合宿でMGパールの活動の目的を皆で再認識し、メンバー同士の仲も学年を問わずより深めることができた。今後は、今回夏合宿に参加することができなかったメンバーにもボルネオ島の自然の現状や問題に関する知識を共有し、MGパール全体でセクション活動の目的を再認識することで、日々の活動をより積極的に行っていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会学科)

8 学生事務局

学生事務局長総括

今年度の学生事務局では、ボランティア活動をしている学生たちをつなぐことを目的として掲げ、イベントの企画運営と他大学との交流により力を注いできた。

実際にイベントは三つ開催することができた。一つ目は、「防災訓練&非常食ワークショップ/セッション対抗レクリエーション」だ。〇×クイズや非常食の体感ワークを通して、日常防災の大切さを感じてもらうことができた。二つ目は、「学生ボランティアフェス」だ。本学ボランティアセンターの創設20周年を祝い、未来への一歩となる場としてこのイベントを企画、実施した。全員参加型のトークセッションや講演会を通して、「ボランティアとは何か」という問いを参加者一人ひとりが改めて考えることができたのではないだろうか。三つ目は、「活動報告会」だ。毎年開催をしているため、マンネリ化からの脱却が課題であったが、グループワークの内容や構成を事務局メンバーで再考した結果、「来て良かった」と思ってもらえるような会を創りあげることができたと感じている。

他大学との交流会は、ボラセンの見学と活動紹介が中心ではあったが、活動をしている中での悩みや思いを共有する場面も多く見られた。自分たちの活動や人生を紡いでいくうえで、新たな発見や刺激をもたらした時間となった。

今年度はミーティングも含め、学生メンバー同士が、直接顔を合わせて話す時間が増えたことにより、事務局の企画だけではなく、それぞれのセッション活動も、より活発で学生主体のものとなってきたように思える。私たちが活動を展開することができる背景には、職員やOBOG、地域の皆さんのサポートや応援があることに感謝の気持ちを忘れず、行動や態度で示しながら、来年度も「自分たちがやりたいこと」「自分たちにしかできないこと」をたくさん実現させて欲しい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

●2018年度「学生事務局」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
5/1 (火)	横浜キャンパス防災訓練&防災グループワーク & 学生メンバー交流会 (学生96名)
10/20 (土)	ボランティアセンター設立20周年記念イベント (学生42名、来賓4名)
12/1 (土)	ボランティアセンター活動報告会 (学生94名、来賓3名)

●2018年度他大学との学生交流

日にち	内容
8/27 (月)	日本社会事業大学との交流会
1/26 (土)	東海大学との交流会

◇横浜キャンパス防災訓練

目的	大学での避難の仕方と避難所で起こる問題を体験/学生メンバーの交流
場所	横浜キャンパス
活動内容	避難訓練/学生メンバーオリエンテーション
活動日時、 参加人数	2018年5月1日(火) 9:00~15:30 学生96名

実施概要

大学構内にいるときに大地震が発生したことを想定し、避難訓練を実施した。この訓練は大学構内の避難場所を理解するためのものである。避難後、学生メンバーによる防災〇×クイズ、非常食の試食&グループワークを行った。

午後はボランティアセンターの学生メンバー全体のオリエンテーションとして、事務局企画のセクション対抗レクリエーションを実施。ジェスチャーゲームと借り物競走を行い、セクション間の交流だけでなく、他セクションの学生メンバーとの交流、新入生との交流をする貴重な時間となった。

感想・活動を通して得た学び

今回の避難訓練を通して、どのように行動すれば良いのか身をもって体験することができたため、実際に災害が起きてしまっても、今回のことを思い出し行動できるのではないかと思う。防災〇×クイズでは防災知識を再確認することができた。また非常食に関するワークショップを行うことで、調理する際、食べる際の問題を体験することができたため貴重な機会となった。

セクション対抗レクリエーションでは、借り物競走をすることにより多くの学生メンバーと交流する機会をつくることができた。参加した学生メンバーからは「たくさんの学生と話すことができ楽しかった」「新入生とも仲良くなることができた」などの意見が多く挙がった。

今後に向けて

今回の防災訓練を行うことで、避難場所の確認とともに、避難場所で起きる問題を実際に体験することができた。そのため避難場所で起きる問題に対し、各自がどのように行動すれば良いか考える貴重な機会となった。今回はボランティアセンターの学生メンバーおよび戸塚まつり準備会のメンバーが中心であったため、今後は他の学生を巻き込んでいきたいと考える。

セクション対抗レクリエーションは、1年の始まりに交流する機会を設けることができたためその後の活動にも生かすことができたと感じる。次回も今回の経験を生かし、学生メンバーが交流する機会を企画していきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇日本社会事業大学との交流

目的	他大学のボランティアセンターや学生メンバーの活動について知る
場所	白金キャンパス ボランティアセンター/1407教室
活動内容	それぞれの活動発表、意見交換
活動日時、 参加人数	2018年8月27日(月) 10:30~12:30 学生メンバー3名、日本社会事業大学の学生5名

実施概要

日本社会事業大学ボランティアセンターの学生メンバーと交流し、お互いの活動紹介、ボランティアについての意見交換会を行った。活動紹介では、パワーポイントを使った発表のあと質疑応答の時間も設け、理解を深められるような時間となった。その後の意見交換ではボランティアをされていて良かったこと、悩みなどを出し合い、さまざまな意見に触れることができた。それぞれが自由に発言できる、とても穏やかで話しやすい雰囲気であった。

感想・活動を通して得た学び

今回参加したのは全員で8人と少人数での意見交換だったが、その分一人ひとりが発言することができて、全員がしっかりと参加していた会であったと感じた。また、1年生から4年生まで全学年の学生が参加していたため、ボランティア経験の多い人や始めたばかりの人など、さまざまな視点の意見を聞くこともできた。お互いが行っているボランティアセンターとしての活動は大きく異なっていたが、それが新しい発見にもつながり、自分の活動に生かせるような工夫も学ぶことができた。

今後に向けて

他大学の学生と関わることで自分の活動や所属団体だけではわからないことに気づくことができ、これからの活動に生かすこともできるため今後も続けていくべきだと思う。しかし、今回は参加したメンバー以外の学生たちに、得た情報を共有することがあまりできなかつたと感じている。そのため、参加して学んだり関わりを作るだけでなく、得た情報の共有という点も視野に入れて交流を目指していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇20周年学生イベント（学生ボランティアフェス）

目的	明治学院大学ボランティアセンターの20周年を記念したイベント
場所	横浜キャンパス クララ・ラウンジ
活動内容	学生の活動紹介/ボランティアを見つめ直すためのトーク会
活動日時、 参加人数	2018年10月20日（土）12:00～18:00 学生42名、来賓4名

実施概要

ボランティアセンター設立20周年にちなんで、ボランティアセンター学生事務局によるイベント。3部構成のイベントで、1部ではボランティアを行っている学生がそれぞれでブースを出し、来場者に向けて活動を紹介した。2部での初代センター長加山久夫先生による公開講座を経て、3部では、「ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」と題した、会場全体を巻き込んだフリートークを行った。

感想・活動を通して得た学び

イベントの3部では、ボランティアとは何かなど、活動を行っている時にはなかなか考えないことを考え、イベント参加者と意見交換をした。そうすることで、普段は見えない、個人が大切にしていることなどが見えたので、とても温かい気持ちになった。同じ活動をしていても、持っている気持ちや感じ

ていることが違うということを知ることができ、そのような違いが、ボランティア活動をより一層鮮やかな活動にさせるのではないかという可能性を感じた。

今後に向けて

このイベントを通じて、私はボランティアへの人と人をつなぐという大きな可能性を感じた。特にイベントの3部では、来場者（自分も含め）は知り合いではない人も交えてフリートークをしなければならなかった。それにもかかわらず、良い意味で熱を帯びた話し合いになった。それは、皆が真剣に自分と向き合い正直な話し合いをしたからだだろう。“ボランティア”を通じ、皆が通じ合ったということが言えるかもしれない。この経験を生かして、来年度はさらなるボランティア学生の交流を活性化させたい。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇2018年度ボランティアセンター活動報告会

目的	ボランティアセンターに所属する各セクションが一堂に会し、年間の活動を報告する
場所	白金キャンパス 3101 教室
活動内容	各セクションの年間の活動報告/学生交流
活動日時、 参加人数	2018年12月1日(土) 13:00~17:00 学生メンバー94名、来賓3名

実施概要

2018年度のボランティアセンターの活動報告会は、各セクションが1年間の活動および成果、課題を発表することで自らの振り返りを行うと同時に、来年度に向けて活動の意欲を新たにする場である。今年度は、7セクションに加え学生事務局が発表を行い、日頃からお世話になっている方々や他セクションからのさまざまな意見を受け、新たな発見を生み出す機会でもあった。

2部では、セクションを超えた学生同士の交流を目的にさまざまな企画を行った。

感想・活動を通して得た学び

1部の発表会では活動を真剣に報告する姿勢で、2部の交流会では普段なかなか関わることのない学生同士が打ち解けた雰囲気に参加していたことが印象的であった。それによって、メリハリを持って相互に交流する場を作ることの重要性を学ぶことができた。加えて、報告会の運営に関わることで自セクションの活動がボランティアセンター全体の活動でもあると再確認することができた。他セクションの活動はとても興味深く、自セクションに取り込むことができないかという目線でも大いに参考になった。

今後に向けて

自セクションへの評価で、「もっと伸びしろがある」「もっと良くしたい」などの前向きな意見をアンケート結果から多数読み取ることができた。この意欲を生かして活動の輪を広めることができるようにしていきたい。そのためにも、20周年の節目を迎えた後もセクション間のつながりを強くする活動が引き続き行われていることが大切である。報告会後の反省会で挙げた、2部のグループ分けの方法や報告会の意図をわかりやすく学生に伝えるなどの点を改善し、より多くの協力が得られる活動を展開していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

9 国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）

職員総括

横浜・みなとみらい地区の国際機関で100時間の実務体験を行うプログラムで、公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)と本学を含めた6大学との協働事業となっている。派遣先である国際機関も2018年度に2機関が新たに加わった。

派遣国際機関：アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)

国際熱帯木材機関 (ITTO)

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所

シティネット横浜プロジェクトオフィス (CITYNET YOKOHAMA)

独立行政法人 国際協力機構 横浜センター (JICA 横浜)

特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 (WFP) 協会 (2018年～)

日本貿易振興機構 横浜貿易情報センター (JETRO 横浜) (2018年～)

公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

加盟6大学： 横浜国立大学、フェリス女学院大学、横浜市立大学、國學院大學、
神奈川大学 (2018年～)、明治学院大学

国際協力や国際交流の実務を体験することにより、大学で修得した学問と実務機関での実践の融合を図り、将来、国際性豊かな資質を持ち世界的な問題を視野に入れて活動することができる人材育成を目的とする。

実務体験は、夏期と春期に行われ、派遣国際機関は6大学の中で分けられ、2018年度夏期は国際連合世界食糧計画(WFP)協会と国際熱帯木材機関(ITTO)へ1名ずつ、春期は国際連合食糧農業機関(FAO)へ1名の派遣が本学の割り当てとなった。

国際機関でのインターンということで、派遣学生の英語力については、「TOEIC650点程度」と明記されているものから、「ある程度の英語力」「英語環境に抵抗のない方」という表現になっているものもある。今年度の夏期は、2名派遣できたにもかかわらず、TOEICやTOEFL高得点の学生が応募者の中におらず、ITTOへの派遣は辞退せざるを得なくなった。その反面、春期は1名のみの派遣に対し、高得点の応募者が数名いたことから、この得がたきすばらしい機会を効率よく提供できないことに残念さが増した。

このプログラムに参加した学生たちが体験を終えた後、一回りも二回りも成長するため、今後に向けて、割り当て人数分派遣できるよう対策を講じたい。

(職員 北野順子)

◇派遣学生からの報告

※春期プログラムの報告は、2019 年度報告書に掲載予定です

活動先	特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画（WFP）協会
活動期間	2018年8月1日（水）～9月20日（木）
活動内容	1. 資金調達 2. プライベートセクターとの協働 3. 広報・情報発信

実施概要

2018年の夏休み期間中に国連 WFP 協会で 100 時間の実務体験を行った。

100 時間の中で、すべての部署での実務を体験することができた。デジタル寄付キャンペーンの企画や企業訪問、Facebook や Twitter に掲載する写真の選択、英語から日本語への翻訳を含む SNS への投稿準備、そして Face to Face（街頭でビラを配りながら毎月定額寄付をしていただくマンスリーサポーターを募ること）など非常にさまざまな仕事に携わることができた。他にも国連大学で行われた WFP キャリアセミナーのサポートも行った。

感想・活動を通して得た学び

駅で Face to Face を行った際、私が思った以上に国際問題に興味・関心を持っている人が少ないと痛感した。

デジタル寄付キャンペーンの企画は、一人では到底思いつけないようなアイデアが他のインターン生との協働により生まれ、改めてチームワークの大切さに気づかされた。

私はもともと人前で話すことが苦手であったが、この実務体験では人前に立つ機会も多く、チャレンジな場面も多かったため、苦手克服につながった。

主体的に学ぶことや、相手のことを調べ、相手の意見に耳を傾けたうえで質問を投げかけることの大切さも学んだ。

今後に向けて

エレベーターの乗る位置や、会議室の座る位置、目上の方とのメールの仕方など学生生活では学べないが、社会人になったらすぐに必要とされるスキルを身につけられたと思うので、これらを今後生かしていきたい。

他にもさまざまな職歴を持った方とお話しさせて頂くことができ、ある職に就いても、生涯その仕事しか知らずに生きるのではなく、さまざまな職業を体験していけると実感できたので、初めから理想の仕事に固執せず、柔軟に自分の将来や就職を考えていきたいと思う。また CSR 活動という言葉も初めて知り、就職活動をする際の一つの指標にしたいと思った。

(法学部政治学科)

10 ボランティアファンド学生チャレンジ賞（育成・支援プログラム）

職員総括

2017年度のボランティアファンド学生チャレンジ賞では、スタートアップ部門3団体、ジャンプアップ部門3団体、計6団体が助成対象となった。本報告書の活動内容からわかるように、ライブパフォーマンスの実施から海外の子どもたちの支援まで、幅広い活動が行われた。日頃ボランティア以外の活動を行っている団体もあり、彼らが積極的に社会のニーズを探り、企画の実施やその後に報告会を行うなど、本制度によって学生たちの活動が広がりを見せたことは嬉しい。

2018年度は8団体が受賞となっている。採用段階で1年生中心の団体も多く、実現に向けて不安要素もあることから採用までに何度か面接を重ねることもあった。しかしどの企画もキラキラと輝く学生らしいやる気に満ちているものがある。企画を立てた時の熱量を継続し、ぜひとも活動を実現させて欲しい。約半年後、どのような社会貢献活動の報告がなされるのか、今から楽しみである。

さらに2019年度は年間を通じて応募ができる新たな制度「いつでもボランティアチャレンジ」がスタートする。身近な社会的ニーズに気づき、自ら企画したボランティア活動をしたと思ったその時に、いつでも応募できる新たなボラチャレの制度である。活動費がない、どうしたらよいかわからない、でも社会のために何かしたい、そんなやる気を持った学生たちに本制度を、そしてボランティアセンターをどんどん活用してもらいたい。

（職員 金子美咲）

10.1 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2017 活動報告

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞（通称：ボラチャレ）2017」の募集テーマは「社会課題にチャレンジ!」。審査の結果、以下のプロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2018年9月末日までそれぞれの活動を行った。

●2017年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
FYS ライブパフォーマンス	For Your Smile
1日のできる手話講座	ハム
Do for 子ども食堂	E.S.S.地域貢献部

●2017年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
人と犬、つなぎ・つながるプロジェクト	MG ハロードッグ
学生のチカラで、笑顔“ニユンニヤム”を守ろう、広げよう!	ニユンニヤム
三つ折りパンフレット	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association

このうち、ジャンプアップ部門3団体の活動について、学生に報告してもらう。命をテーマに人と動物との関係を考えるもの、国際的な課題解決のため継続的な支援を目指すもの、自団体の活動を見つめ直すことで新たな活動への足懸かりにするもの、それぞれの社会問題に取り組むべく、課題と向き合った。



※スタートアップ部門3団体の活動報告はボランティアセンターウェブサイトで紹介しています。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/activity/program/challenge-award/news/2017startup-houkoku.html>

◇身近な存在だからこそ

プロジェクト名	人と犬、つなぎ・つながるプロジェクト
団体名	MG ハロードッグ
企画の目的	動物愛護の啓発・理解

実施概要

戸塚まつりでの企画、長期休暇中の4泊5日の現地調査、週に1度のミーティング、この三つを柱に活動した。

戸塚まつりの企画では、犬用おもちゃ作り、塗り絵、犬の殺処分に関する絵本の紹介を通して、犬の殺処分の実態を一人でも多くの方に知ってもらおうと啓発活動を行った。戸塚まつり参加者は地域の方が多く、また年齢層も幅広いことから、誰にとっても伝わりやすいことを意識し取り組んだ。

現地調査では、動物愛護のNPO法人に受け入れていただき、保護犬のお世話を中心に活動した。また、事前学習では、保護犬との関わり方などについて話し合った。事後学習では、感じたことや反省をまとめ報告書を作成した。

ミーティングでは、企画の計画を立てることはもちろん、動物愛護の知識を深めるために話し合いを行った。

主に三つの活動で、学んだことを活動に生かす、活動で生かすという循環を途切れのないようにした。



感想・活動を通して得た学び

まず、約1年間MGハロードッグとして活動を続けたことで、メンバー自身が動物愛護について関心を深めたこと、関心を持ち続けることができたことはとても意味のあることだと感じた。社会課題に対して常に関心を持つことは、簡単そうで難しいと改めてこのプロジェクトを通して感じた。

活動によって、感じたことや学びはそれぞれだが、今回のプロジェクトで一貫して考えさせられたことがある。

それは「命のおもさの伝え方」についてだ。動物愛護をテーマにした時点で命のおもさを考えることは



重要になるが、今回、その伝え方の難しさを感じた。例えば、殺処分を伝えるとき、よりリアルに現状を伝えようとすると、犬が「死」んでしまうや、「殺」すという言葉が出てくる。しかし、「死」や「殺」は残酷な文字であり、人によってはそのエピソードがトラウマになってしまう危険性もある。これに気づいた時、私たちの扱う社会課題がどれだけ重要で、慎重に取り組まなければいけないことなのかを学んだ。

今後に向けて

1度始めたからには活動を継続させていきたいと考えている。そのために、組織の基盤を固め、活動目的をメンバー全員意識するようにする。また、今回学んだ「命」をテーマに扱うことについて、メンバー間だけでなく、さまざまな人の意見を参考にさせて頂くことも重要だと感じている。反省を生かし、今後もより良い活動を目指す。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇継続的な支援のため

プロジェクト名	学生のチカラで、笑顔“ニユンニヤム”を守ろう、広げよう！
団体名	ニユンニヤム
企画の目的	チャイルドケアセンターの子どもたちの支援

実施概要

- (1) 12月に、チャイルドケアセンターの子どもたちにクリスマスプレゼントを送った。
- (2) 夏休み・春休みを利用して、メンバーの数人がカンボジア YMCA へ渡って現地のニーズに合わせて活動を行った。子どもたちが安心して食事ができるようにコンクリートの足場やキッチンを作ったり、村で買った苗を植える花壇を作ったり、遊具を手作りしたりした。
- (3) 企業訪問・インタビューまでには至らなかったが、勉強会も数回行うことができた。また、戸塚 YMCA の幼稚園で1日体験させていただき、日本とカンボジアの幼稚園・子どもを比較することで、幼稚園の発展段階を学ぶこともできた。
- (4) カンボジアでの活動を写真と一緒にまとめたパネルを横浜図書館とボランティアセンターにて展示した。



感想・活動を通して得た学び

カンボジア YMCA の子どもたちが使えそうな古着や文房具などを集めた際に、いかに自分たちがモノに溢れた生活をしているかを改めて感じた。そこから、無駄遣いや衝動買いを抑え、長く使えるモノを選ぶようになるなど、自分の生活の見直しにもつながった。また、戸塚 YMCA の方にもご協力いただき、カンボジアに行く際



と一緒に持って行っていただいた。

カンボジアに行くメンバーが中心となって、チャイルドケアセンターの先生と連絡を取り続けていた。その都度、何が必要なのか、何をしたら喜んでもらえるのかを尋ねては、子どもたちがどういった問題を抱えながら生活しているのかを知ることができた。また、訪れた際には、村で備品を購入することで現地でお金を使うようにした。どんな形でも人とのつながりがボランティアのエッセンスなのかなと感じた。

感想・活動を通して得た学び

現地に行って作業をすることができれば、フィールドスタディ中に感じた人手不足を直接的に支援することが可能だ。しかし、時間や費用といった問題で、カンボジアを訪れることは容易ではない。よって、日本にいてできることの幅を増やすことが今後の課題になると考える。ただモノを集めたり買ったりして送るだけで解決するのではなく、「関わること」で解決ができるようになりたい。また、依存性のある解決策ではなく、子どもたちの自立を支援できる形態でなければならぬと思う。学生のチカラで何ができるかについて、継続的に考えて取り組んでいきたい。

(国際学部国際学科)



◇明治学院大学ボランティア団体広報力&つながり向上計画！！

プロジェクト名	三つ折りパンフレット
団体名	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association
企画の目的	団体の広報力の向上、活動に対するモチベーションの向上、学生団体のつながりの強化

実施概要

- ・三つ折りパンフレットの作成
- ・ボランティアについて考える学生交流会の実施

感想・活動を通して得た学び

- ・三つ折りパンフレットの作成

今回、新たに三つ折りパンフレットを作成することによって、どんな情報をパンフレットに掲載すべきか、初めて私たちの団体を知る人にとってどんなレイアウトが適しているのかを考え直す良い機会となった。また、作成の際に他団体の広報媒体を参考にすることで、私たちの団体の活動との比較や評価にもつなげることができた。

- ・ボランティアについて考える学生交流会の実施

この企画は、元々、私が所属している団体に対する問題意識から企画立案に至った。学年が上がるにつれ、ボランティア活動をするための準備やミーティングの時間を業務や作業と捉える人が増え、

本来自分がなぜボランティアをやっているのか忘れてしまい、学生らしい熱を失っていると感じた。そのため、ボランティアをやりたいという思いの原点に戻るような企画を立案した。

参加者からは、「ボランティアをする一人の学生として交流会に参加することで、改めて自分の思いを仲間に伝える機会となった」「責任を改めて実感できた」「いつも一緒にいる仲間の本心を聞け、新たな発見があった」との意見をもらった。

私自身も、この会を通して、自分が誰のために、なぜボランティア活動をやっているのかを再認識する機会となり、同じ団体のメンバーの思いを知ることによって、より良い企画を立案したり、実施するためのモチベーションの向上につながった。心から実施して良かったなと思った。

今後に向けて

・三つ折りパンフレット

2018年11月より随時、学内、参加したイベントや訪れた高校等で配布した。今回作成したパンフレットが私たちの団体を知るための第一歩となり、そこから私たちの団体のHPやFacebookへアクセスするための機会としたい。そのため、三つ折りパンフレットを作成したことに満足するのではなく、各SNSやイベント、講演会での団体の広報にも力を入れていきたい。

・ボランティアについて考える学生交流会

今回立案したような自分自身を見つめ直す機会のニーズを、実際に企画実施することで知ることができた。このような会は、一緒に活動しているメンバーを知るためにもとても重要だと思ったので、団体内での実施も考えている。今回の参加者から、学年別や団体代表等役職別での企画実施も得ることが多いのではないかとアドバイスがあったので、今後の企画立案の参考にしていこうと思う。



また、今回参加してくださった方々と今後も関われるように、必ず1年に1回集まる機会を作りたいと思っている。

(国際学部国際学科)

10.2 ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2018 採択団体一覧

2018年度の募集は「社会課題にチャレンジ!」をテーマとし、書類審査・面談を経て8プロジェクトが採択された。各受賞団体に奨励金が授与され、2019年9月末日までそれぞれの活動を行う。各団体は、部門によって活動報告会での発表や活動報告書を提出し、今後につなげるため自分たちの活動を振り返ることが求められる。

●2018年度助成企画【スタートアップ部門】

プロジェクト名	団体名
「できない、やらないのは子どものせい」と思ったあなたへ	小林潤一郎ゼミ
ペットボトルキャップ回収公演	D (アート団体)

●2018年度助成企画【ジャンプアップ部門】

プロジェクト名	団体名
全ての犬の幸せの輪を広げるプロジェクト	MG ハロードッグ
YOUは何しに東南アジアへ?	明治学院大学任意団体 NPO 法人 JUNKO Association
『吉里吉里から』を更新し、現在の吉里吉里を知ってもらおう	「Do for Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム
郡上おどり in 戸塚	郡上おどり in 戸塚 学生実行委員会
「HEIWAの鐘」を響かせる	Light House
MG Closet	MGC

11 Gakuvo Style Fund (育成・支援プログラム)

職員総括

Gakuvo Style Fund は早いもので5年の節目を迎え、次のステップに進むために運用を考える時期を迎えている。

第4回採択団体による「活動報告会」は、2018年5月20日(日)に日本財団本部に55団体を迎えて開催された。報告会では毎回いくつかの団体に1年間の活動を15分程度でプレゼンしてもらう時間を設けている。今回は提出された活動報告書とGakuvo ホームページに都度アップしていたWEB報告をもとに、顕著な活動を展開した1団体にのみ事前にお願ひし、あとは当日抽選で3団体を決めるという方法を取った。事前連絡の団体以外すべての団体にプレゼンテーションの可能性があったわけで、緊張感は相当なものであっただろう。しかし、折角プレゼンの準備してきたのに……と若干の不満も聞かれた。活動報告会では意図的に休憩時間を多く取り、団体間交流をしやすい環境を用意した。そうしたところで自己紹介を兼ねて活動の成果を披露して欲しかったのだが、このあたりは事務局としては検討課題であると言える。

活動報告会開催後は第5回採択団体の選考である。第5回の募集に先立ち新たな試みとして応募を検討している団体を対象に「事前説明会」を開催した。これまでは事務局への電話かメールでの問い合わせへの対応のみであったが、直接事務局からGakuvo Style Fund が求めるものや審査のポイントをお伝えできたこと、個別に不明点を直に聞いて不安解消できたことは出席者にとって有意義であったと思われる。7月29日(日)に開催されたプレゼン審査会を経て、27団体が採択された。採択率は33.8%で第4回の52.3%と比較すると厳しい結果となった。特にこれまで連続して採択されてきた団体が採択率を押し下げている。継続して採択されるには前年を越える活動内容が求められるが、残念ながら前年継続の域を超える団体が極めて少なく、見送らざるを得なかった。採択団体の活動については以下のWEB報告で確認することができるため個々の紹介は省くが、少数精鋭の言葉があてはまるように、現場で体感したいと思わせる活動がいくつも見られるのは頼もしい。

<http://gakuvo.jp/katsudou2018/>

この原稿締め切りの段階において、助成対象となる活動期間が終盤を迎えている。採択団体が事務局の期待に応える活動報告を届けてくれることを期待する。(職員 波多野洋行)

●2018年度「Gakuvo Style Fund」の主な活動

日にち	内容
5/20(日)	第4回活動報告会
6/2(土)	第5回説明会
6/1(金)～6/15(金)	第5回募集期間
6/16(土)～7/10(火)	第5回一次審査期間(書類審査)
7/11(水)	第5回一次審査通過団体通知
7/29(日)	第5回プレゼン審査会(「こらほ」「ばかほ」のみ)/事務説明会
8/3(金)	第5回審査結果発表
8月下旬	第5回採択団体の指定の口座宛に協賛金振込
8月～2019年3月	第5回活動期間/活動ウェブ報告期間(活動報告会は2019年5月実施)

Ⅱ 新入生アンケート

新入生のボランティア意識とセンターの課題

－「2018年度 新入生ボランティア活動アンケート」

1. 調査の概要と結論

ボランティアセンターでは、2001年度から、新入生のボランティアへの意識などを把握するためのアンケートを毎年4月の学科ガイダンス時に実施している。2018年度調査では、2,711人から回答を得た（入学者総数は2,840人）。有効回答率は95.5%で、昨年度から6.6ポイント上昇している。

全体として 例年から大きく変わった点はないが、2017年度はボランティアへの関心が近年の中で高い傾向が見られたものが、2018年度は一昨年度以前に戻っている。たとえば、「大学時代にボランティア活動を通して学ぶこと」に「大いに興味がある」もしくは「興味がある」の回答の合計割合は、2014年度66.1%、2015年度65.5%、2016年度64.5%から、2017年度は73.4%へと上昇し、2018年度は68.1%に戻っている。アンケートの実施方法などとの関係で、2017年度は回答率が少し下がったのに対して今年度はかなり高くなっているため、その影響を受けた可能性が高い。

この10年間の経年変化として、大きな変動や傾向を指摘できる項目はほとんどないが、唯一「大学時代にボランティアに参加したいと思いますか」については、「はい」という回答が長期的に増加している。それは、2008年度の61.2%から2011年度に70.2%に上昇し、2014年度からは75%程度が継続している。2018年度も75.3%だった。災害や社会問題が多発する中でボランティアへの関心が高いところで維持されているとは言えるだろう。ただし、これには二つの留保が必要である。第一に、「これまでボランティア活動に参加したことはありますか」という問いへの答えは上記と逆の動きであり、2009年度までほぼ50%ずつだったものが、2010年度から2012年度にかけて「いいえ」の割合が増加し、近年では参加経験者45%程度が続いている（2018年度は、「参加したことがある」44.5%、「いいえ」55.4%）。第二に、ボランティアの個別プログラムに関する問いを見ると、積極的な関心・参加志向ではなく、内容や条件をみて、といった、やや消極的・受動的な参加志向を指摘できることである。ボランティアへの認識や一般的評価は広がっているものの、個人にとっての位置づけが相対化されやすくなっているとも言えるのかもしれない。

本学でのボランティア経験への導入的な機能を果たしている「1 Day for Others」への参加希望者は、「参加する」194人（7.2%）、「できれば参加してみたい」949人（35.0%）、「情報を確認してから参加を考える」1,351人（49.8%）、「参加しない」166人（6.1%）となっている。昨年度に比べると、前2者が減少し、「情報を確認してから参加を考える」が増えている。

一昨年度にプログラムが開始して、アンケート項目にも加えられた「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」への参加希望についても、「参加する」と答えた学生が67人（2.5%）と、前年度129人（4.5%）から減少し、一昨年度の69人（2.4%）に戻っている。「できれば参加してみたい」は650人（24.0%）と、やはり前年度の898人（31.5%）から減り、「情報を確認してから参加を考える」は1,686人（62.2%）と前年度の1,523人（53.5%）から大幅に増えた（2017年度とほぼ同じ）。

これらは、2018年度のプログラム参加者が2017年度より少し減った傾向とも一致している。一昨年度以前に戻ったという見方もできるが、ボランティアに関心はあるもののそれほど強い意志はない、という学生が増えている可能性もある。ボランティア自体に積極的な学生を対象としてプログラムの充実を図るのか、広く多様な関心をもつ学生にとって魅力を増すようにプログラムや広報の豊富化をめざすのか、ボランティアセンターとしてのプログラムの位置づけを確認してもよいかもしれない。

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験

大学入学前のボランティア活動への参加については、上記のように、参加経験のある人が44.5% (1,206人)、ない人が55.4% (1,502人)と、わずかに「ない」が上回っている。この10年の経年変化をみると、2009年度から12年度まで参加経験者の減少傾向にあったものが、2013年度から増加に転じており、2018年度はこの5年間のほぼ中間に位置する。

男女別では、参加経験のある割合が女性49.0% (845人)、男性36.4% (358人)と、女性の方が明らかに多い。この傾向は、昨年度以前から変わらない。

活動の内訳をみると、複数回答を含めた延べ回答数を母数として (N=1,685)、「環境」(20.3%)、「子ども」(19.2%)、「社会福祉」(17.5%)、「まちづくり」(14.5%)の順である。順位は年度によって入れ替わるものの、この4分野が多くを占める傾向はこの数年来変わっていない。活動内容は、属性による違いも比較的明確である。たとえば、男性は「環境」が多いのに対して、女性では「子ども」「社会福祉」が環境より上位に来る。学科別では、経営、社会福祉、法律、政治、国際の各学科で「子ども」もしくは「社会福祉」がトップである。とくに、教育発達学科では「子ども」が33.3%と全体の3分の1を占める。また、芸術学科では、「まちづくり」がトップで22.3%を占めている。

(2) 大学におけるボランティア活動に関する希望

ボランティア活動を通して学ぶことへの興味は、「大いに興味がある」527人 (19.4%)、「ある」1,320人 (48.7%)、「どちらともいえない」645人 (23.8%)、「あまりない」167人 (6.2%)、「全くない」41人 (1.5%)と、昨年度ほどではないとはいえ、大きく興味がある方に偏っている。ただし、ボランティア活動に関するニュースへの興味になると、「大いに興味がある」278人 (10.3%)、「ある」1,195人 (44.1%)、「どちらともいえない」943人 (34.8%)と、中間的な回答の割合が増える。これも例年の傾向であると同時に、やはり、前年度に比べると「興味ある」の割合が減少している。

より細かく見ると、「ボランティア活動を通して学ぶこと」と「ボランティア活動に関するニュース」の回答が同じ人が圧倒的に多いのだが、「活動を通して学ぶこと」に「大いに興味がある」学生527人中で、「ニュース」にも「大いに興味がある」のは49% (260人)で、「ある」44% (232人)との差は少ない。それに対して「活動を通して学ぶこと」に興味がある学生1,320人中で、「ニュース」に「大いに興味がある」は16名 (1%)に過ぎず、「ある」876人 (66%)、「どちらともいえない」369人 (28%)である。このように、自ら情報を求める姿勢が活動への興味より減退する傾向は明らかである。

「大学時代にボランティア活動に参加したいと思いますか」については、全体でも2,041人 (75.3%)が「はい」と回答し、とくに「ボランティア活動を通して学ぶこと」に興味がある1,847人 (=「大いに興味がある」と「ある」の合計)の9割以上が「はい」と答えている。

参加したい理由は、第一位が「新しい出会いや経験を得たい」(54.5%)で、以下、「ものの見方や考え方を広めたい」(43.6%)、「地域や人のために役立ちたい」(38.6%)、「知識を広げたい」(38.0%)、「授業では得られないものを学びたい」(35.1%)などと続く。この傾向は、近年それほど変わっていない。なお、「ボランティア活動を通して学ぶこと」への興味の強い学生ほど挙げている理由を探すと、その関係がもっとも分かりやすいのが「地域や人のために役立ちたい」であり、次に「授業では得られないものを学びたい」であった。他の参加理由については「ボランティア活動を通して学ぶこと」への興味が「まったくない」学生でも少しは挙げるなど、わずかな逆転が見られた。

(3) 関心分野

多くの新入生が複数の分野の活動に関心を示している。「どのようなボランティア活動に関心があるか」を複数回答で質問した延べ回答数は、分野数で 10,656 となった（「異文化交流」と「国際協力」の両方に関心があると答えても「国際分野」1つとするなど、回答欄と分野数は一致していない）。平均すると、一人につき 3~4 分野が挙げられた計算になる。関心のあるボランティア活動分野は、上位から順に「国際」（14.9%）、「まちづくり」（11.5%）、「子ども」（11.0%）「環境」（11.0%）、「文化」（10.6%）、「スポーツ」（8.4%）、「被災地支援」（8.1%）、「社会起業・社会貢献」（7.3%）、「社会福祉」（6.7%）、「心理」（6.1%）、「ボランティア活動支援」（4.4%）と続く（百分比は延べ回答数 N=10,656 を母数とする）。こうした分野別の傾向は 10 年間を通してほとんど変化がないが、「国際」「環境」「子ども」など上位分野の回答割合がわずかに減少している。関心分野の多様化なのか、一時的なものなのかは判断しづらい。

男女別およびボランティア活動参加への興味による差はほとんどなく、とくに上位にあがるものはほぼ同じである。それに対して、学科別の多様性ははっきりしている。学科別の第一位が「国際」以外の分野であるところを見ると、芸術学科では「文化」（119 人）が、経営学科では「まちづくり」（91 人）、社会福祉学科では「社会福祉」（159 人）、消費情報環境法学科では「環境」（113 人）、心理学科では「心理」（78 人）、教育発達学科では「子ども」（107 人）となっている。当然とはいえ、学科に関する関心との重なりが顕著である。詳述の余裕はないが、たとえば「国際」分野の中でもほとんどの学科で「異文化交流」がトップを占めるのに対して、政治学科では僅差ながら「国際協力」が「異文化交流」を上回るなど、分野内での細目でも学科の特徴が際立つ。

(4) ボランティア活動の認知度

「明治学院大学のボランティア活動について知っていたか」という問いへの肯定は 49.5%（1,342 人）、否定は 50.3%（1,363 人）とほぼ拮抗している。2016 年度から「知っていた」割合が減少し続けており、ついに過半数を割った。受験全体の動向による影響が大きいので単純には言えないが、やはり少しずつ消極化・受動化の傾向が見られるのかもしれない。情報源が「大学ホームページ」次いで「オープンキャンパス」に偏るのは例年のままである。

(5) 「1 Day for Others」と「教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の参加希望

「1 Day for Others」と「教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」への参加希望については、上記の概要に示した通りである。いずれも例年通りなのだが、前年度に比べるとやや消極的で、とくに「参加する」という明確な意思が、「1Day」で 97（291→194）人、「サティフィケート・プログラム」で 62（129→67）人と大きく減少したのが気になるところである（ただし、2016 年度はそれぞれ 189 人と 69 人と今年並み）。

「ボランティア活動を通して学ぶこと」への興味の有無が、これらのプログラムへの参加希望に大きく影響しているのは当然であり、これは、男女別や学科別の違いにもかかわっている。その中で、活動への興味が「大いにある」学生の間でも、サティフィケート・プログラムについては 4 割以上が「内容を確認してから」と回答していること、また、活動への興味が（「大いにある」ではなく）「ある」学生の間では大多数が「1 Day」について「できれば参加」もしくは「情報を確認してから考える」と回答していることも目に付いた。ボランティアにそれなりの興味をもつ学生が入学後に具体的な活動内容を知る機会を増やすと、ボランティア活動と自身の学科での学習をつなげやすくなるのかもしれない。

（ボランティアセンター長補佐 藤川賢）

Ⅲ ボランティアセンター資料

ボランティアセンターの活動にご協力くださった皆さま

- ・ 明治学院大学同窓会
- ・ 明治学院大学保証人会
- ・ 明治学院同窓会ウィメンズクラブ「くらら会」
- ・ 明治学院大学戸塚まつり準備会
- ・ 明治学院大学ハロプロ研究会
- ・ 河合克義研究室卒業生一同
- ・ 個人1名（氏名非公表）

上記の皆さまよりご支援を頂戴しました。

2018年度マスコミ報道一覧

日付	媒体名	内容
4月10日	岩手日報	「経営者の心意気紹介 岩手大生ら『アバッセ』ブログ解説」
4月10日	東海新報	「まちの核 地元内外にPR アバッセ紹介のブログ 店主の『歩み』も掲載 岩手大、県立大生ら作成 陸前高田」
4月10日	Web 東海新報	「アバッセたかたを紹介、岩手大・県立大生らブログ作成／陸前高田」
5月24日	タウンニュース 戸塚区版	「明治学院大学学生団体 学内で『子ども食堂』 地元住民との交流ねらう」
5月31日	朝日新聞 大学力2018	「大学のいま 『他者への貢献』が育む 強くしなやかな知性」 杉山恵理子センター長のインタビューが掲載
6月13日	朝日新聞	ひらけ！進路・新路・針路「難民・差別…学びを行動へ 社会問題、本音で議論」 猪瀬浩平センター長補佐の指導科目「ボランティア学7」が取り上げられる
10月10日	神奈川新聞	「レモネードで少数民族の女性支援 明治学院大『国際ガールズ・ウィーク』活動」
10月11日	朝日新聞	「(Dear Girls) 途上国支援を契機に『偏見や格差考えて』」
10月21日	神奈川新聞 ニュース カナロコ	「奉仕の心、20年の歩み 明治学院大ボランティアセンター記念イベント」
10月21日	神奈川新聞（朝刊・地域面）	「明学大ボランティアセンター20周年 活動振り返り思い新た 横浜・戸塚で記念イベント パネルで取り組み紹介」
11月8日	タウンニュース 戸塚区版	「人物風土記 設立20周年を迎えた明治学院大学ボランティアセンターの初代所長 加山 久夫さん」 「明学ボランティアセンター 20周年の節目を祝う」
11月22日	神奈川新聞 ニュース カナロコ	「『チャリティーサンタ人形』販売 飢餓に苦しむ人々支援 明治学院大の学生ボランティア」
12月7日	『HIP(エイチピー)』（神奈川新聞社発行）	大学探訪「学問へススメ」 猪瀬浩平センター長補佐の「ボランティア学」に関するインタビューが紹介される
2月10日	『大學新聞』第164号	「国際ボランティアの活動支援 書き損じ・未使用はがきを収集 明治学院大学」

※各年度の情報はボランティアセンターウェブサイトでご確認いただけます。

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/introduction/media/>

各委員一覧

2018年度ボランティアセンター運営委員

野 沢 慎 司 (副学長) 【委員長】
Charles Browne (文学部)
千 葉 正 憲 (経済学部)
渡 辺 雅 子 (社会学部)
西 村 万里子 (法学部)
久保田 浩 (国際学部)
谷 川 夏 実 (心理学部)
長谷部 美 佳 (教養教育センター)
岡 伸 一 (宗教部長)
大 平 浩 二 (教務部長)
亀ヶ谷 純 一 (学生部長)
武 村 美津代 (事務局長)
杉 山 恵理子 (センター長)
藤 川 賢 (センター長補佐)
猪 瀬 浩 平 (センター長補佐)
中 原 美 香 (ボランティアコーディネーター)
(~18年10月)
田 口 めぐみ (ボランティアコーディネーター)

2018年度ボランティア活動推進委員

杉 山 恵理子 (センター長) 【委員長】
高 倉 誠 一 (社会学部)
可 部 州 彦 (有識者)
谷 口 浩 一 (学外有識者)
唐 木 富士子 (学外有識者)
原 田 勝 広 (学外有識者)
藤 川 賢 (センター長補佐)
猪 瀬 浩 平 (センター長補佐)
中 原 美 香 (ボランティアコーディネーター)
(~18年10月)

2018年度ボランティアセンタースタッフ

杉 山 恵理子 (センター長)
藤 川 賢 (センター長補佐)
猪 瀬 浩 平 (センター長補佐)
波多野 洋 行 (次長)
中 原 美 香 (ボランティアコーディネーター)
(~18年10月)
田 口 めぐみ (ボランティアコーディネーター)
高 橋 千 尋 (課長)
松 本 剛 (~18年4月)
金 子 美 咲 (18年5月~)
青 木 洋 治
北 野 順 子
石 塚 美 香
町 田 理 美
大田垣 美 穂
蘆 田 早 帆 (~18年8月)
山 本 礼 音 (18年9月~)

明治学院大学ボランティアセンター規程

2001年 7月18日	大学評議会承認
2004年 5月19日	大学評議会承認
2004年10月20日	大学評議会承認
2005年10月 7日	常務理事会承認
2005年12月 9日	常務理事会承認
2006年 1月13日	常務理事会承認
2006年 7月14日	常務理事会承認
2010年 3月12日	常務理事会承認
2014年 3月14日	常務理事会承認
2018年 5月11日	常務理事会承認

(設置)

第1条 明治学院大学（以下、「本学」という。）に明治学院大学ボランティアセンター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、共通教育機関として、「他者への貢献」(Do for Others)の精神にのっとり、ボランティア活動を通じた人間教育を行うことを以て目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、以下の業務を行う。

- (1) サービス・ラーニングプログラムの企画、実施
- (2) 学生等に対するボランティアの立ち上げなど、学生の自主的活動の支援と助言
- (3) 地域や国際社会への貢献を目指し、社会との協働によるボランティアプログラムの開発
- (4) 学内外のボランティア活動に関する情報収集と学生への提供及び相談への対応
- (5) 教職員への情報提供とボランティア活動参加に関する機会提供
- (6) 本学におけるボランティア関連科目に関する協力
- (7) その他、学生等のボランティア活動の促進に必要な業務

(活動)

第4条 センターは、第2条の目的を達成するため、以下の学生の活動を支援する。

- (1) キャンパス周辺の地域に貢献する活動
- (2) ボランティア入門プログラムに伴う活動
- (3) 地震、津波、台風、洪水など自然災害に伴う被災地支援活動
- (4) 海外でのボランティア等に関する活動
- (5) 学外の人道支援機関、特定非営利活動法人（NPO）、企業等との連携活動
- (6) ボランティア参加への啓発活動
- (7) その他

(運営委員会規程)

第5条 センターの組織および運営に関する重要事項を審議するため、明治学院大学ボランティアセン

ター運営委員会を置く。

2 センター運営委員会規程は、これを別に定める。

(構成)

第6条 センターには次の職員を置くことができる。

- (1) センター長 1名
- (2) センター長補佐 若干名
- (3) ボランティアコーディネーター 若干名
- (4) 非常勤ボランティアコーディネーター 若干名
- (5) 事務職員 若干名

(センター長)

第7条 センター長は本学専任教員の中から、学長が任命する。その任期は2年とし、再任を妨げない。

2 センター長は、センターの業務を統括する。

(センター長補佐)

第8条 センター長補佐は、本学専任教員の中から、センター長の推薦に基づき学長が任命する。その任期は2年とし、再任を妨げない。

2 センター長補佐は、センター長の業務を補佐する。

(ボランティアコーディネーター)

第9条 ボランティアコーディネーターの任用等は、「ボランティアコーディネーター任用等に関する規程」による。

2 非常勤ボランティアコーディネーターの任用等は、「非常勤ボランティアコーディネーター任用等に関する規程」による。

(評価・評価委員会)

第10条 ボランティアコーディネーターは、契約更新時にセンター長の設置する評価委員会による評価を受ける。センター長は、その結果を学長に報告する。

2 非常勤ボランティアコーディネーターは、契約更新時にセンター長が設置する評価委員会による評価を受ける。センター長はその結果を学長に報告する。

3 前2項に基づき設置する評価委員会は、副学長、学生部長、センター長、センター長補佐、大学事務局長、その他センター長が指名し運営委員会の承認を得た者から構成する。

(活動推進委員会)

第11条 センターに、その事業の円滑な遂行を図るためボランティア活動推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

2 推進委員会は、センター長の諮問に応じて助言または提案を行い、推進委員によって構成される。

3 前項の推進委員は、ボランティア活動に識見を有する専任教職員、学生等、およびボランティア活動についての学外の有識者・実務家（若干名）からなり、その任期は2年とし、再任を妨げない。専任教職員にあっては、所属長の推薦により、その他の者にあっては運営委員会の議を経て、センター長が委嘱する。

4 センター長は、必要に応じて推進委員以外の者を陪席させることができる。

(学生メンバー)

第12条 センターの業務の遂行にあたって、センター長は、学生の参加と協力を求めることができる。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は、センター運営委員会の議を経て大学評議会および常務理事会の承認を得なければならない。

付 則

- 1 この規程は、2001年7月18日から施行する。
- 2 この規程の施行により、「明治学院大学ボランティア・センター暫定規程」は廃止する。
- 3 2002年4月1日一部改正施行(第3条第2項, 教養教育センター設置による。)
- 4 2004年4月1日一部改正施行(第3条法務職研究科設置および委員にセンター長補佐追加による。)
- 5 2004年8月1日一部改正施行(第4条ボランティア・コーディネーター, 事務職員数の変更による。)
- 6 2005年11月1日一部改正施行(第7条ボランティア・コーディネーター任用等に関する規程の新設による。第8条評価・評価委員会, 新設)
- 7 2006年1月1日一部改正施行(コーディネーターを運営委員会委員とする。非常勤コーディネーターを新設する。)
- 8 2006年1月1日一部改正施行(第7条2項非常勤ボランティア・コーディネーター任用等に関する規程の新設による。)
- 9 2006年4月1日一部改正施行(第3条事務局職制変更による)
- 10 2010年4月1日一部改正施行(基本理念作成委員会の答申に基づき, 第2条目的および第3条業務を見直し, 第4条運営委員会規程を別途新設し本規程から削除, 第5条センター長補佐の人数を変更, 第7条センター長補佐は専任教員の中から選する, 第9条2項に非常勤ボランティアコーディネーターの評価を明記, 3項の評価委員会構成メンバーにセンター長補佐を追加, 第10条4項推進委員会参加メンバーを弾力化する条文を追加)。
- 11 この規程は、2014年4月1日から施行する。(第3条3項, 第4条学生の活動内容の追加, 第5条3項の削除, 第11条2項, 第11条3項推進委員の学外有識者・実務家を2名から若干名へ変更, 第12条見出し変更)
- 12 この規程は、2018年5月11日から施行する。(第6条ボランティアコーディネーターの人数変更, 第10条評価を受ける周期の変更)

明治学院大学ボランティアセンター報告書 第15号 2018

発行 2019年7月26日

発行者 明治学院大学ボランティアセンター

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学白金キャンパス10号館1F

TEL 03-5421-5131 FAX 03-5421-5144

〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

明治学院大学横浜キャンパス4号館1F

TEL・FAX 045-863-2056

E-mail voluntee@mail.meijigakuin.ac.jp

<https://www.meijigakuin.ac.jp/volunteer/>

印刷 株式会社豊明社

本報告書の一部または全部を無断で複製、転載、販売、
ネットワークにより転送することを禁じます。